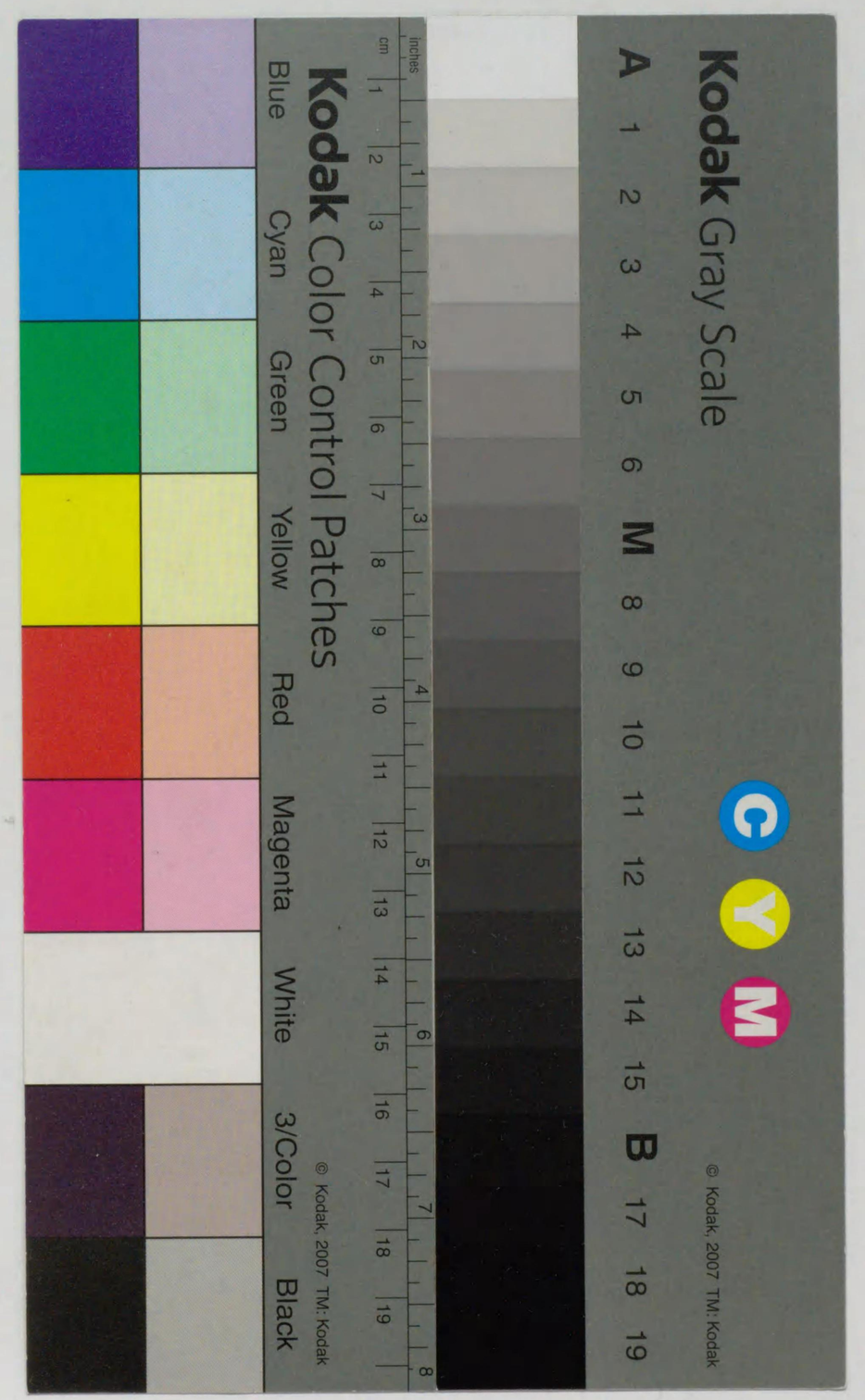
654
56

654-56
1200501571094



251

内務省
5.6.14
図書

文學
第4229
永久保存

續國譯漢文大成

經子史部
第十八卷

資治通鑑目錄 下卷

昭和十五年 第一回 帝國圖書

續國譯漢文大成

經子史部
第十八卷

資治通鑑目錄 下卷

昭和十五年 日本國民文庫

國譯資治通鑑目錄下

文學博士　加藤繁
公田連太郎　譯

卷の第十六

強圉單閼

梁高祖太清元

謝宣明謂ふ、盧陵王續、過有れば隱さずと。湘東王繹、續卒すと聞き、喜躍して屢〇破る。梁。二、戊辰。四、丁卯。六、丙寅。八、乙丑。十、甲子。十八、甲午の朔。東魏の侯景來降す。羣臣皆以爲へらく、受く可からずと。朱异獨り勸めて之を受けしむ。〇周弘正謂ふ、亂階、此に在りと。〇上、同泰寺に幸して捨身す。〇羊鴉仁等を遣はして侯景に應接せしむ。〇上、宮に還る。〇景、復た地を割きて救を西魏に求め、上に啓して自ら解き謝す。〇鄱陽王範に命じて穰城を擊たしむ。

魏文帝大統十三

東魏の侯景、河南に據りて來降す。梁に貳あり。〇景、梁、景を潁川に圍む。〇東魏、景を救を求む。復た四城を割きて救を求む。〇于謹謂ふ、景は姦詐なり。宜しく其爵位を厚くすべし。而して兵を遣はす勿れと。王思政謂ふ、宜しく機に因りて進取すべしと。遂に荆州の兵を以て之に赴く。安定公泰、乃ち李弼・趙貴を遣はして之を助けしむ。〇景、東魏の韓軌等引き退く。〇景、弼等と、互に相圍り、

東魏孝靜帝武定五

齊の獻武王歡卒す。祕して、喪を發せず。〇侯景、河南に據りて叛く。〇邢子才、景の兵を捕獲し、檄を東方の諸州に移す。〇陳元康、高澄が崔暹を殺すを諫む。〇澄、韓軌等を遣はして景を討たしむ。〇澄、段韶・趙彥琛を留め守らしめ、鄴に入りて晉陽を守らしめ、朝す。〇澄、元柱をして景を襲はしむ。柱、敗れて歸る。〇景、潁川を保つ。

○魏志に、正月己亥朔、食す。

○羊鴉仁、懸瓠に據る。○大舉して東魏を伐つ。○朱昇謂ふ、鄱陽王範、雄才有れども、元帥と爲す可からずと。○貞陽侯淵明・南康王會理を以て分ちて諸將を督せしむ。淵明復た旱と與に會理を譖して之に代る。○上謂ふ、荀濟、反を好む。用ふ可からずと。○濟、上が佛法を崇信するを諫む。上、之を誅せんと欲す。東魏に奔る。○蕭淵明、寒山に堰して以て彭城に灌ぐ。羊侃屢〻之に攻戰せんことを勸む。從はず。○侯景、梁人の深く入るを戒む。○東魏の慕容紹宗、蕭淵明等を寒山に擒にし、三萬人を失亡す。○上、敗を聞きて曰はく、吾復た晉家と爲る無きを得んかと。○紹宗、潼州に克つ。○侯景、元氏を立てて之を輔けんことを求む。詔して、元眞を以て魏主と爲す。○景退きて渦陽を保つ。馬の足を斫る。○○○景、專ら人の脛を斫る。○紹宗、慕容紹宗を敗る。○景、斛律光等をして、試に景を擊ち、渦水を過ぐる勿らしむ。○景、騎を帥ゐて水に入りて却き走る。草濕ひて、火、然えず。

皆、克たす。梁の兵將に至らんとす。○王思政、潁川に據る。景田懸瓠に屯す。○王思政を聞き、弼等還る。景、潁川に據る。景、乃ち悉く援兵を召す。○泰、韋法保等をして景を助けて戍守せしむ。王悅以爲へらく景は信す可からずと。泰、景を召す。至らず。○遂に叛きて梁に降る。景を誅せんこと裴寬、勸む。軍を分ちて景の七州・十二鎮に據る。泰授くるに鄭穆の官を以てす。受けず。○王思政、潁川を治むるとき、三千戶。數歲にして四萬戶に至る。

○韓軌等、景を潁川に圍む。○西魏の李弼等、潁川を救ふ。軌等引き還る。○澄、晉陽に還りて喪を發す。○澄、丞相を辭す。○齊の獻武王を發く。澄、齊に葬る。○齊の獻武王謂ふ、濟、宮に入らば必ず敗れんと。○濟曰はく、詔を奉じて高澄を誅す。何ぞ反すと謂ふ。○澄、温子昇を殺す。宋遊道、之を敗葬す。澄曰はく、人、卿に代りて怖ぢる者は、吾が心を知らずと。○梁の蕭淵明、彭城を圍む。○澄、高岳・慕容紹宗を遣はして彭城を救はしむ。○陳元康、澄に心を推して仍ほ金を用ひんことを勸む。○紹宗、盜を發く。澄、之を忌む。崔季舒をして帝を感たしむ。○荀濟等、地道を作りて澄を誅せんことを謀り、事泄る。澄謂ふ、帝、何意あり反するかと。遂に合章堂に幽す。

654
56

著雍執徐

梁。正、癸巳。三、壬辰。五、辛卯。七、庚寅。八、己丑。十、戊子。十二、丁亥。閏七、八、二日、秋分。○東魏、同じ。

二

紹宗、景を渦陽に敗る。○景、散卒を收めて八百人を得、南に走る。○羊鴉仁、懸瓠を棄て、羊思達、項城を棄てて還る。河南の地、皆、魏に入る。○劉神茂、景に說きて壽陽に據らしむ。○韋黯、城を開きて景を納る。○何敬容謂ふ、景死するは、朝廷の福と爲すと。又謂ふ、太子、玄虛を祖尙す。江南將に復た戎と爲らんとすと。○景、敗を告ぐ。復た以て南豫州の牧と爲す。蕭介、切諫す。○東魏の高澄、貞陽侯淵明をして帝に書を與へしめ、復た好を通ぜんことを求む。

十四

東魏の高岳・慕容紹宗等、王思政を潁川に圍む。○安定公泰、太子を奉じて西境を巡り、隴に登り、長城を歷、東のかた蒲州に至りて還る。○柳慶、泰が王茂を誅するを諫む。

六

安んず。○侯景、紹宗來ると聞き、驚きて曰はく、高王定めて未だ死せざるかと。○杜弼謂ふ、賞罰、失はざれば、自然に晝く美なりと。○紹宗豫め棄を戒むるに陽り敗るるを以てす。○蕭淵明等を寒山に擒にし、紹宗、俘斬三萬人。又、潼州に克つ。○杜弼謂ふ、梁に檄して謂ふ、侯景、當に復た梁の患を爲すべしと。○澄厚く蕭淵明に禮す。○慕容紹宗、景に敗らる。

○紹宗、景を渦陽に敗る。○紹宗謂ふ、景の衆、家屬竝に完しと。被髮して誓を爲す。○梁の戍將、城を棄てて走る。復た懸瓠・項城を得、盡く舊境を復す。○復た梁と好を通ず。○吏部尙書を假す。首者六萬餘人。○高岳・慕容紹宗等、○王思政を潁川に攻む。○徐陵、來聘す。○梁の南郊の道壇を罷む。

卷第一百六十一

○西魏、一日、秋分。○魏志に、七月庚寅朔、食し、西北に起る。

朱异、之を許さんと請ふ。傳岐以爲へらく、澄、侯景を間して禍亂を興さしめんと欲す。○侯景、東魏と和するを諫む。○朱异、景の金を納れ、其啓を通ぜず。景詐りて鄴中の書を爲り、貞陽侯を以て景に易へんとす。○傅岐謂ふ、景寧、手を束れて縶に就くを肯ぜんやと。景に反せんことを勸む。○王偉、李賁を斬送す。○賁の兄天寶、亂を作す。○徐陵、陳霸先、東魏に聘す。○侯景、王謝に娶らんことを求め、又、錦萬匹及び鍛工を求む。○王偉、景に謂ふ、坐聽するも亦死し、大事を擧ぐるも亦死せんと。○景、元貞に謂ふ、河北の事、果さずと雖も、江南何ぞ之を虞らんと。○臨賀王正德、怨望す。○景、陰に正德と相結ぶ。○鄱陽王範、屢〻景反すと啓す。朱异謂ふ、景反するを許さずと。○朝廷、一客有るを致す、朕の失なり。○景、壽陽に反す。帝笑ひて曰はく、吾、折箠を以て之を笞たんと。○王偉、景に勸む、淮南を棄てて直に建康を掩へと。景襲ひて譙州を取り、豐城侯泰を執ふ。○又、歷陽の莊鐵を攻めて之を降す。因りて景に說きて速かに建康に趨かしむ。

○辛衞、江淮の北を略し、二十三州を獲。○高澄、錢の重さ五銖ならざる者を禁じて市門に入るを得る毋らしめんと欲す。

○羊侃、急に采石に據らんと請ふ。朱异曰はく、景必ず江を渡るの志無からんと。侃曰はく、今茲敗れんと。○臨賀王正德、荻舡を以て景を濟す。○帝、王質を召して還らしむ。景、遂に采石より濟る。○朝廷、始めて戒嚴す。○江子一、敗れて還る。○太子、方略を稟受す。帝悉く軍事を以て之に委ぬ。○宮城を修め、敵を受くるの備を爲し、軍を分ちて屯守せしむ。朱异謂ふ、徐思玉は豈に刺客ならんやと。○賀季、兵を擧ぐるの名を問ふ。景曰はく、羊侃と爲らんと欲すと。○帝、守備を部分す。○庾信、甘蔗、手より落つ。○臨賀王正德、景を迎へて交〻揖して袍を反す。○西豐公大春、石頭を棄て、謝禧、白下を棄て走る。○景、于子悅をして石頭を守らしむ。○景、臺城を圍む。○帝、朱异を誅せんと欲す。太子、之を止む。百道、城を攻む。羊侃、之を拒ぐ。○景、其子を射る。○侃、莊鐵、歷陽に奔りて景の將を逐ふ。而も守ること能はず。○正德、帝位に卽き、正平と改元し、景を以て丞相と爲す。○景、東府を攻め陷れ、三千人を殺し、尸を棄めて城中に示す。

○太子、帝に城を巡らんことを請ふ。
○江景一兄弟死す。
○景初めて至る、三人戰軍令嚴整なり。攻めて克たざれば、乃ち暴掠す。米、升ごとに直七八萬錢。
○景、以下、土山を負ふ。皆、土を起す。城內、之に應じ、太子を以て儀同と爲す。
○景、朱异の奴を以て賚、百姓を奪はずんば、何くより得たるや。
○景、謂ふ、朝廷の之に啓して曰く、東魏主に說きて降を請はしむ。
○景、陳昕、范桃棒に說きて降を請はしむ。
○太子疑ひて、事を受け、社稷を爲す。帝、之を怒る。朱异、謂ふ、社稷の事は、去れりと。
○蕭見理、邵陵王綸を離にして死す。
○邵陵王綸、鍾離に至りて還り、走らんと欲す。安南侯駿、景を追ひて敗る。綸の軍遂に潰え、屯す。景懼れ、走りて京口に還る。
○霍俊、援軍を率ゐて至らんと。走りて還る。
○郗鑒、蔡州に軍す。
○陽平侯正表、廣陵を襲はんことを謀る。
○郗鑒、言ふ、嗣等、蔡州を破る。
○封山侯劉詢、卒す。
○羊侃、擊ちて之を破る。
○景、復た城を攻む。
○吳景、地樓・迂樓を作り、以て之を拒ぐ。
○景、作り、上り攻め、更に水を引きて城に灌ぐ。
○韋粲・裴之高・柳仲禮入り援く。粲、仲禮を推して大都督と爲す。之高、其子を射る。
○湘東王繹、江陵を發す。
○梅伯龍、壽陽を攻む。

屠維大荒落

三

梁。三、丙辰。五、乙巳。七、甲寅。九、癸卯。十一、壬子。の朔。

○魏、同じ。

○隋志に、正月壬午、熒惑、心を守り、丙子、三月、又、心を守る。十一月、丁卯、月食す。

韋粲の親戚數百人、同じく死す。
○柳仲禮、景を青塘に敗る。
○邵陵王綸、東方の諸軍と、皆至る。
○朱异卒す。
○正表、北徐州を以て東魏に降る。
○侯封山、太子、永福省に遷る。
○紙瑒にて敕を送る。
○李朗、請うて鞭を受けて啓を送る。
○郗鑒の世子嗣等、淮を渡りて東府を攻む。
○樊文皎、戰死す。是より、援軍、復た戰はず。
○柳仲禮、心を有る莫し。
○韋粲・裴之高・柳仲禮、傲慢にして、諸將更〻相猜阻し、戰心を有る莫し。
○援軍、掠し、士民、望を失ふ。
○顯野王、貴、壽陽を以て東魏に入る。
○王琳、兵を起して景を討つ。
○景、飯を以て馬を飼ひ、乾苦を分ちて戰士に給す。
○城中、食に乏しく、東城の米を取らんと欲す。
○景の軍、乃ち僞りて和を請ふ。
○上、曰はく、和するは死するに如かず。
○傳岐、請ひて之を許す。
○太子、固く請ふ、宣城は嫡孫なり。質と爲す可からず。
○景、克等を解かず、專ら鎧仗を修め、長圍を爲す。
○王琳、邀求稍く廣し。太子、米を運び、猶ほ羈縻して、絕たず。
○東魏、其の詐を知れども、
○南康王會理等の兵至る。景、其の白下よりして上らんことを恐れ、之を南岸に

十五

司馬裔、封を辭して曰はく、義士を賚りて以て榮を求む可からずと。
○東魏の高岳等、洧水を堰し、潁川に灌ぐ。王思政、之を守る。
○趙貴等、潁川を救はんとし、穰に至り、前むを得ず。
○東魏の慕容紹宗・劉豐生を獲。
○東魏の高澄、自ら潁川を攻む。
○代人に詔して舊姓に復せしむ。
○東魏、潁川を陷る。王思政、自刎せんと欲し、果さず。
○思政、八千人と與に城を守り、圍守すること朞年。存する者三千人、終に叛く者無し。
○崔猷、襄城に於て行臺を置き長社に州を置かんと欲す。
○思政、從はずして敗る。
○丞相泰、樂口等の諸城に命じて拔きて還らしむ。
○梁の蕭詧、來りて援を求め、附庸と爲らんと請ふ。楊忠等を遣はして之を救はしむ。隨郡を拔き、安陸を圍む。

七

梁の蕭正表、鍾離に據りて來降す。
○王顯貴、壽陽を以て來降す。
○東徐・南北青州・淮陽・山陽、皆、來降す。
○梁の蕭退、來奔す。
○梁の羊海、淮陰を以て來降す。
○高岳等、潁川を圍み、下らず。
○劉豐生、洧水に堰して以て城に灌ぐ。慕容紹宗・劉豐生、艦に乘じて城に臨み、風に遇ひて纜斷え、西魏に獲らる。
○高澄を齊王に封じ、殊禮を加ふ。
○陳元康、澄に謂ふ、未だ受く可からずと。
○元康、澄に說きて自ら潁川を攻めしむ。
○澄、潁川に克ち、募りて王思政を生致し、厚く之を禮す。
○盧潛謂ふ、思政、節に死せず、何ぞ重んずるに足らんやと。
○李伯穆、梁の合肥を取る。
○澄、鄴に入る。
○濟陰王暉業曰はく、曹馬の書を讀まずと。

○景、南兗・譙の二州を借らんことを求
む。○又、永安侯確及び趙威方を召して城に
入らしめんことを求む。確、入るを肯ぜ
ず。邵陵王綸、之を斬らんと欲す。
○湘東王蕭繹、武城に軍し、逃まず。蕭賁
謂ふ、繹都下を去らざらん。王、十萬
○又謂ふ、景必ず去らざらん。景、未だ賊を見ずして退くは、奈
何と。繹、之を殺す。○景既に米を得、王偉・臨賀王正德、景
に勸めて留まりて變を觀しむ。
○景、上の十失を陳ず。○渝景が盟を告ぐ。
○壇を立て、盟ふるを渝、腫死す
○城を圍む。八十餘萬、
○柳仲禮、傷を被り、壁を閉ぢ、敢て復
出でず。諸將、日々に、戰はんと請
ふ。許さず。
○南王會理等、東府の北に敗る。
○景、康和等、求め、而して且く京師に
○留まるを乞ふ。沈浚、之を責む。其書佐
○邵陵の世子、吏士を恤ま
○董勛等、夜、堅納る。
○豪城を陷る。曰はく、我より之を得、
帝景の兵なり。我、帝及び
太子、景を失ふ。何ぞ恨みんと。
○景自ら都督中外諸軍事と爲る。
○蕭允、書を倚ふ。尚ほ變ぜず。
○稱詔して利を援りて生ず。
○高祖、外力を解かしむ。
○裴之高、當に悉くして決戰すべ
し。是に於て、援軍

○太子長仁を立つ。
○澄、洋善く自ら晦匿す。
○奴蘭禪京を受け、之を殺し、并せて
○陳元康を殺す。謀反し、
○洋、兵を勒して賊を討ち
○樂安、私室に喜びて謂ふ、威
○帝曰はく、陽歸すべしと。
○帝、常に辭にして及び
洋が朕未だ死
の何日に帝曰はく、陽歸すべしと。威
と。
○勸貴、崔暹を惡み、洋に
○潘樂、之を黜けしむ。
○盡く襲ひて司州を取
り、淮南の梁の地を有つ。

各〻散じ還る。仲禮等入りて景を見る。
○柳津、哭して謂ふ、仲禮は我が子に非
ずと。
○景、臺內の積尸を燒く。
○臨賀王德、二宮を全くせざらんこと
を約す。
○景、正德を廢して大司馬と爲す。帝を
見て泣く。
○東徐州・淮陽・山陽、皆、東
魏に入る。南北青州・淮陽・山陽、皆、東
○魏景、蕭邕を遣はして京口に據らしめ、
○徐相を遣はして晉陵に據らしむ。
○張纘、河東王譽を惡み、之
を湘東王繹に譖して云ふ、譽兄弟、江陵
を襲はんと欲すと。繹、武城の步道より
奔り歸りて桂陽王慥を殺す。
○景、董紹先をして南康王會理を召さし
む。會理、廣陵を以て之に授く。
○湘潭侯退きて東魏に奔る。
○羊海、淮陰を以て東魏に降る。
○景、子悅を遣はして吳郡に據らしむ。
○戴僧逸、袁君正に說きて子悅を拒がし
む。
○劉方貴、樊城を以て岳陽王詧に叛く。
○詧、之を斬り、遂に張纘を擒にす。
○湘東王繹に制を承けて盟を主
○王沖等、許さず。
らんことを請ふ。
○帝、景に制せられ、而して內、平
かならず。遂に餒を以て殂す。
○太宗、位に卽く。
○景悉く北人の奴婢と爲る者を免ず。
○建康の豪貴、自ら出でて郢を采る。
○楊白華、來亮を殺し、江陵に附く。
○景、于子悅を誅す。

○張嵊、沈淺、吳興に據りて景を拒ぐ。
○景の號令の行はるる所、唯だ吳郡以西と南陵以北とのみ。
○○湘太子大王器を立つ。
○上甲侯韶、江陵に奔り、高祖の密詔を受くと稱し、繹を以て中外を都督し制を承けしむ。
○○○景、臨賀王正德を殺す。
○○○永安侯確、景を殺さんと謀り、克たずして死す。
○河東王譽、湘東王繹の調發を受けず。繹、世子方等を遣はして之を擊たしむ。
○○敗れて死す。繹、徐妃を殺す。
○○陳霸先、元景仲を殺し、蕭勃を迎へ、廣州に鎮す。
○○湘東王繹、之を擒にす。
○○湘東王繹、陶裕、亂を作す。霸先、王僧辯と共に湘州を伐たしむ。王僧辯、怒りを發せざるを未だ怒りを發せざるを怒り、劒を拔きて之を斫り、鮑泉をして湘州を伐たしむ。
○○宋子仙、陸緝を擊ちて之を走らす。
○○郡陽王範、合肥を以て東魏に奥へ、以て助を求む。魏、爲めに兵を出さず。範、兵を引きて尋陽に如く。景、出でて姑孰に鎮す。
○○○鮑泉、郭元建等、長沙を圍む。四十人、日を同じくして府を開く。
○○侯子嶷、吳興に克ち、張嵊を擒にす。景に就きて一子を存せんことを求めず。

○岳陽王詧、江陵を圍み、以て長沙を救ふ。
○湘東王繹、獄中に就きて、計を王僧辯に問ふ。詧に叛きて繹に降る。
○○○詧走りて襄陽に還る。
○詧、張纘を殺す。
○繹、王僧辯を以て鮑泉に代りて長沙を攻めしむ。
○莊鐵、尋陽を襲ひ、克たず。
○○○劉神茂、富陽を取る。
○百濟の使者、端門に哭す。
○○宋子仙、錢唐に克つ。
○岳陽王詧、援を西魏に求め、附庸と爲り妃及び世子を以て質と爲さんと請ふ。
○宋子仙、楊忠を遣はして之を救はしむ。邵陵王綸、鄱陽に奔る。
○宋子仙、南郡王大連を擒にす。三吳、皆、宋景に沒す。
○陳霸先、兵を始興に起し、以て景を討つ。蕭勃、之を止むれども可かず。
○○郡陽王範、隨郡を拔く。西魏の楊忠、溢城に至る。
○東魏襲ひて司州を取り、盡く淮南の地を有つ。

上章敦牂

梁。正、辛亥。三、庚

梁太宗綱大寶元

陳霸先、蔡路養を南野に破り、進みて南康に屯す。
○邵陵王綸、江夏に至る。南康王恪、推して盟主と爲し、制を承けて百官を置かし

十六

楊忠、梁の柳仲禮を灊頭に擒にし、悉く漢東の地を定む。
○忠、進みて江陵に逼る。梁の蕭繹、子方略を遣はして質と

齊顯祖洋天保元

丞相・齊郡王と爲る。
○又、爵を齊王に進めらる。
○高德政、禪を受けんこと

卷第一百六

走〇發〇往〇に〇〇〇通〇擊〇〇〇〇〇〇す〇く〇め し兵〇〇〇〇〇〇帝將〇り 郡を任ミ亜書編編編 5 洲 5 沙任慶保泰ー陵 し 約 し 、 、 、 、 し東で門約 、鴻陵流王て 、之 、 散夏書ヒ王之孫 、新 、王 南編之西に兵 卒口ヒ 。釋を天游益豫人 に 、を陽依を 至馬推を ら部 ヒ 。 解益邊の章心 ら 冊ゆ攻ず東 牧寨で僧 辯 祭 を 魏 。攻慶以 李至ね 。に し ど 起 す 。 南 海 王 釋 、 徐 交 盛 素り 、任 約に 敗 ら 。れ 、 ど 約 に 敗 る 。 ど 。 ど 。 ど

○侯景、位を相國に進め、漢王に封ぜらる。
○楊法琛、黎州に據りて魏に降る。
○景自ら宇宙大將軍・都督六合を加ふ。
○齊の辛術、陽平に寇す。郭元建、擊ちて之を却く。
○武陵王紀、諸軍を統べて成都を發す。
○王繹、書を以て止めて曰はく、地は淵東孫劉に擬し、情は魯衛よりも深しと。
○繹に相國を以て百揆を總べんことを請ふ。許さず。
○文盛、任約を貝磯に破る。
○徐文盛、熙に屯す。
○景出で晉・柳敬禮等、景を討たんこと王會理を謀り、事泄れて皆死す。
○南康王會理、卿に謂ふ、死を忍びて我を明かにすと。
○會理、諸に謂ふ、死は實に賊を殺さんと欲すと。
○景、盜を佛を禮して誓を爲す。
○景、帝と武林侯諮を殺さしむ。
○帝謂ふ、當に此下に死すべしと。
○景、宣城に克ち、楊白華を得、而も殺さず。
○武陵王紀、楊乾運等をして、楊法琛を擊たしむ。

重光二	
協洽	
梁。二、乙亥。閏三、	○魏の楊忠、汝南を拔き、邵陵王綸を執へて之を殺す。
十七	○帝殂す。太子欽立つ。
二	○突厥、昏を柔然に求むれど
百一第卷	

甲戌。五、癸酉。七、壬申。九、辛未。十二、庚子の朔。四、一日。
小滿。二、○魏。乙亥。四、甲戌。五、癸酉。七、壬申。十、辛丑。十二、庚子の朔。
閏四、五、二日、夏至。
○齊初めて天保曆を用ふ。二、乙亥。三、甲戌。五、癸酉。七、壬申。九、辛未。十二、庚子の朔。
閏二。三、一日、穀雨。

○湘東王繹、齊と好を結ぶ。
○楊法琛、敗れて平興に還る。楊乾運、追ひて之を破る。
○李遷仕、復た出でて南康を攻む。陳霸先、杜僧明等をして擊たしめ、之を斬る。
○徐文盛、武昌に克つ。
○齊、湘東王繹を以て梁の相國と爲し、梁臺を建てて制を承けしむ。
○侯景自ら衆を帥ゐて西上し、任約を援く。
○徐文盛等、景を蘆洲に敗る。
○景、宋子仙等をして江夏を襲はしめ、之を拔く。
○方諸踢・鮑泉腹、五綵を以て其須を辮し、皆、子仙に禽にせらる。
○景、江夏に入る。徐文盛等の諸軍皆潰ゆ。
○繹、王僧辯等をして景を擊たしめ、留まりて巴陵に屯す。
○繹謂ふ、景、巴陵を攻めば、下策と爲すと。景、果して之を攻む。
○王琳、其兄琦を責む。
○景、力攻して克たず。王僧辯、興に乘りて城を巡る。
○岳陽王譽、蔡大寶を奏して武寧に據らしむ。
○繹、兵を遣はして之を擊たんと欲す。乃ち退く。
○繹、胡僧祐を獄より出し、巴陵を救はしむ。
○陸法和、兵を引きて僧祐と合す。
○僧祐等、大に任約を赤亭湖に破り、之を禽にす。景、營を焚きて霄遁る。
○丁和、鮑泉を殺す。
○繹、王僧辯等をして兵を引きて東下せしめ、始めて之と絶つ。
○達奚武等、梁の南鄭を攻む。

らんことを求め、坐して官を免ぜらる。
○帝、晉陽に如く。
○魏の孝靜帝を殺し、又、其陵を掘る。
○元暉業、元韶は老嫗にだも及ばず、璽を負ひて人に與ふ、と罵る。帝、之を殺す。
○帝、韶の須鬚を剃り、粉黛を加ふ。

六十四

しむ。○陸法和、還りて峽口に屯せんと請ふ。○僧辯、魯山に克ち、江夏を圍む。○或るひと太子に勸めて北に走らしむ。太子曰はく、是れ父に叛く、賊を避くるに非ざるなりと。○僧辯、江夏に克ち、宋子仙・丁和を禽にす。○繹、江安侯圓正が衆心を得たるを忌みて之を囚ふ。○陳霸先、南康より、進みて西昌に屯す。○侯瑱、郭默城に、奔る。○王僧辯、盜城を下す。陳霸先、糧三十萬石を分ちて之を助く。○僧辯、郭默城及び尋陽・晉熙を拔く。○王偉、景に說きて帝を廢して豫章王棟を立てしむ。○侯瑱、豫章に據り、于慶を拒ぐ。慶、○王僧辯、盜城を下す。陳霸先、糧三十萬石を分ちて之を助く。○僧辯、郭默城及び尋陽・晉熙を拔く。○王偉、景に說きて帝を廢して豫章王棟を立てしむ。○侯瑱、豫章に據り、于慶を拒ぐ。慶、○哀太子大器及び諸王侯を殺す。○大器、殺されんと欲す。一日百拜すと雖も、安ぞ能く必死の命を以て無益謂ふ、賊、益無しと。○又愁を爲さんやと。○豫章王棟、位に卽き、天正と改元す。○郭元建、景が帝を廢するを諫む。景、復た之を立てんと欲す。王偉、可かずして止む。○元建、太子の妃を納るることを肯ぜず。○景、王偉・彭儁をして帝を弑せしむ。○湘東王繹、南鄭を以て魏に與へんとす。宜豐侯循、可かず。魏、達奚武等を遣はして之を攻めしむ。

玄默 涒灘

梁。二、己巳。四、丁亥。六、丙戌。八、乙酉。十、甲申。十二、癸未。○魏・齊、甲午の朔。同じ。

梁世祖 繹 承聖元

○王僧辯等、繹に勸めて位に卽かしむ。許さず。劉神茂等、浙東を以て繹に降る。○繹、方矩を召し、以て自ら副とす。○景、趙伯超等をして神茂を討たしむ。○景、禪を受け、太始と改元す。○景の三公十數、儀同尤も多し。王偉・索超世等を以て腹心と爲す。○武陵王紀、未だ帝と稱せずと雖も、而も大に服を造る。○謝荅仁等、元頴・李占を禽にす。

梁世祖 繹 承聖元

侯景、侯子鑒・郭元建を遣はして、齊の合肥を攻めしむ。克たず。○魏の王雄、上津・魏興を取る。李遷哲、之に降る。○僧辯、尋陽より、東して侯景を擊つ。○陳霸先、南江より、僧辯に會し、白茅灣に盟ふ。○謝荅仁、劉神茂を攻めて之を破る。神茂降る。○僧辯、蕪湖に克つ。景懼れ、湘東王及び僧辯の罪を赦す。○侯子鑒、南洲に據る。○景、子鑒を戒む、西人と水戰すること勿れと。○僧辯、大に子鑒を姑孰に破る。○陳霸先、僧辯に說く、北岸に度りて石頭を攻めよと。○景、湘東の世子方諸を殺し、劉神茂を斬す。

魏廢帝 欽 元

王雄、梁の上津・魏興を取る。李遷哲、來降す。○突厥の土門、柔然を襲ひて大に之を破る。阿那瓌自殺す。土門始めて可汗と稱す。○達奚武、楊乾運を白馬に敗る。○武、南鄭を屠らんと欲す。劉璠固く請ひて、止むを得たり。○柳帶韋、南鄭に入りて蕭循に說く。循、降を請ふ。○賀蘭願、南鄭を攻めんことを請ふ。赫連達曰はく、豈に鹵掠を利として、彼此の民を愛せざる可けんやと。○盡く劍北の地を取る。柳檜、黃衆賓の爲めに東梁州を誘說せずして死す。

三

侯景、侯子鑒・郭元建を遣はして合肥に寇せしむ。○帝、庫莫奚を擊ち、之を破る。○唐邕、軍書を練習し、强敏、人に過ぐ。○郭元建、廣陵を以て來降す。○潘樂等、梁の陽平を拔く。○傳國の璽を得。○斛斯昭、梁の歷陽を拔く。○潘樂等、梁の秦郡を攻む。辛術諫むれども聽かず。○辛術の銓衡、最も折衷と爲す。○帝、鄴に還り、復た晉陽

○陳霸先、諸將に命じて、各〻陳を置き、以て賊の兵勢を分たしむ。

○僧辯・霸先、大に景を西州の西に破る。

○石頭降る。景、臺城を棄てて走る。王偉諫むれども聽かず。

○僧辯、臺城に入り、士卒を縱ちて剽掠せしむ。

○僧辯、王克に謂ふ、百世の鄉族、一朝にして墜つと。王に勸進す。許さず。

○僧辯等、王に勸進す。許さず。

○郭元建等、南兗・南徐・秦郡を以て降る。

○僧辯曰はく、討賊の謀は、臣、己が任と爲す。成濟の事は、請ふ別に人を舉げよと。

○王、朱買臣をして豫章王棟を殺さしむ。

○陳霸先、江北に詣り、降を受く。

○侯子鑒、郭元建等に說きて齊に降らしむ。

○王偉を獲。

○齊の潘樂等、陽平を拔く。

○陳霸先、京口に鎭す。

○武陵王紀、蜀に在ること十七年、庫廐充實す。紀、蜀に帝と稱す。王僧略・徐平、諫む。之を殺す。

○怦曰はく、兒を生みて殿下の如くんば、之を留むとも何の益あらんと。

○永豐侯撝曰はく、王、善人を殺す。事、成らざらんと。

○紀、劉璠を以て中書侍郎と爲す。受けず。

○謝荅仁、侯景を迎へんと欲す。趙伯超、錢唐に據りて之を拒ぐ。

○侯瑱、追ひて景に松江に及ぶ。景、敗走して海に入る。羊鯤等、之を殺す。景の五子、皆、齊に殺さる。

○謝荅仁等皆降る。

○劉璠謂ふ、丞相泰は桓文に如かずと。泰乃ち蕭循を梁に歸す。

○梁の陳霸先、廣陵を圍む。

○長城四百餘里を起し、三十六戍を置く。

○侯瑱、追ひて景に松江に及ぶ。景、敗走して海に入る。羊鯤等、之を殺す。景の五子、皆、齊に殺さる。

○謝荅仁等皆降る。

○楊乾運、南鄉を救ひ、白馬に敗る。

○太宗を葬る。南鄉を救ひ、白馬に敗る。

○侯景の首を賣て之に漆す。

○王偉の舌を釘し、其肉を臠にす。

○齊の斛斯昭、歷陽を拔く。

○魯悉達、北江州を保全す。

○齊の潘樂、秦郡に寇す。

○陳霸先、郭元建を上林に敗る。

○魏の達奚武、南鄉を拔く。劍北盡く魏に入る。

○王太子方矩を立つ。

○齊の廣陵の人、濬に陳霸先を召す。霸先、江を濟りて廣陵を圍む。

○武陵王紀、永豐侯撝をして成都を守らしめ、外水より東に下る。

○齊人、廣陵・歷陽を歸して以て廣陵の圍を解かんと請ふ。

○魏人、宜豐侯循を歸す。

○王僧辯、王琳を誅せんと請ふ。王、之を囚ふ。

○琳の將陸納等、湘州に據りて亂を作す。

○納、張載の腸を抽きて馬足に繫ぎて走る。

○王、帝位に卽く。

○太子、元良を立つ。

○陸納、丁道貴を遣して納を討たしむ。

○王僧辯、上洛に敗る。

○吳藏、李洪雅を空雲城に圍む。

○納、妻子を送りて降を請ふ。宜豐侯循城に圍む。

昭陽作噩

梁。三、癸亥。五、壬戌。七、辛酉。九、庚申。十一、己未。閏十二、戊午の朔。

二

其の詐なるを知り、嚴備して之を待つ。納果して巴陵を襲ひ、克たず。

帝、侯景の俘を送り、以て武陵王紀に報ず。世子圓照、之を留め、紀に東下せんことを趣して云ふ、景已に江陵を破ると。帝、救を魏に求めて曰はく、子糾は親なり。請ふ、君、之を討てと。○魏の尉遲迥、蜀を伐つ。○李洪雅、陸納に降る。納、奉じて以て主と爲す。○僧辯・宜豐侯循に命じて納を討たしむ。○僧辯等、大に納の衆を車輪に破り、遂に長沙を圍む。○李賢明突出し、僧辯を趣す。僧辯、胡牀に據りて、動かず。○武陵王紀、譙淹をして還りて蜀を救はしむ。○楊乾運、潼州を以て魏に降る。○巴東に至り、江陵は未だ服せずと。○王僧辯・劉孝勝、還りて根本を救はんと請ふ。圓照、固く執りて、可かず。○紀、西陵に至る。軍勢甚だ盛なり。帝、任約を獄より拔き、陸法和を助けて之を拒がしむ。○觀寧侯永の軍、宮亭湖に潰ゆ。

二

宇文泰、丞相を去り、都督中外と稱す。○突厥の土門卒し、子木杆立つ。○梁の蕭紀、兵を擧げて荊州を攻む。梁主來りて救を求む。丞相泰曰はく、蜀を取り梁を制するは、茲の一擧に在りと。○尉遲迥曰はく、蜀は隔絶すること日久しく、險を恃みて備無し。宜しく鐵騎を以て之を襲ふべしと。○泰、迥に命じて諸軍を督して蜀を伐たしむ。○泰、隴を踰え、姑藏に至る。○吐谷渾の夸呂入貢す。○梁の楊乾運、潼州を以て來降す。○迥、成都を圍む。○蕭撝、降を請ふ。迥曰はく、之を降さば則ち將士全く、遠人悅ばん。之を攻めなば則ち將士傷つき、遠人懼れんと。遂に之を受く。蜀の地、吏民、皆、業に定まり、唯だ奴婢・儲積を收め、以て復す。悉く以て軍を賞す。

四

山胡、離石を圍む。帝、之を擊ちて三堆に至る。○常平五銖を鑄る。○登等を送りて柔然に入らしむ。○契丹、柔然の可汗を殺す。國人、登を立つ。○登注死す。又、庫提を立つ。○契丹、邊に寇す、帝、之を擊つ。○郭元建、水軍を以て、湘潭侯退を梁に納る。○帝、鬻肉祖し、行くこと千餘里、大に契丹を破り、十萬餘口を獲。○郭元建、梁の侯瑱と戰ひ、東關に敗る。○突厥、柔然を攻む。柔然、國を擧げて來奔す。帝、北のかた突厥を擊ち、柔然を迎へ、庫提を廢し、之を馬邑に置く。○突厥、降を請ふ。○東方白額、宿預を以て、叛きて梁に降る。

卷第一百六十五

○紀、連城を築き、鐵鎖を絕つ。帝、復た謝荅仁を獄より拔き、以て之を拒がしむ。○帝、王琳を送りて陸納を諭さしむ。長沙降る。○帝、紀が蜀に還りて一方に專制するを許す。紀、從はず。○紀、戰數〻敗れ、樂奉業をして和を求めしむ。帝、許さず。紀、金百餅有り、戰士を賞せず。○任約等、侯瑱を破る。兩岸の硤口城降る。○紀、退くを獲ず、流矢に中り、四城降る。紀、東に下る。○紀の衆潰ゆ。猛、紀を追擊し、之を圍む。帝、猛に謂ふ、生還は功を成さず。○圓照・圓正、食を絕つこと十三日、臂を啖ひて死す。○侯瑱、成都を以て魏に降る。遂に蜀の永豐・失地を攜ふ。○帝の將江陵に建康に還らんとす。胡僧祐等、固く江陵に留らんことを請ふ。○周弘正謂ふ、良計に非ず。東人、東するを勸むるは、豈に策ならんやと。西人、西せんと欲するのは、長買なり。朱ふ、建康は舊都にして、山陵の在る所なり。荊鎭は邊疆にして、王者の宅に非ず。恐らくは是れ臣の富貴にしてのみ、陸下の富貴に非ざらんと。○杜景儁、上兆は鬼賊に留めらるると。○陸法和、豪沙門の法を以て敎化す。○齊の郭元建、建康を襲ひて湘潭侯退を納れ、姑熟を謀る。帝、王僧辯に命じて之を拒がしむ。○侯瑱、以て姑熟に鎭して、東關に破る。

○宇文泰、元烈を殺す。

○開建侯蕃、入貢せず。帝、徐佛受をして之を執へしむ。○王琛、魏に聘す。○齊の東方白額、宿預を以て來降す。

閼逢閹茂 三

梁。二、丁巳。四、丙辰。七、乙酉。九、甲申。十一、癸未の朔。正、雨水。一日、

○陳霸先、廣陵を圍み、嚴超達、湓州を圍み、以て白額に應ず。○杜僧明、王球を宿預に敗る。○陸法和、自ら司徒と稱す。帝即きて之を用ふ。○帝、魏の使を待つこと薄く、又、魏と疆境を定むるに、辭不遜なり。魏始めて來せ、帝、琳を嶺南に遷す。如し○王琳謂ふ、帝、琳の季才、帝に勸めて建康に遷らしむ。○不虞有ば、安庾の段韶、廣陵・湓州を救ふ。陳霸先○齊の高岳、江陵を救ひて、梁を略す。陸法和、郢州を以て降る。○侯瑱等、齊の慕容儼を江夏に攻む。○晉安王、尋陽より來り、梁王の位に卽く。○齊の高渙、貞陽侯淵明を納れて梁主と爲す。王僧辯、從はず。武の二州を破る。○高渙、東關を破り、斐之橫を斬

旃蒙大淵獻

梁。正、壬午。二、辛巳。五、庚午。七、己巳。九、戊辰。十二、丁卯。十、寅申の朔。○齊、同じ。○魏。正、壬午。三、辛巳。五、庚辰。七、

梁敬帝方智紹泰元

王琳、長沙に屯し、檄を上流の諸將に傳へ、以て後梁を攻む。及ばず。○齊の高岳、江陵を救ひて、梁を略す。陸法和、郢州を以て降る。○侯瑱等、齊の慕容儼を江夏に攻む。○晉安王、尋陽より來り、梁王の位に卽く。○齊の高渙、貞陽侯淵明を納れて梁主と爲す。王僧辯、從はず。武の二州を破る。○高渙、東關を破り、斐之橫を斬

○朱買臣、宗懍・黃羅漢を斬らんと請ふ。○裴政、城中に告げて云ふ、援兵大に至ると。○魏の師、外柵を陷る。○帝、圍書十四萬卷を燒く。○謝苔仁、圍を突きて走りて任約に就かんと請ひ、又、子城を守らんと請ふ。王褒、皆云ふ、可ならず、降るに如かずと。苔仁、血を歐きて去る、帝遂に出でて降る。○帝曰はく、讀書萬卷、猶ほ今日有り。故に之を焚くと。○魏、岳陽王詧を立して帝及び太子元良等を害せしむ。○帝言ふ、我、文士に韜り、武夫に愧づと。○王僧辯・陳霸先等、帝の子晉安王方智を奉じて、太宰と爲し、制を承けしむ。

後梁中宗詧大定元

帝と稱し、龔太后を尊び、太后・太子歸王を立つ。百官制度、一に王に如し。而して魏に臣と稱す。○蔡大寶を以て謀主と爲す。○武州・巴州

○江陵の士民數萬口を俘にし、小弱に入れて奴婢と爲し、關の者は之を殺す。○尹德毅、詧を說く、于謹を殺し、魏の軍を擊てと。從はず。王褒等、長安に至る。宇文泰之を厚待す。褒、其の羈旅たるを忘る。○于謹、馬鎧を上る。泰、受け、尉遲迥、制を承くるを得。劍南の民夷之に懷く。

魏恭帝二

庾季才、私に搢紳の奴婢と爲る者を贖ふ。宇文泰、之が爲めに數千口を釋す。○宗室の諸王皆降りて公と爲る。○柔然の鄧叔子來奔す。突厥の木杆始めて大なり。鄧叔子及び其從者三人を取り、皆、之を殺す。○蘇綽・盧辯、六官を定む。

齊顯祖天保六

清河王岳、江陵を救ひ、及ばず。○梁の陸法和、郢州を以て來降す。○慕容儼、郢州に鎮す。梁の侯瑱等、之を攻む。○蕭淵明を立てて梁主と爲し、上黨王渙を將ゐて之を納れしむ。王僧辯、從はず。○渙、梁の東關を破り、斐之橫を斬る。

○段韶、廣陵・湓州を救ふ。○陳霸先等、皆走る。○郎基、海西に至る。帝之を削り紙を翦りて木を以て柔然、東に徒る。○金川に邀ふ。東方白額を誘ひて之を斬る。○段韶、高隆之の子二十人を殺す。○帝、鞭を上げて鞍を叩けば、一時に頭絕ゆ。○四城、洛陽の西南に築き、魏を致さんと欲す。○帝、魏人、出でず。北のかた達速嶺を巡る。

魏恭帝廓元

初めて九命・九秩を作る。○廢帝、元烈の死するを以て、怨言あり。宇文泰、開きて之を廢し、其弟齊王廓を立つ。○泰、諸將を以て、三十六國・九十九姓に補す。○泰、長孫儉と、梁を伐たんことを謀る。○泰、廢帝を酖す。○李遷哲、地を巴濮に徇へ、因りて自帝に鎭す。○崔猷、回車路を開きて漢中に通す。○于謹等、梁を伐つ。○謹謂ふ、梁主席卷して丹楊に據らば、上策、子城を守らば、下策なりと。○于謹等、江陵を圍む。○其外柵を殺す。梁主出で降る。○蕭詧を立てて荊州の地を以てし、其雍州を取り、仍ほ防兵を江陵に置く。

五

帝、山胡を討ち、石樓を平ぐ。九人始めて威虐を爲す。○梁の陳霸先、廣陵を圍む。○王球、宿預に敗る。○柔然の菴羅辰叛す。帝出で擊ちて之に破る。菴羅辰、北に走る。○賀拔仁、馬を獻ず、善かず。晉陽に輸し、髮を拔き、負はしむ。○魏炭を上つる。盧斐等、史を收め、魏書を上つる。盧中に柔然に死す。○隴州に寇す。帝、黃瓜を堆し、安臥、明に起き、擊ちて之を破る。○高阿那肱、兵を請ふ。帝、更に其半を減じ、遂に柔然を擊ちて之を破る。○帝、復た柔然を破る。

丁伐己未申卯。
廟十十、
一、

〇徙〇ら算〇為〇時り〇ん〇〇〇

辛丑の朔。閏八。九、一日、霜降。○魏、同じ。○齊。二日、霜降。

○侯瑱、豫章・江州に據り、霸先に附かず。○徐嗣徽等、襲ひて采石を破る。○古今の錢を雜用す。○齊の蕭軌等、入寇す。○齊人、貞陽侯淵明を召す。會〻卒す。○齊の兵、建康に逼り、鍾山を踰ゆ。○陳蒨、米鴨・軍倉を饋りて以て濟ふ。○霸先、大に齊の軍を莫府山に破り、蕭軌等を獲、之を殺す。○俘を賞するに、酒に貿へて裁に一醉を得。○侯平、王琳に叛き、巴州より、侯瑱に奔る。○琳、馴象を齊に獻じ、以て援を求む。○樊毅、武陵を襲ふ。琳、討ちて之を禽にす。○侯瑱、豫章を攻め、克たず。○侯平・豫章を焚掠す。瑱、湓城に奔る。蔡景歷、之に說く。乃ち建康に詣る。○熊曇朗、豐城に據る。○鄱陽王循、郢州に卒す。弟泰、之に代る。王琳、吳藏を攻めして之を陳霸先、丞相とすして死す。○王琳、江夏を襲ふ。豐城侯泰、之に降る。琳を徵す。琳、辭して長沙に還る。

○突厥の木杆、史寧と、吐谷渾を襲ひ、其賀眞・樹敦師の二城を破る。○太奉、後事を以て中山公護に屬し、雲陽に卒す。○世子覺嗣ぐ。○于謹、護を拜し、以て樂議を定む。○覺を封じて、周公と爲す。○位を周に禪る。

○三臺を廣偉す。○帝、湎淫狂暴にして、木を構ふること高さ二十七丈、其上に舞ふ。○太后を掀げて牀に落し、自ら杖つこと五十。○楊愔、供御の囚を置く。○楊愔謂ふ、裴謂之、陛下が之を殺して以て其名を成さんことを欲すと。○王紘謂ふ、飲は大樂に有りと。○帝、盃を投じ、魏を伐たんと欲す。既にして趙德行かず。○帝、酒騎をして百官を圍ましめて曰はく、我、額を擧げば、即ち之を殺せと。其の大に怖るるを聞き、乃ち之を捨く。○寡婦を發して軍に配す。○三州・一百五十三郡を省く。○長城三千餘里を築く。

強圉赤奮若		
陳高祖霸先永定元	蕭勃、兵を廣州に起す。余孝頃、之に應ず。勃、歐陽頠・傅泰・蕭孜を遣はして、出でて豫章に屯せしむ。周文育に詔して、之を擊たしむ。○徐度、齊の合肥を侵す。○熊曇朗、頠を欺き、其馬仗を取る。○文育、頠・泰を禽にす。○陳法武等、勃を攻め、之を殺す。	○周迪、臨川に據る。
三		
周世宗毓元	周公、天王の位に卽く。○親ら二丘・二郊・宗廟・社稷を祀る。○元后を立つ。○齊の馮顯、來降す。郭彥、南安を取る。○于翼、吐谷渾が城を攻めざるを策る。○趙貴、晉公護を殺さんことを謀り、克たずして死す。	
八	馮顯、周に降る。周の郭彥、南安を取る。○梁の徐度、合肥に寇す。○崔叔瓚言ふ、土功、時ならず、蝗を致すと。帝、涸汁を以て其頭に淋ぐ。○重城四百餘里を築く。	○帝能く政を楊愔に委ぬ。時に、主、上に昏くして、政、下に清しと稱す。○愔、選人を一見すれば、姓名を忘れず。○帝、豹騎をして百官を圍ましめて曰はく、我、額を擧げば、即ち之を殺せと。其の大に怖るるを聞き、乃ち之を捨く。○寡婦を發して軍に配す。○三州・一百五十三郡を省く。○長城三千餘里を築く。
卷第一百六十七		

		○隋志に、二月己亥、守歲少微を犯す。辛亥、東井星の北第二星を犯す。癸丑、軒轅を犯す。十三日、五月癸卯、太微の上將を犯す。又、太白、軒轅を犯す。
著雍攝提格 甲辰。九、辛亥。七、壬癸。二、四、子。陳。	二	○四柱錢を行ふ。○蕭孜降る。余孝頃、新吳に奔る。○丞相復た歐陽頠をして嶺南を安集せしむ。余孝頃、降を請ふ。○王琳、徵に就かんことを謀る。丞相、侯安都・周文育をして之を擊たしむ。○周人、梁の世祖の柩を琳に歸る。○丞相、陳公に封ぜらる。○沈恪、梁主を衛送するを辭す。○帝、禪を梁に受く。○帝、蔣帝の廟を祠り、佛牙を拜す。○章后を立つ。○侯都曰はく、今茲必ず敗れん。○戰、名無しと。○安都・周文育、王琳と、沌口に戰ひ、軍敗れ、皆、琳に囚へらる。○琳、周鐵虎を殺し、樊猛をして江州に據らしむ。○周人、譙淹を殺す。○蕭乾、閩中の豪帥を諭し降す。
	四	王操、王琳の長沙・武陵・南平の諸郡を略取す。
	二	○獨孤后を立つ。○齊の司馬消難、來降す。○楊忠、懸軍五百里、虎牢に入り、消難を迎へて還る。達奚武、其勇に服す。
	九	梁の王琳來りて援を求む。蕭莊を迎へて梁主と爲す。○陳の沈泰、來奔す。○司馬消難、叛きて周に入る。

		卯。十一、庚寅の朔。○周・齊、同じ。○隋志に、二月、熒惑、鬼質を犯し、三月甲午、軒轅を犯す。六月、庚子、塡・井鉞に合す。
	二	○歐陽頠、廣州に鎭す。○沈泰、齊に奔る。○王琳、永嘉王莊を齊より迎へ、立てて梁主と爲す。○梁の敬帝を殺す。○余孝頃・樊猛、周迪を圍む。○帝、莊嚴寺に幸して捨身す。○黃法𣰰等、周迪を救ふ。迪、余孝頃・樊猛等を擊ち、皆、之を禽にす。○謝哲を遣はして、王琳を諭さしむ。○臨川王蒨等を遣はして、琳を討たしむ。○侯安都・周文育、逃れ歸る。○琳請ふ、湘州に還り、衆軍を召して還らしめんと。○周文育か遣はして、余孝勸を討たしむ。○馮寶卒す。洗氏、海隅を安集す。
	四	
	二	○獨孤后殂す。
	九	○蕭莊を梁に納る。○三豪成る。○常山王演、王晞を杖ち、以て其死を脫す。○演、杖を被り、幾ど死せんとす。帝、晞を以て之に還す。○晞、復た諫めんと欲す。晞、崔暹の敢諫を止む。○演、暹の美とす。○帝、太子殷が漢の性を得て我に似ざるを嫌ひ、之を廢せんと欲す。○殷を囚へて斬らしめ、斷たざれば、之を鞭つ。遂に志を失ふ。○魏收諫む。帝言ふ、常山に傳へんと欲すと。○有司、囚を訊するに、犂耳・車釭を燒く。○蘇瓊曰はく、雪ぐ所は冤枉なり。反逆なりと。縱さずと。○鄭頤、王昕を譖し、之を殺す。○永安王浚・上黨王渙を燒殺す。

屠維單閼

陳。正、己丑。三、戊寅。五、丁卯。六、丙辰。八、乙巳。十一、甲午。閏五、癸未。六、壬申。

○一周初、大暑。閏日、夏至。○明日、克讓曆を用ふ。正、己丑。三、戊寅。五、丁卯。六、丙辰。九、乙酉。十一、甲寅。閏四、癸未。六、壬申。八、辛酉。十一、庚寅。五、己酉。

○餘は同じ。齊は正。三、己丑。四、戊寅。閏四、丁卯。六、丙辰。八、乙酉。十一、甲寅。五、癸酉。

○一陳紀に五月丙辰朔、

三

王琳、後梁の監利を襲ひ、蔡大有を殺す。○周文育、余公爾を討ち、之を禽にす。○熊曇朗、文育を殺して叛く。○魯悉達、兵敗れて來降す。○侯安都、王琳の將周炅等と戰ひ、之を禽にす。余孝猷降る。遂に曹慶・常粲を左里に破り、粲愛を斬る。○臨川王蒨、南皖口に城く。○帝殂す。子昌、長安に在り。章后、蔡景歷の謀を用ひ、喪を祕して蒨を召す。○侯安都、策を定めて蒨を立て、髮を解き、推して喪次に就かしむ。○太子伯宗を立つ。○沈后を立つ。○王琳、大雷に寇す。侯瑱等、之を禦ぐ。○吳明澈、湓城に敗る。

五

王琳、監利を襲ひ、蔡大有を殺す。

武成元

晉公護、政を歸す。猶ほ軍旅を齊の斛律光、柏谷・文侯城を取る。○吐谷渾、入寇す。○有司に詔して、赦前の事を糾すなかれ。唯だ倉庫を盜む者は、罪を免ずるも、徵備す。○賀蘭祥、吐谷渾を破り、其地を取り、洮州を置く。○樂遜、時宜四事を上言す。○王、韋敻を延禮し、逍遙公と號ふ。○晉公護、宇を峻くし牆に彤る。○寇禹曰はく、財を得て行失はふ。吾が取らざる所なり。○王、禹を出でしめて曰はく、唯だ積善のみ以て之を致す可しと。御輿に乘りて獻、王に請ひて帝と稱せしむ。崔成公、安憲、益州總管と爲る。○宗室の功臣を封じて國公と爲す。

十

帝、深觀に禪居す。○帝、手づから崔遐の妻を斬る。○斛律光、周の柏谷・高文城を取る。○侯德政、譖して杜弼を殺す。○楊愔、譖して德政を殺す。○元韶、諸劉を誅し盡さんと。帝乃ち元哲等の二十五人を殺す。○元韶、諸劉を誅す。亦袖家を昭ひて死す。○帝、盡く諸元七百餘人を誅す。嬰兒を承空中に投じて之を以て刺す。鄭下、之が爲めに魚を食はす。○元景安、姓を高と改めんと請ふ。從兄景皓、從はずして死す。○詔して、民間の姓、元を冒す者、皆、本姓に復せしむ。○帝殂す。太子殷立つ。○太皇太后・皇太后を尊ぶ。

○隋志に六月庚子、塡、太白、鉞に合す。

上章執徐

陳。正、癸丑。三、壬申。五、辛酉。七、庚戌。九、己亥。十一、戊子。

○周齊、同じ。○隋志に五月辛亥、熒惑、右執法を犯す。又三月甲午、熒惑、軒轅に入る。

陳世祖蒨天嘉元

侯瑱、王琳と蕪湖に遇ひ、相守ること百餘日。○周の史寧、郢州を圍む。○琳、直に建康に趣く。瑱、追擊し、大に之を破る。○琳、永嘉王莊と、皆、齊に奔る。○袁泌、莊を齊の境に送る。○周人、衡陽王昌を遣りて還らしむ。侯安都、自ら之を迎へんと請ふ。○陳瑒、郢城を固守す。周、克つ能はずして去る。瑒、中流を以て來降す。○周迪等、熊曇朗を攻め、之を斬る。○齊の軍の、魯山を戍る者、城を棄てて走る。○侯安都、衡陽王昌を江中に沈む。○毛喜來る。始めて周と和親す。○梁の元帝を葬る。○周の賀若敦、武陵に逼る、吳明徹退きて巴陵に屯す。○敦、獨孤盛と、水陸俱に進む。

六

陳の侯瑱等、巴湘に寇す。周の賀若敦等、之を救ふ。

二

史寧、梁の郢州を襲ひて圍み、克たず。王琳之を敗ると聞き、乃ち還る。○晉初めて陳と和通なる。○晉公護、惡み、李安を殺して糖飴を進めて毒を賞かしむ。○帝、邕を立てしむ。而して子幼なるを以て、遺詔を以て、弟魯公邕を立てしむ。○帝、邕、顯、問朝事を參議す。○周齊、同じ。○巴湘賀若敦・獨孤盛、陳の侵す。○敦、土を棄て糧と爲す。○詐りて餉紅を爲り、甲士を伏す。紅を長る馬に乘りて僞り叛かしめ、而して兵を伏して之を擊つ。○獨孤盛、楊葉洲に敗る。

齊肅宗演皇建元

梁主莊及び王琳、兵敗れて來奔す。○楊愔・燕子獻等、濟北王演・長廣王湛の位を親逼するを以て、之を忌む。○王晞、演に謂ふ、曰はく、周公、爲らざらんや。○可朱渾道元謂ふ、二王を誅せずんば、少主、自ら安んずること能はず。○燕子獻、婁太后を北宮に處き、政を歸せしめて李太后に謀る。○楊愔、自ら開府及び王を解き、以て天保の爵位を來の濫なる者を汰澄、盡く歸す。○秦彥、盡く疎忌の迹を以て二王に告ぐ。

○○○侯璵る。周詔璵、に巴のし、で盛詔陵、なし の祿揚て、 守夏葬、 將に洲之 降大に在 る辟破拒 。なるが 獨脩。し 孤も。も。 盛 走

リ○遣巴る。陳に陸る。盛走

輪の○類○と數○之○の○立○に○置て○○む濟し流し○之哭○か 屯石は晞、を王を帝筴盧つ元傷裴の、帝演、、帝、、以濟太蟲す遣可 省を譯す。要官を行晞走、を叔。后ろ澤事東、を、殺乃て南后と人德け く留・眷 ふの謂ら康獻虎、 ふ謂ら奚す。 太 ふ條に晞位 す は大王、謂は、ふや 。き、元・ 。癸。周 子 、せ入等に 勿 戒統と少は、ふ、と 以懷義 と作 所に殿を 百 帝しりに即 で 非延 を 年 代 つ を 細 。廢じ。 し、け、廢。王、主 轉等 ず は ち ね ね ね ね ね

リは○落○ず はて佳○政晉○と は○ふ○で○て○殺し に天○てにと○らめ○朱 。く晞を上と。理處は晞執に、 の す猶、ろ鎮丞 に芒流つ。李 由痢に、謂 り、謂 背ひ て 久に て 在日 及可ほ演 ぶし名に 所。敎謂 に今を ふ、 非日以、 朝、 ろ郎 言 き 遙爲 に り、 ぎ楊 き 抽 を 叩 を 入省・ 以后ん 去勳 し、し。し。し。

重光大荒落

陳。二、丁丑。四、丙子。六、乙亥。八、甲戌。十、癸酉。十二、壬申の朔。○齊、朔同じ。○周、同し。閏十一。○周紀に、四月、丙子朔、食す。十月、甲戌朔、又食す。○隋志に、五月己酉、歲、南斗を守る。六月、丙戌、熒惑、東井を犯し、七月乙丑、鬼中に入り、戊辰、斧質を犯し、十月、太微の右掖門内に在り、戊寅、上將を犯す。

二

襲景徽、齊に奔る。○周の殷亮、湘州を以て降る。○侯瑱、紇を以て賀若敦に借し、引き歸らしむ。○周、安成王頊が歸るを許す。上、周に賂ふに黔中・魯山を以てす。○虞荔・孔奐、鹽酒の科を立つ。○苗異、朝命を受けず。上、侯安都を遣はして之を討たしむ。

七

巴湘復た陳に入る。

周高祖邕保定元

令して五府は天官に總べ、十二軍は總て相府に屬せしむ。○事、巨細と無く、皆、晉公護、先づ斷じて後に聞す。○殷亮、陳に降る。陳、湘州を取る。○賀若敦、還る。坐して除名せらる。○韋孝寬の爲めに勳州を置く。○孝寬、甲士百人を以て、險要に城く。○八丁の兵を改めて十二丁と爲す。五錢に當る。○布泉を行ふ。○黔中・魯山を陳に取る。

齊世祖湛太寧元

陳の襲景徽、來奔す。○王琳、壽陽に鎭す。○高歸彥、肅宗に勸めて濟南王を殺さしむ。之に從ふ。○高元海、長廣王湛の爲めに、三策を畫す。○婁太后謂ふ、肅宗、吾が言を用ひず。死するは其れ宜なりと。肅宗、湛を徵して位を嗣がしめて曰はく、百年、宜しく樂處に置くべし。前人に敎ふ勿れと。○肅宗、晉陽に殂す。湛、先づ人をして殯を發きて之を視しむ。○湛、帝位に卽く。○百年を封じて樂陵王と爲す。

し、合して一と爲る。

玄黓敦牂

陳。二、辛未。三、庚午。六、己未。八、戊申。十二、丁酉。閏二、丙申の朔。○周、朔同じ。閏正。○齊、正、辛未。三、庚午。六、己巳。八、戊辰。十、丁酉。十二、丙申の朔。一日、正。雨水。○周紀に九月、戊辰朔、食既く。○隋志に、閏二月己丑、熒惑、

三

周迪叛きて豫章・湓城を襲ふ。皆、克たず。○陳寶應叛く。虞寄諫むれども聽かず。○五銖錢を改鑄す。○周人、安成王頊を歸す。○侯安都、大に留異を破る。異、晉安に奔る。○程文季、新安に克つ。○太子、王妃を納る。○吳明徹、周迪を攻め、克たず。安成王頊を以て之に代らしむ。

梁世宗歸天保元

中宗殂す。太子歸立ち、襲太后・王太后を尊ぶ。

二

河渠・龍首渠を鑿る。○陳項を陳に歸す。○杜杲謂ふ、陳主の介弟の價、豈に一城に止まらんやと。○初めて柱國が它縣に寄食するを聽す。

河清元

帝、鄴に還る。○胡后・太子緯を立つ。○高元海等、平秦王歸彥を惡み、出して冀州と爲す。○和士開始めて事を用ふ。○王琳、盧潛と協はしむ。召して鄴に還らしむ。○婁太后殂す。帝、服を改めず、置酒す。○平秦王歸彥、冀州に反す。段韶、討ちて之を斬る。○帝、晉陽に如き、尋ぎて還る。帝、李后に對して清河王紹德を殺す。

逆に犯す。上相を太白・甲子、五車に塡、七太白を犯す。乙合、亥興し、鬼、太白を庚に犯す。十一月、壬午、法を執る。十一月、壬午、法を執る。壬午、熒惑の南に歲合す。

昭陽協洽	四	周迪、晉安に奔る。○陳寶應、迪に資するに兵を以てす。虞寄諫むれども聽かず。○侯安都、功を恃みて驕倨なり。死を賜ふ。
	二	
	三	侯莫陳崇、晉公護將に死せんとす。妄言するに坐し、自殺す。○新律を頒つ、刑、二十五等有り。
	二	魏收、僕射と爲り、匡救する能はず。○帝、高元海が我に反を教ふるを責む。○斛律光、勳掌城及び長城を築く。○和士開謂ふ、堯・舜、桀・紂、竟に復た何ぞ異ならんと。士開、胡后と、樂を握る。叡と、河南王孝瑜を譖し、之を殺す。○三臺宮を以て興聖寺と爲す。○周の楊忠等、突厥と、井州に寇す。○帝、晉陽を棄てて東に走らんと欲す。河間王孝琬、馬を叩きて諫む。○冰を椎して、以て周人に備ふ。
卷第一百六		

辰。八、壬十一、酉の朔。○齊の同じ。○周、四、二、三月乙丑。○周紀に、辛酉の朔。壬戌。癸巳。十九、一。甲午。六、乙未。四、二、十一月辛酉。○隋、食す。志に、六月癸丑、太白、執す。七法を犯す。月子、戊子、熒惑、塡・八月、合す。甲午、熒惑、軒轅の大星。丁未、犯す。太白、南に入る。斗、辛卯、左執。癸未、法を犯す。太白、執す。九月、戊寅、犯す。太白、熒惑を犯す。十法を犯し、辛執る。

○高祖、三將の短を論ず。○周迪、東興に寇す。章昭達に詔して之を討たしむ。○昭達、周迪を破る。迪走る。遂に陳寶應を討つ。

○晉公に命じて名いはざらしむ。○于謹を以て三老と爲し、帝親ら饋酳して言を乞ふ。○楊荐を吞を突厥に結ばしむ。突厥、齊に貳あり。荐之を責む。○楊忠、突厥と、恒州より、達奚武、平陽より、齊の井州を攻む。○初めて州・郡・縣を襲ぐ者を改めて伯・子・男と爲す。

酉、右執法法壬辰、左執。	周を犯す。九月甲子、熒惑、太微の上將を犯し、十月壬辰、左執。	陳。正、申。三、未。五、午。七、巳。九、辰。十一、卯の朔。一日、庚申。己酉。戊戌。丁亥。丙子。乙丑。甲寅。癸卯。壬辰。辛巳。庚午。己未。戊申。丁酉。丙戌。乙亥。甲子。癸丑。壬寅。辛卯。庚辰。己巳。戊午。丁未。丙申。乙酉。甲戌。癸亥。壬子。辛丑。庚寅。己卯。戊辰。丁巳。丙午。乙未。甲申。癸酉。壬戌。辛亥。庚子。己丑。戊寅。丁卯。丙辰。乙巳。甲午。癸未。壬申。辛酉。庚戌。己亥。戊子。丁丑。丙寅。乙卯。甲辰。癸巳。壬午。辛未。

		○周・齊、同じ。○周紀に、七月辛巳朔、食す。○隋志に、正月己亥、太白・熒惑、合す。五月丁亥、太白、軒轅を犯す。九月辛巳、熒惑、左執法を犯す。癸未、右執法を犯す。太白、乙巳を犯す。辛卯、左執法を犯す。熒惑、周・正・太・合す。又、甲辰、熒惑・太白、合す。白月・熒惑に、歲、妻す。
柔兆閹茂	天康元	帝、疾篤く、孔奐等に語る、位を安成王頊に傳へんと欲すと。○帝、更籤を堵石に投ぜしむ。
	五	
	天和元	武功等の諸城を築く。○信州の蠻冉令賢・向五子王等反す。陸騰、討ちて之を平ぐ。
	二	和士開・祖珽、河間王孝琬を譖す。上皇、其軀を過折して、死す。又、安德王延宗て聞す。○班、奏して、顯祖の諡號を改む。

強圉大淵獻		丑。六、丙午。八、乙巳。十、甲辰。十二、癸卯の朔。○齊、同じ。○周初めて天和を用ふ。正、己卯。四、丁酉。六、丙申。八、乙未。十、甲午。十二、癸巳の朔。○周紀に、己卯の朔、正己食す。
陳臨海王伯宗光大元	○太子、卽位す。○徐陵謂ふ、陳の初、白銀、得難く、黃札、營み易しと。○王后を立つ。	陳。二、壬寅。四、辛卯。六、庚辰。七、己巳。十、戊午。十二、丁未の朔。一日、閏六、處暑。
六		安成王頊、尙書省に居る。到仲舉・劉師知等、其權の重きを惡む。殷不佞、敕を矯め、頊を遣はして東府に還らしむ。毛喜、頊に勸めて審かに奏せしむ。遂に師知を殺す。○毛喜請ふ、人馬を簡びて韓子高に配し、幷に鐵・炭を賜はんと。○到仲舉、父子及び子高を誅す。○余孝頃、誅せらる。○華皎、湘州を以て叛きて梁に歸す。
二	○辛昂、人を募りて萬榮の賊を破る。	陳の華皎來りて援を求む。○叱奴太后を尊ぶ。○崔猷謂ふ、宜しく叛臣を納れて與國を棄つべからずと。○衞公直等を遣はし、兵を將ゐて華皎を助けしむ。○元定、陳の郢州を圍む。○直等、陳の吳明徹と、陳州を以て來り附く。○王操を遣はして兵を將ゐて之を助けしむ。○兵敗れ、皎來奔す。○陳の吳明徹、河東を取る。
三	○元文遙謂ふ、縣令は民を治むるの切なりと。始めて士人を擇びて之を爲す。	斛律金卒す。○金曰はく、我、忠直を以て動き、勞して富貴を致す。何ぞ女寵を藉らんと。○東平王儼、赤棒を以て敕使の宰を碎く。○儼、器玩・服飾、皆、帝と同じ。帝或は先に新奇を得れ
卷第一百七十		

○齊、同じ。
一日、處暑。
○壬申、周の五、三、七、
辛未、庚午、閏八、
己巳、戊辰、十二
丁卯の朔。
九、一日、
霜降。
○周紀に、
正月癸酉、朔、食す。十
一月戊戌、朔、又食す。
○隋志に、
八月壬午、塡辰、九軫に
合す。戊午、辰、太白、
合す。
又、五月己酉、
酉歲、井に合す。
惑、閏六月、
丁酉、柳歲に合す。
太白、七月、
庚戌、太白、
軒轅の大星を犯す。十月、庚子、鉤鈐、一月、熒惑を犯す。

し、且つ援を周に求む。吳明徹等に詔して、之を討たしむ。
○周の宇文直・梁の王操、兵を將ゐて來り助く。
○太子至澤を立つ。
○○○周の徐度元定、郢州を圍む。
○○吳明徹等、湘華州を襲ふ。
と、沌口に戰ひ、殺及び周・梁の師を受けしめ、小艦をして先づ拍を破る。
遂に大に之を破る。

る。

沌口に戰ひ、大に敗れて還る。
○元定、井に其衆、皆、陳に沒す。
○陳の程靈洗、攻めて沔州を拔き、裴寬を虜にす。

ば、屬官必ず罪を獲。
○上皇・胡后、廢立の意有り。而して中止す。
○祖珽、躁訐にして流さる。
○盜、畢義雲を殺す。

を犯す。

著雍困敦

○齊、同じ。
陳、二、丙寅、四、丙辰、
戊午、七、甲寅、
己未、八、癸巳、
庚申、十、壬子、
辛酉、十一、壬辰、
壬戌、十二、甲午、
癸亥、十三、丙寅、
○周紀に、
○隋志に、
○齊、同じ。

二

吳明徹、江陵を圍むこと十旬、克たず。退きて公安を保つ。
○章太后、令を下して帝を廢し。安成王頊を立つ。又、始興王伯茂を殺す。

七

陳の吳明徹、江陵を圍む。
帝、田でて紀南に頓し、王操等、明徹を擊ちて之を走らす。

三

阿史那后、突厥より至る。
○于謹、功高く位重くして、愈〻謙恭忠儉なり。
楊忠、子堅を戒む、兩姑の間、婦と爲り難しと。
○始めて齊と好を通ず。
○趙文表、恒稜の獠を討ち、之を降す。

四

和士開、徐之才を出して兗州と爲す。
○始めて周と好を通ず。
○世祖殂す。後事を以て和士開に付す。
○馮子琮、士開に說く、貴臣を改易せずば、必ず異志無からんと。

白、氏に入る。又、三太北、月己未、月白井、月の第一星四、輿鬼に入り、積尸を犯す。

屠維赤奮若

陳高宗項太建元

陳。正、辛卯、三、庚寅、五、己丑、七、戊子、九、丁亥、十一、丙戌の朔。○○齊、同じ。○周、正、辛卯、三、庚寅、五、己丑、七、戊子、十、丁亥、十二、丙辰の朔。○隋志に、二月戊辰、歲、逆行し

帝、卽位す。○歐陽紇、廣州に據りて反す。○徐儉、紇に謂ふ、獨り周迪・陳寶應を見ざるかと。○周の杜杲、復た好を脩めんと請ふ。

八

齊の世祖の爲めに朝を罷む。○孔城叛きて齊に入る。○齊公憲等、齊の宜陽を圍む。○杜杲を遣はして好を陳に修む。

四

五

博陵王濟曰はく、灸、當に我に至るべしと。○帝、之を殺す。○趙郡王叡等、和士開を出さんと請ふ。太后・帝、許さず。○士開、美女・珠簾を以て婁定遠に賂ひて、入り見ゆるを得、叡を譖し、之を殺す。○叡曰はく、吾寧ろ死して先皇に事へん。朝廷の顧沛するを見るに忍びずと。○高阿那肱・韓長鸞・陸令萱・穆提婆、皆、姦諂を以て事を用ふ。○祖珽、陸媼・和士開に因りて、復た入

て太微の上を掩ふ。將五月甲午、熒惑、積尸を犯す。

上章攝提格

陳。正、乙酉、三、甲申、五、癸未、七、壬申、九、辛酉、十一、庚戌の朔。

二

洗氏、歐陽紇に附かす。○章昭達、紇を滘口に破り、之を禽斬す。○蕭引曰はく、管幼安・袁曜卿は、但だ安坐するのみと。○洗氏に繡轅車を賜ふ。鹵簿、刺史の如し。○章太后、殂す。○梁の江陵を攻め、葦橋を割き、安蜀城を拔き、龍川を決して以て城に灌ぐ。克たず。

九

陳の章昭達、江陵を攻め、克たず。

五

齊公憲、齊の斛律光と戰ひ、利あらず。○陸騰・李遷哲、梁主と共に江陵を守り、陳の章昭達を拒ぎて之を却く。○韋孝寬、汾北に城を築かんと請ふ。晉公護、許さず。○齊の斛律光、汾北に出で、定陽を圍む。

る。○胡長仁を殺す。○周の孔城來降す。○周の宇文憲、宜陽を圍む。

武平元

斛律光、宜陽を救ひ、周の兵を敗る。○朝士、和士開の假子と爲り、商賈と昆弟を敘し、士開の爲めに、黃龍湯を嘗む。○太子恒を立つ。○蕭莊を以て梁王と爲す。○顯祖の諡號を復す。○斛律光、汾北に出で、周の定陽を圍む。

三、一日、穀雨。○周紀に、十月辛巳朔、食す。	重光單閼	陳正、酉戊、申三、未五、午七、亥十、甲二、戌○、齊周同し。○己正、酉四、戌六、亥八、子十、丑十二、○丙寅、丁卯、戊辰、己巳、庚午、辛未、壬申、癸酉、○甲戌、乙亥の朔。○周紀に、十二月、戊寅の朔。○四月、隋に食す。○朔、己卯に、逆行して、熒惑、鬼を犯す。六月
	三	
	十	華陰、周の衞公直に說き、基・平・都の三州を得。
	六	韋孝寬、汾北に敗る。齊公憲、東のかた齊の師を拒ぐ。○憲、龍門より河を度り、○齊の五城を拔く。○齊の段韶、柏谷を拔く。○陳公純、齊の宜陽等の○九城を拔く。○齊の段韶、定陽を拔き、楊敞を虜にし、汾州に克つ。○楊素曰はく、但だ富貴の來りて臣に逼らんことを恐るると。○齊の斛律光、宜陽を救ひ、四戍を取る。○基・平・都の三州を以て梁に與ふ。
	二	光、馬上に、十三城を築き、地を拓くこと五百里、其功に伐らす。周の韋孝寬を拒ぐ。○周の宇文憲、龍門より度りて五城を拔く。○段韶、周の師を拒く。○段韶、柏谷を拔く。○周の宇文純、宜陽を拔き、○周の九城を拔く。○段韶、楊敞を禽にし、汾州に克つ。○斛律光、宜陽を救ひ、四戍を取り、還りて紫陌に至り、兵を散ぜず。○帝、之を惡む。○琅邪王儼、和士開を殺し、因りて兵を勒す。○帝、光を召して自ら由でしむ。儼の

庚辰、熒惑・太白、張に合す。	玄黓執徐	陳二、酉四、申六、未八、午十、巳十二、辰、卯、寅、丑、子、亥、戌、酉、申、未、午、巳

昭陽大荒落	五	○陳紀に、子の月庚子朔、周紀食す。○三月朔、食す。癸卯、○隋志に、八月癸未朔、食す。○壁月に、七月丙午朔、白す。○太白、辰に、井に合す。○白氏歳樂・太白、月に、九月庚申朔、食す。○瑞氏に、復たび至る。○妻に、且つ申す。○案ずるに、望は疑ふらくは、誤なるか。○丙辰、又三癸申、非ず。
		○黄法𣰰、歷陽・合肥を取り、吳帝、齊を伐たんことを謀り、徐陵、吳明徹・裴忌を薦めて將と爲す。○明徹、秦郡の瓜步を取る。○明徹、壽陽を拔き、王琳を虜にして之を殺す。齊の皮景和、北に遁る。○田夫・野叟、淋の死を聞き、皆流涕す。○豫州・司州を淮南に置く。○魯廣達、齊の南徐州を取る。○朱瑒、王琳の首を請ひて之を葬る。○田龍升、江北の六州・七鎮を以て、叛きて齊に入る。周炅、討ちて之を平ぐ。
荒落	十二	
	二	○太子贇を立つ。○韋孝寬、謠言を齊に播きて、斛律光を殺さしむ。○帝、羌橋・斜谷に如き、東西の將士に頒賜す。○突厥の木汗卒す。弟佗鉢立つ。○佗鉢言ふ、我が南に在るの兩兒常に孝ならば、何ぞ貧を憂へんと。
	四	○太后、辭を卑くして陸令萱に求め、胡昭儀を立てて皇后と爲す。○令萱、穆昭儀を修飾して、帝に勸めて立てて皇后と爲さしむ。○又、胡后を太后に譖し、廢して尼と爲す。○令萱母子、事を用ひ、殺生、手に在り。太后、其指麾を受け、唐邕、足を重れて氣を屏む。○斛律后を廢す。○高阿那肱・穆提婆・韓長鸞、共に機密を典り、三貴と號す。○帝、每旦、先づ長やと。○祖珽、高元海を逐ひ、專ら朝政を執る。

荒落	五	申。六、乙未。八、甲午。十、癸巳。十二、壬辰の朔、一日、三、雨水。○齊、同じ。○周、正、戊子。二、己丑の朔。閏正、癸亥の朔。一日、春分。○隋志に、五月癸巳、執法を右、又執を惑す。二月癸亥、惑星を鬼の北星を掩ふ。四月己酉、太白を掩ふ。西亥、北星を寅を掩ふ。東壬、九月癸未を犯す。左酉、太白、法を執す。十一月壬子、太白。
		○黄法𣰰、歷陽・合肥を取り、吳帝、齊を伐たんことを謀り、徐陵、吳明徹・裴忌を薦めて將と爲す。○明徹、秦郡の瓜步を取る。○明徹、壽陽を拔き、王琳を虜にして之を殺す。齊の皮景和、北に遁る。○田夫・野叟、淋の死を聞き、皆流涕す。○豫州・司州を淮南に置く。○魯廣達、齊の南徐州を取る。○朱瑒、王琳の首を請ひて之を葬る。○田龍升、江北の六州・七鎮を以て、叛きて齊に入る。周炅、討ちて之を平ぐ。
	十二	
	二	○宇文孝伯、正人を選び、太子の師友と爲さんと請ふ。○樂運、太子を謂ひて中人と爲す。○帝、儒・道・釋の先後を辨ず。
	四	鸞を顧訪し、後、奏事官を引く。○長鸞尤も士人の唯だ譖訴を事とするを疾む。○穆后を立て、陸令萱を以て太姬と爲す。○禁掌し、后の母輕霄、后を見るを得ず。○文林館を置く。○陳の吳明徹等、淮南に寇す。○王紘謂ふ、陳の師士を禦ぐは、民を息め養ふに若くは莫しと。○源文宗、淮南を以て專ら王琳に委れんと請ふ。○高阿那、雩祭を廢す。○源師謂ふ、齊、久しき能はざらんと。○尉破胡、陳に降る。○陳の吳明徹、淮南の州郡に敗くる。○秦州の多くを取り、吳明徹、瓜步を取る。○紇珽、才望を收舉し、嬖倖を排抑し、欲めんと清朝政を清す。○韓長鸞、陸令萱を逐ふ。段孝言、崔成謂之を譖す。

墳、尾に合す。

尙書、豈に特り段家の尙書なふんや。蘭陵王長恭、自ら穢さんと欲す。更に罪を速くす。無きを得んやと。帝、長恭の威名を忌み、諸婁、寵を酖殺す。崔季舒・封孝琰・張彫・婁叡、其の名を連ねて晉陽に幸するを諫むるに、其の言を憍慢なりとして、韓長鸞、其の言を反せり。皆、之を斬る。

○陳の皇琳・吳明徹・壽陽に囚はれ、王琳・廣陵に歸き、王琳、皮景和・迎れて來降す。

○穆提婆等、壽陽陷るを聞きて、輕騎を握りて、樂を奪ふ。國家盡く河南を失ふも、龜茲國を失はじと作る。

○陳の魯廣達、南徐州を取る。北徐州を全くす。

○田龍升、江北の陳の六州・七鎭を以て來降す。周、昊復たこれを取る。

陳。二、辛卯。五、庚申。七、己未。九、戊午。十一、丁巳の朔。

○齊、周、正、壬戌。三、辛酉。五、庚申。七、己未。九、戊午。十二、丁亥の朔。

○陳紀に、壬申一月朔、食す。

○隋志に、十二月丙子、歲・太白、危に合す。

閼逢敦牂

六

始興王叔陵、三公を求む。孔奐曰はく、三公は、本、德を以て舉ぐと。

十三

三

諸公、爵を進めて王と爲す。

○叱奴太后殂す。帝、三年の喪を行ふ。

○衞王直、齊王憲を譖す。帝、聽かず。

○佛・道の二教及び淫祀を禁じ、沙門・道士を罷む。

○五行大布錢を鑄る。通道觀を立て、以て異端を壹にす。

○帝、雲陽に如く。衞王直、亂を長安に作し、宮門を燒く。尉遲運、火を益して以て之を拒ぐ。直、敗死す。

五

南安王思好、反す。唐邕等、討ちて之を平ぐ。

○周、弔するの使を市はしむ。馮小憐、幸を得。

○南陽王綽、帝と、蠍を斛に聚め、人を其中に臥せしむ。韓長鸞、綽を譖し、之を殺す。

卷の第十七

旃蒙協洽

陳高宗太建七

陳。正、丙辰。三、乙卯。五、甲寅。七、癸丑。九、壬午。十一、辛巳の朔。九、閏八。一日、霜降。本紀に、閏九。齊、同じ。二日、霜降。○周二、戊戌。四、丙乙酉。六、甲申。八、癸未。十、壬午。十一、辛巳の朔。十三、閏十。日、冬至。○周紀に、二月丙戌朔、食す。

陳桃根、青牛を獻ず。帝、之を還す。又、錦被を獻ず。帝、之を焚く。○吳明徹、齊を伐ち、齊の師を呂梁に敗る。

梁世宗天保十四

周高祖建德四

帝、齊を伐たんことを謀る。于翼、儲を益し戍を加ふるを諫む。○韋孝寬、齊を取る。○齊の三策を陳す。伊婁謙をして璧を齊に觀しむ。○齊王憲謂ふ、楊堅恐らくは人の下に非ざらんと。○來和以爲へらく、將領とす可きのみと。○帝、大舉して齊を伐ち、將に河陽に出でんとす。宇文弢・趙煚・鮑宏、汾晉に出でんと請ふ。從はず。○師、齊の境に入る。樹を伐り稼を踐むを禁ず。○河陰の大城を拔く。○金墉を攻め、克たず。○帝、疾有り。舟を

齊溫公武平六

帝、朝士を見るを喜ばず。嬖昵に非ざれば、未だ嘗て語を交へず。又、人の面を視て事を奏する者を惡み、略ぼ大指を陳ずれば、驚き走りて出づ。○後宮の一裙、直萬四、朝に衣て夕に弊る。○盛に宮苑を修め、數〻毀ち、又復す。夜は則ち火を然し、寒は則ち湯を以て泥を爲す。○西山を鑿ち、大像を爲る。○齊を設くるを以て修德と爲す。○民間、號して無愁天子と爲す。貧村を立てて自ら乞食の兒と爲る。○黑衣をして城を攻めしめ、內參を帥ゐて拒ぎ鬬ふ。○陸令萱等、朝政を宰制す。○宦官・胡兒・官奴婢等、富貴を得る者、萬數、王に封ぜらるる者、百數、開府千數、儀同無數なり、狗・

十二月辛亥朔、又食す。隋志に、五月、熒惑、庚辰、右執法を犯し、壬子、又犯す。

柔兆

沮灘

陳庚辰正、三月己巳、五月戊戌、卯月丁亥、寅月丙子、丑月乙巳、十二月甲子、九月癸亥、十月壬子、十一月辛丑、十二月庚寅、○乙巳の朔。○庚辰周正、同じ。○己酉朔、○戊申朔、○丁未朔、○丙午朔、十二月乙巳の朔。周紀に、

八

太子、江總を以て詹事と爲さんと請ふ。孔奐以爲へらく、太子は文華少からず、宜しく敦重の才を用ふべしと。

十五

熒きて還る。三十餘城を得、昔、之を棄つ。

馬・麈・鷄、儀同・郡君の號有り。府藏既に竭き、郡縣を以て嬖幸に賜ひ、官を賣らしむ。○周主入寇し、河陰の大城を拔く。○金墉を攻む。獨孤永業、拒ぎて之を却く。○高阿那肱、周を拒ぎて河陽に至る。○陳の吳明徹、彭城に寇す。

五

太子、吐谷渾を伐つ。○紀王康、反を謀るに坐して死す。○王端、太子に幸せらる。○王軌、鄭譯・王端之を言ふ。太子・譯・皆、杖を被る。○帝、宮官をして、每月、太子の言動を奏賀せしむ。若弼、王軌が衆中に於て太子の得失を言ふを責む。帝の須を持り、後嗣の弱きを言ふ。○宇文孝伯言ふ、臣、陛下が慈を割き愛を忍ぶ能はざるを知

隆化元

雜戶の女を括す。隱匿する者は死す。○趙彥深卒す。朝貴、機密を典る者、唯だ斛律孝卿のみ。○周主、平陽を圍む。帝方に校獵す、高阿那肱、奏せり、乃ち之を奏す。○城陷る。馮淑妃、更に一圍を殺さんことを請ふ。諸軍を帥ゐて晉州に向ふ。○帝、淑妃と戰を觀る。東偏少しく却く。淑妃怖れ、帝と俱に走る。師遂に敗れ散ず。○帝、轡を按じ、淑妃に命じて后の服を著しむ。敗る。○高阿那肱、高壁に告ぐる者あり。○阿那肱叛くと告ぐる者あり。以て妄と爲して之を斬る。○太后・太子を北朔州に送る。○帝、安德王延宗をして晉陽を守らしめ、夜出でて、突厥に奔らんと欲す。梅勝郎諫む。乃ち回りて鄴に向ふ。○周主、四に還る。帝、平陽を圍みて、城陷る。淑妃を召して之を觀しむ。遂に克たず。○帝、叔妃と、遺橋に造り、聖人の跡を觀る。

六月戊申朔、隋志に、熒惑、庚午、鬼に入り、十月戊戌、太微の上將を犯す。大陵を犯す。

り、遂に耐く舌を結ぶと。○軌言ふ、楊堅は反相有りと。齊を伐ち、帝復た晉州に克ち、扇相貴を禽にす。○梁士彥をして晉州を守らしむ。○帝、西に還らんと欲す。宇文忻・王軌諫む。○齊主、平陽を圍む。梁士彥、婦女を遣して城を修めしむること三日にして就る。帝、長安より復た平陽を救ふ。齊王憲、謂ふ、齊の師は興し易し。○軌、將士の姓名を呼び、帝に慰勞す。朕獨り帝曰はく、良馬に乘りて安くに之かんと。○齊主、戰ひ、大帝に破る。○帝、齊士彥を追ふ。帝、欲す。○齊の高阿那肱を高乃ち齊の師を壁に破る。提婆來奔す。○齊の穆提婆、周に奔る。貴臣降る者相繼ぐ。○齊の周に降る者、○延宗、帝と稱す。衆、召す。童兒女子、甄石を投じて自ら至る。敵を拒ぐ。○周主、晉陽を圍み、勝に乘じて入る。延宗、爽に之を獲んとす。○周城に入る。延宗を禽にす。任城王湝、執へて延宗の使を送る。湝を孝珩請ふ、珩を斬る。○廣寧の王孝珩、土門に降る者、貴臣の兵を將ゐて、幽州に奔る。○周主復た攻めて晉陽に克つ。○帝、淑妃と戰を觀る。東偏少しく却く。淑妃怖れ、帝と俱に走る。師遂に敗れ散ず。○帝、轡を按じ、淑妃に命じて后の服を著しむ。○高阿那肱、高壁に告ぐる者あり。○阿那肱叛くと告ぐる者あり。以て妄と爲して之を斬る。○太后・太子を北朔州に送る。○帝、安德王延宗をして晉陽を守らしめ、夜出でて、突厥に奔らんと欲す。梅勝郎諫む。乃ち回りて鄴に向ふ。○周主復た平陽を救ふ。

	彊圉作噩	○周二、甲辰四、癸卯六、壬寅九、辛未十一、庚午の朔。○周紀に、十一月己亥朔。○晦、食す。○隋志に、此より先、太微宮に入ること二百日。句已往還す。四月甲子、端門に出づ。○陳二、甲辰四、癸卯六、壬寅九、辛未十二、庚午の朔。○齊、同じ。
	九	吳明徹、周を伐ち、梁士彥を呂梁に敗り、遂に徐州を圍む。○蔡景歷、北伐を諫め、坐して免ぜらる。
	十六	鄴に入朝す。
繼ぐ。○帝、晉陽を圍み、勝に乘じて城に入る。既にして克たず、崎嶇として僅に免る。○帝、逃れんと欲す。○宇文忻等諫む。乃ち馬を駐めて角を鳴らす。兵復た振ふ。遂に晉陽に克ち、高延宗を擒にす。○伊婁謙謂ふ、高遵は面に非ずと。唾して責む可き。○高延宗謂ふ、任城王、鄴に據らば、臣、知る能はずと。○帝、兵を引きて鄴に趣く。	六	鄴を圍み、之に克つ。○齊主、東に走る。○帝、莫多婁敬顯の三罪を數めて之を誅す。○帝、熊安生の家に幸し、手を執りて與に語る。○又、李德林を召して、政教・人物を問ふ。
入らしめ、獨孤永業をして洛州の兵を將ゐて潼關に入らしめ、自ら京畿の兵を帥ゐて逆へ戰はんと。從はず。○帝、軍を勞ひ、受くる所の言を記せず。遂に大に笑ふ。○高勸、太后を鄴に送る。○荀子溢を斬らんと欲す。○帝、羣臣と會議し、從ふ所を知らず。○高勸、貴臣の家屬を三臺に置かんと請ふ。	齊幼主恒承光元	帝、位を太子恒に禪り、自ら太上皇帝と稱す。○尉相願、高阿那肱を殺さんことを謀る。○廣寧王孝珩を出して滄州と爲す。○顏之推等、上皇に勸む、河外に往きて兵を募れ。克たずんば則ち陳に奔れと。太后・幼主先づ濟州に如く。
	卷第一百七十	

○齊の斛律孝卿、璽綬を奉じて來降す。○獨孤永業、河南を以て來降す。斛律光等に贈諡を加ふ。帝、光の名を指して曰はく、此人在らば、朕安んぞ鄴に至るを得んや。東山・南園・三臺を毀ち、以て民に賜ふ。○齊の高湝等、信都に據る。齊王憲等を遣して之を討たしむ。○憲、二諜を獲、遣りて書を以て諭さしむ。湝、從はず。興に戰ひて之を擒にす。○憲、謀略多く、士心を得。○齊の境に入り、芻牧、擾さず。○齊の高紹義、北朔州に據る。東平公神舉、擊ちて之を破る。紹義、突厥に奔る。○齊を得て平げて州五十○傅伏、降る。○帝、乃ち長安に還り、齊の君臣を前に列し、凱を奏して俘を	周主、鄴を圍む。上皇、兵敗れて東に走る。○慕容三藏、宮に據りて拒ぎ戰ふ。○周主、之を禮す。○鮮于世榮、三臺の前に於て鼓を鳴らす。周人、之を殺す。○上皇、濟州に入り、幼主をして任城王湝に禪らしめ、上皇は無上皇と稱し、幼主は宋國天王と稱す。○斛律孝卿、璽綬を奉じて鄴に奔る。○上皇、太后を濟州に留め、后妃・幼主を以て青州に奔る。○田鵬鸞、上皇の之く所を言はず。四支を折りて死す。○高阿那肱、陰に、周と、齊主を生致するを約し、屢〻周に尚ほ遺しと言ふ。○周の兵、青州に奄至す。○上皇、南に走り、周に擒にせらる。太后を并せて鄴に送る。○任城王湝・廣寧王孝珩、信都に據り、周の宇文憲と戰ひて敗れ、皆、擒にせらる。○范陽王紹義、北朔州に據り、以て擊ちて之を破る。○紹義、突厥に奔る。○紇奚永安、佗鉢に就き

す七惑月な3王に3非惑王六○甲乙丙丁戊己○二閻癸子王貳卯戊陳
。星・丙ら5無是。に・、月陪子王貳卯辰巳四日五麦。。。。。。。。。 **閻 著**
己太辰人く し月案。に、太歳王志の。。。。、。の十十八六五二、 **茂 雍**
未に白、。仁。、す楽白。午に卿十八六閻五三王巷六卿二。。甲乙丙丁戊
、谷、燊士諷験癸3ま、燊癸

に○し○○に軌之其王泉 **陳 唐**
頌百て尊毛し、を永軌明 **宗 公**
の官以子亨て明撃路、彼 **大 建**
。に て量、以徹ケの美、 **十**
葉四拳澪てをム未廉四
潤に に井廉唐と竹路の
に備命を3日諸驕を麦
盟へ亡攻。に3と幽域
ひしてる 版。ぎのを
、む、を り従る。攻
竹。諸藤 、は に露む
圧 軍む と 雍摩。
四 を 。 を す亡訶四
方 誓 廉 。て、の

保 楽
十 世
七 宗
天

○○る碧○○○○之ひれ○○楽○○ひ○○廉陳 **周**

三本 月太ち帝帝て帝初に の 。 月子 自 め し 呉 **唐 泄**
○○る碧○○○○之ひれ○○楽○○ひ○○廉陳
。 陽楊王本を 昌人斥興縛殺可 た子 。 知還 る ら て で 明
拜天 月太ち帝帝て帝初に の し 呉 昌人斥興縛殺可 た子 。 知還 る ら て で 明
た后 昭盧を傑 、 そ が 総 臨 、 瀞 た 日 立 、 。 ず は え 位 勤 す る ら て で 明
以た 盧を傑 、 瀞 た 日 立 、 。 ず は え 位 勤 す る ら て で 明
て で 寮 。 ず に 。 。 ず に 。 。 ず は え 位 勤 す る ら て で 明
。 で 寮

	屠維大淵獻	太白、軒轅の大星を犯す。辰、入丁酉。太微、九月に入る。太白、八月を庚辰に犯す。十二月癸酉、法を中に入り左執す。庚申、門太微の西掖を犯す。未、癸酉、氐を守る。この日、三十日。
	十一	初めて大貨六銖錢を用ふ。○周の韋孝寬等、淮南に寇す。○孝寬、壽陽に克ち、梁士彥、廣陵に克つ。○江北の地、皆、周に入る。○周法尚、叛きて周に奔る。樊猛、之を擊ち、利あらず。
	十八	
	周靜帝闡大象元	宣帝、大成と改元す。初めて四輔を置く。○樂運、數〻赦するを諫む。○樂運、初めて刑經聖制を行ふ。帝、之を殺さんと欲す。○元巖、詭說し、帝の八失を陳ず。○太子衍を立て、洛陽を以て東京と爲し、宮室を治め、相州の六府を徙す。○鄭譯、事を用ふ。王軌、死を知れども叛かず。○帝、使を遣はして軌を徐州に殺さしむ。宇文孝伯及び神舉を殺す。○元巖、切諫すれども聽かず。突厥の佗鉢、和を請ふ。千金公主を以て之に妻す。○帝、位を太子に傳へ、自ら天元皇帝と稱し、天臺に居る。車服旂鼓、皆、前王の數に倍す。○天元、驕奢淫泆にして、自ら稱して天と爲し、榜

	上章困敦	戊午の朔。○隋志に四月己丑、歲、太白、東井に聚まる。文云ふ、子なり。戊子、七月壬辰、辰、房北、熒惑、第一星を掩ふ。八月辛巳、南斗の第五星を犯す。熒惑、九月壬辰、南斗に入る。己巳、中斗の魁を犯す。太白、酉月に軒轅の大星を犯す。乙酉、熒惑、十月壬寅、虛に合ず。
	十二	周の司馬消難、九州・八鎭を以て來降す。樊毅等を遣はして、兵を將ゐて之に應ぜしむ。○消難、衆を擁して來奔す。毅、周に敗られて還る。
	十九	柳莊謂ふ、尉遲迥昏耄にして、消難・王謙は匡合の才に非ず。周朝の將相、多く
	二	市に入る錢を稅す。○四后、皆、太皇后と稱す。○杞公亮、反して誅せらる。○內外の命婦に詔して、笏を執りて拜し、皆、俛伏せしむ。○何妥、五后を置くを勸む。
	卷第一百七十	

彝・圭瓚を用ひて飲食す。羣臣の朝する者、皆、齊を致すこと三日。婦人をして黃眉墨紕せしむ。人を捶つこと百二十を以て度と爲し、之を天杖と謂ふ。后妃・公卿、皆、免れず。○東北七總管に命じて、東京六府の處分を受けしむ。○天元、朱后を立つ。○趙王招等に命じて國に就かしむ。○楊堅、周の將に亡びんとするを知る。○民を發して長城を修む。○司馬后を立つ。○天元、元后を立つ。○陳后を立つ。○韋孝寬等、陳の淮南を伐つ。○初めて佛・天の尊像を復し、天元、二像と竝び坐し、樂を設けて縱觀せしむ。○永韋孝寬、壽陽に克ち、梁士彥、廣陵に克つ。○乞寒胡の戲を作す。○通萬國錢を鑄る。○盡く陳の江北の地を得。○天元、洛陽に如き、四后に命じて、駕を方べて齊し、驅らしむ。○陳の周法尚來降す。

申。九、癸未。十、壬子。十一、壬子朔。十二、壬子朔。甲寅。乙卯。丙辰。丁巳。十八、十六、十四、十二、十日。十月。十月。七月。九月。
癸酉。壬申。壬寅。壬申。壬申。壬申

	重光赤奮若	陳。二、辛亥。四、庚戌。五、己酉。七、戊申。九、丁未。十一、丙午の朔。三、閏二。三、一日、穀雨。○隋日。閏三、辛巳。閏四、庚辰。六、己卯。八、戊寅。十、丁丑。十二、丙子の朔。○隋志に、十月辛酉、執を犯す。十二月癸酉、甲戌、辰、太白、交、相掩ふ。正月乙又、掩ふ。
	十三	周羅睺、隋の胡壁を拔く。○隋の長孫覽・元景山、入寇す。○蕭引、馬靖に說きて質を納れしむ。○始興王叔陵、潛に威福を作す。新安王伯固、畏れて之に附く。
	二十	太宰巖、隋に入賀す。
○改姓は、皆舊に復せしむ。○堅、相國と爲り、百揆を總べ、爵を隋王に進め、九錫を加へらる。○堅、代王達・滕王逌を殺す。	隋高祖堅開皇元	隋王、相國・九錫を受け、臺を建て官を置く。○崔仲方、周の禪を受く。周の六官を除きて漢・魏の舊に依らんことを勸む。○獨孤后・太子勇を立つ。○周主を奉じて介公と爲す。○周の宣后憤惋す。帝甚だ之を愧づ。○榮建緒曰はく、臣、位は徐廣に非ず、情は楊彪に類すと。○竇毅の女、男と爲りて舅氏の患を救はざるを恨む。○虞慶則、帝に勸む、盡く宇文氏を滅ぼせと。李德林固く爭ふ。帝、是に由りて之を疎んじ、遂に周の十三公を殺す。○帝、李穆に詔を賜ひて曰はく、來旨を惠まるるを敬すと。○穆の一門、象笏を執るもの、百餘人。○穆の朝集を鑠き、大事には就きて訪ふ。○蘇威、帝が將に禪を受けんとするを聞き、遁れて田里に歸る。帝、徵して之を用ふ。○帝、江南を取らんと欲す。高熲、賀若弼・韓禽虎を薦む。○蘇綽、征稅法を爲る、頗る重し。威能く之を輕くす。○威、高熲と、朝政を參掌す。○帝、人を斬らんと欲す。威、路を遮りて諫止す。
	卷第一百七十五	

酉、歲、逆行して右執法を守る。○熒惑、第一星を掩ふ。

○梁毗、威を劾す、五職を兼ね領し、繫に安んじ劇を繼ふと。帝曰はく、威、亂世に逢はば、南山の四皓ならん。豈に屈し易からんやと。○蘇綽曰はく、孝經一卷、以て身を立て國を治むるに足ると。○帝、高熲が僕射を解くを聽し、尋ぎて位を復す。盧賁等、熲・威を黜けんことを謀り、坐して除名せらる。○詔して、前代の品爵は、舊に依りて、降さざらしむ。○稽胡を發して長城を築く。○韋沖安、叛胡を撫す。○散樂を放つ。○周の靜帝を殺す。○帝始めて黃を服す。○吐谷渾、涼州に寇す。元諧、擊ちて之を破る。○陳の周羅睺、胡壁を拔く。○陳の宣帝、子弟を蜀王秀に命じて總管と爲す。○長孫覽・元景山に詔して陳を伐たしむ。○更に五銖錢を鑄る。○鄭譯に孝經を賜ふ。○高熲等、新律を定め、之を行ふ。梟轘及び鞭法を去り、議請・減贖・官當の科を立つ。○劉行本、郎を笞つを諫む。○帝、朝に臨みて失有れば、獨孤后、事に隨ひて匡諫す。○有司、后に百官の妻を命ぜんことを請ふ。后曰はく、婦人、政に與ることなし、或は此に由りて漸せんと。○后、崔長仁を宥さず。○帝、藥を合せんとして胡粉を求む。宮中に之れ無し。○宮中、帝・后を號して二聖と爲す。○帝、權任を以て外戚に假さず。舅家呂氏微賤な

	玄默攝提格	十四	帝殂す。○始興王叔陵、太子及び柳后を斫傷す。長沙王叔堅、之を縛す。叔陵、脫走して東府に還り、兵を起す。蕭摩訶、討ちて之を誅し、新安王伯固に及ぶ。○太子、位に卽く。○柳太后を尊ぶ。○隋の元景山、湋口、甑山・沌陽を取る。○隋に請ひ、其胡堅沈后を歸す。○太子胤を立つ。○帝、無礙會を設けて捨身す。
		二十一	隋主、帝の女を納れて晉王の妃と爲し、江陵總管を寵む。帝始めて其國を專制するを得。
○帝、岐州に如き、良吏を褒賞す。○突厥の佗鉢卒す。兄の子沙鉢略立つ。高寶寧と與に入寇す。長孫晟、四可汗を離間せんと請ふ。		二	行臺尚書省を并・益の二州に置き、晉王廣・蜀王秀を以て令と爲し、又、骨鯁にして文武の才有る者王韶・李雄・李徹・元巖等を以て之を佐く。二王敢て非法を爲さず。○元景山、陳の湋口・甑山・沌陽を取る。陳人、和を請ひ、胡墅を歸す。高熲等に命じて、師を班さしむ。○突厥、衆四十萬を帥ゐて、高寶寧と與に入寇す。○蘇威・庾季才・李穆、都を遷さんことを勸む。宇文愷に命じて新都を龍首山に營ましむ。○太子、咸陽に屯し、以て突厥に備ふ。○達奚長孺、突厥と周槃に戰ふ。士卒の手、皆、骨見はる。○長孫晟、染干に說き、沙鉢略を召し還さしむ。
		三	遷りて新都に入る。○牛弘、遺書を購はんと請ふ。○吐谷渾、洮州・鄯州に寇す。○詔して、八元帥を遣はして突厥を擊たしむ。○衞王爽等、突厥を白道に敗る。○陰壽、高寶寧を擊ち、之を殺す。黃龍平ぐ。○陳の郢州の城主、降を請ふ。帝、和好するを以て納れず。

	昭陽單閼	陳長城煬公叔寶至德元	帝、長沙王叔堅の專らなるを惡み、出して江州の刺史と爲す。○又、毛喜の直を惡み、出して永嘉の內史と爲す。○帝、叔堅を殺さんと欲す。叔堅曰はく、臣死せば、請ふ明詔を宣して叔陵を地下に責めんと。
		二十二	
乙未。十二、甲午の朔。十一、閏十二、二日、大寒。○隋、正、庚子。三、己亥。五、戊戌。七、戊申。十、丁酉。十二、丙寅。十一、閏十二、乙丑。二。隋紀に、二月己巳朔、食す。			乃ち之を免す。
	閼逢執徐	二	帝、三閣を作り後宮、張貴妃・狎客江總等、朝夕酣歌し詩を賦す。○帝、張妃を膝に置き、共に百司の奏事を決す。○孔範、帝の爲めに過失を文飾す。○施文慶・沈客卿等、吏事彊敏
		二十三	隋に入朝す。
己未。十一、庚寅。八、辛卯。六、壬辰。四、癸巳。二。			○寶榮定、史萬歲をして、突厥と、勝負を決せしむ。○突厥、盟を請ひて去る。○長孫晟、阿波と相攻む。○沙鉢略、幽州に寇し、總管李崇を殺す。○突厥、李敏に令す、柱國を得ずんば謝する勿れと。○高熲等、沙鉢略を擊つ。○陳蘇威の袁彥、來聘し、帝の像を畫きて去る。○令を更めんと請ふ。李德林以爲へらく、律令新に成る。大に民の害を爲す者に非ずんば、宜しく易ふべからずと。○楊尙希、郡縣繁多なるを以て、要を存し閑を去り小を併せて大と爲さんと請ふ。是に於て、悉く諸郡を罷めて州と爲す。○寶榮定、三公を辭す。○詔して李穆は百死も更に蘇威等に命じて、律を刪定せしめ、百條・十二卷と爲す。是より、刑網簡要なり。○柳彧、陽等の倉を置き、粟を漕して以て長安に給す。○又、武將を以て刺史と爲さざらんことを請ふ。○帝が聽覽を以て勤むるを諫む。正月望の遊戲を禁ぜんと請ふ。
		四	梁主來朝す。○初めて甲子元曆を行ふ。○帝、突厥の隴州に如く。頭、降を請ふ。○賀婁子幹・達奚保・築田を營むを肯ぜず。○宇文愷に命じて、渭水を鑿り、廣通渠を爲らしめ、以て漕を通ず。○帝、關內飢うるを以て、行きて洛陽に如く。

	旃蒙大荒落	三	○隋初めて元曆を爲す。士民嗟怨す。○孔範、將帥の兵を奪ひ、以て文吏に配す。○隋紀に、雨水。正月甲子朔、食す。 甲子朔、甲用ふ。二月甲子朔、甲子。五月癸巳朔、癸巳。七月壬戌朔、壬戌。九月辛酉朔、辛酉。十一月庚申朔、庚申。十一月己未朔、己未。 なるを以て幸を得、競ひて苛刻なるを以て幸を得、競ひて苛刻を爲す。士民嗟怨す。○孔範、將帥の兵を奪ひ、以て文吏に配す。
		二十四	○司馬幼之、文表華艷なるを以て、罪を得。○李諤上言す、俗、辭華及び矜伐・干進を尚ぶと。○突厥の沙鉢略、和親せんことを求む。千金公主、帝の女と爲らんことを請ひ、改めて大義公主に封ぜらる。○帝、虞慶則・長孫晟を遣して突厥に使せしむ。沙鉢略、詔を拜受して臣と稱し、梠棗まりて慟哭す。○薛道衡、陳に聘す。帝、令して、言辭を以て相折く勿らしむ。
		五	牛弘に命じて、五禮を修めしむ。○王誼、反を謀るに坐して誅せらる。○長孫平奏して義倉を置く。○戶口を貌閱し、新附百六十餘萬口を得。○輸籍法を作る。○阿波、西突厥と號す。○沙鉢略、達頭を遣はし表を奉じて、磧を以て界を爲さんと請ふ。○崔仲方、長城を朔方に築く。

○陳紀に、正月戊午朔、食す。	柔兆敦牂	四	禎明元
	梁公琮廣運元	二	帝、隋に入朝す。隋、崔弘度を遣はして江陵に戍せしむ。安平王巖
		六	党項、降を請ふ。○曆を突厥に頒つ。○刺史・上佐をして歲莫に更に考課を上らしむ。○崔仲方、數十城を朔方以東に築く。○高德、帝に位を太子に傳へんことを請ふ。帝曰はく、朕豈に近代の帝王の自ら逸樂を求むるに效はんやと。○太子勇、洛陽に鎭す。○梁士彥・宇文忻・劉昉、皆、反を謀るに坐して誅せらる。○楊尙希、帝が細務を親らするを諫む。○李文博、濫賜を恥づ。○帝、吐谷渾の太子に謂ひて曰はく、嵬王、朕に歸せんと欲せば、唯だ嵬王に臣子たるの法を敎へ、遠く兵馬を遣はして助けて惡事を爲す可からずと。
	疆圉協洽	七	初めて諸州に令して、歲ごとに士三人を貢せしむ。○丁男十萬を發して長城を修む。○沙鉢略、恒・代の間に獵せんと請ふ。之を許す。○沙鉢略卒す。其子都藍を捨てて其弟莫何を立つ。○莫何、阿波を擊ち、之を禽にす。

亥。五、甲戌。八、癸卯。十、壬辰。二、辛丑の朔。二、庚寅。十、己卯。十二、戊辰。十二、丁丑の朔。十一、丙子。四、乙亥。六、甲戌。八、癸酉。十、壬申。十二、辛未の朔。

統内、宜しきが如し。此宇宙清泰なりと。隋主、悅ばず。帝自ら佛寺に賣りて奴と爲り、以て之を脈す。○江南、妖異多し。○章華極諫して曰はく、臣、麋鹿の復た姑蘇に遊ぶを見んと。帝、卽日、之を斬る。

等、隋の之を襲はんことを恐れ、城中の士民を擁して隋に奔る。隋、陳に梁國を廢す。

○長孫晟謂ふ、阿波、國家に負くに非ず。如かず、兩つながら之を存せんにはと。高熲謂ふ、宜しく存養して以て寬大を示すべしと。○梁主琮、來朝す。帝、崔弘度を遣はして江陵に戍せしむ。梁の蕭巖等、士民を擁して陳に奔る。乃ち梁國を廢す。○陳主の書、慢言あり。楊素、罪せんと請ふ。○高熲、陳の收穫の時を何ひて士馬を徵集せんと請ふ。彼、既に兵を棄めば、我便ち甲を解かん。又、火を縱ちて其儲積を燒かんと。○崔仲方、舟師を以て蜀漢に下らんと請ひ、陳、精兵を遣はして上流を援けば、則ち下流の諸將、便を擇びて横に度らんといふ。○帝曰はく、吾、顯に天誅を行ふ。何の密か之れ有らん。船柿を江に投ぜしめて曰はく、若し彼懼れて能く改めば、吾復た何をか求めんと。

八

詔を下して陳を伐つ。詔書三十萬紙を寫して、遍く○江外に諭す。○晉王廣等の三元帥に命じて、九十の總管を督せしむ。兵五十一萬、旌旗舟楫、數千里に横亙す。高熲を以て長史と爲し、軍事、皆、決を取る。莫何卒、厥の子、都督、蘭陵、突厥、衛、陳を伐つ。兄の子、都督、蘭陵、突厥、衛、陳を伐つ。兄の子、都督、蘭陵、突厥、衛、陳を伐つ。兄

たり、那ぞ事ら信ず可けんやと。○啓請する所、皆、行はず。○蕭摩訶、逆へ戰はんと請ふ。許さず。弼始めて至るに乘じて掩襲せんと請ふ、豪、許さず。○任忠、又、臣に兵一萬を給し、其歸路を斷たしめば、則ち擊たずして自ら去らんと。弼、許さず。○帝、歎然として諸軍に命じて出で戰はしむ。任忠固く諫むれども聽かず。孔範曰はく、當に官の爲めに石に燕然に勒すべしと。○蕭摩訶等、皆、戰意無し。唯だ魯廣のみ力戰して屢〻弼を破る。弼、兵を移して孔範に趣く。範の兵暫く交はりて卽ち走る。諸軍大に潰え、摩訶、禽にせらる。○任忠入りて帝に辭して曰はく、陛下好住せよ。臣、力を用ふる所無しと。出でて韓禽虎に石頭に降り、禽虎を引きて朱雀門に入り、戰士を麾す。皆散ず。○袁憲、帝に請ふ、衣冠を正して前殿に御せよと。帝曰はく、吾自ら計有りと。遂に自ら井に投ず。軍人、之を出す。張孔と同じく束れて上る。○沈后・太子深、居處、常の如し。○帝、諸宗室を明堂に禁ず。城破れ、皆出で降る。○魯廣達猶ほ賀若弼を樂遊苑に○王頒、陳の高祖の骨を燒き、灰を取り、水に投じて之を飲む。○詔して五戶を給して陳陵を守らしむ。○秦王俊、漢口に屯す。陳の周羅睺に拒がれ、前むを得ず。○楊素、呂忠肅を破り、巫峽を下る。巴陵以東、敢て城守するもの無し。○羅睺及び陳慧紀等、皆降る。○鄉正・里長を置く。○宇文述、蕭瑒を禽にし、蕭巖を降す。○薛冑、陳叔愼を湘州に破り、之を斬る。○洗夫人、嶺南を以て降る。○建康城を隳ち、王韶を留めて石頭に鎭せしむ。○諸軍、凱入し、俘を太廟に獻ず。○司馬消難、故舊を以て、死を免るるを得たり。○廣達、疾を得て、療せず。○將士に班賜するに、布帛三百餘萬段を用ふ。○元諧、突厥を以て候正と爲し陳叔寶を令吏と爲さんと請ふ、帝、之を折く。○功臣を封賞す。或るひと高熲反すと告ぐ。帝、之を斬す。熲自ら稱す、文吏、焉んぞ敢て大將軍と功を論ぜんや。○孔範等四罪人を邊裔に投ず。○帝、厚く陳叔寶に給賜し、而も官に除せず。○陳氏の子弟を隴右・河西に遷す。○帝、陳の公卿、皆、官に除せらる。○任蠻奴を殺さざるを悔ゆ。○周羅睺泣きて帝に謝し、賀若弼に抗し、韓禽虎を折く。○陳叔文自ら表して降るに先だちて異常の例を求む。○韋鼎、隋の興り陳の亡ぶるを前知す。○詔して、甲仗を毀ち、文學を興さしむ。

拒ぎ、力屈して禽に就く。晉王廣、建康に入り、施文慶等五佞人を斬る。○許善心、客館に在り、衰服して號哭すること三日。○周羅睺、江夏を守る。隋の秦王俊の兵十餘萬、進む。能はず。○呂忠肅、楊素を巫峽に拒ぎ、四十餘戰す。○陳慧紀、公安より入りて援く。○晉王廣、帝をして書を以て之を諭さしむ。羅睺等、皆、隋に降る。○吳人、蕭瑒を奉じて以て隋を拒ぐ。宇文述討ちて之を禽にす。○岳陽王叔愼、湘州に據りて、下らず。薛冑・劉仁恩、擊ちて之を斬る。○洗夫人、嶺南を保つ。陳亡ぶと聞き、乃ち降る。○任瓊、王勇に勸めて隋を拒がしむ。聽かず。官を棄てて去る。○陳國皆平ぐ。

上章閹茂正、三、五、七、己丑。戊子。丁亥。丙戌。

隋高祖開皇十

○李德林諫む、鄉正始めて置く、遽に廢す可からずと。○蘇威等、德林を譖し、之を出す。○帝、李圓通・陳茂を信任す。茂、柳莊を譖し、之を出す。○帝、猜忌にして學を悅ばず、好みて人の小過を覘視し、高熲等、諫むるに、朝堂は人を殺すの所に非ず、殿廷は罰を決するの地に非ざるを以てす。乃ち殿內に杖を去らしむ。尋ぎて復た之を置く。○賀若弼、御授七策を上る。帝、省せず。○帝、韓禽虎を以て突厥に示して曰はく、是れ陳國の天子を執へ得たる者なりと。高熲は猶ほ鏡のごとし。磨瑩すれば益〻明かなりと。○帝謂ふ、反を謀るに坐して誅せらる。○元諧、朝野、封禪せんと請ふ。詔して曰はく、豈に一將軍に命じ、一小國を除きて、便ち太平と謂ふ可けんやと。○廣平王雄を以て司空と爲す。○帝、牛弘等に命じて樂を議せしむ。鄭譯、七音・八十四調を立てんことを請ふ。何妥、之を沮む。○帝、止だ黃鍾一宮を用ひしむ。陳の樂を得るに及びて、帝、以爲へらく、華夏の正聲なりと。清商署を置く。又、牛弘等に命じて、雅樂を議せしむ。○辛公義、嶺南を安集す。○周法尙、嶺南を保つ。親ら疫者を養視し、以て岷州の俗を變ず。○又謂ふ、豈に人を禁じて獄に在らしめ、而して家に安寢す可けんやと。訟ふる者爲めに止む。

九、乙酉。十二、甲寅の朔。

○初めて坊府をして州縣に屬せしむ。
○令して民五十にして、役を免じて庸を收む。
○江南の人、未だ隋の政に安んぜず。高智慧等、皆反す。楊素に命じて之を討たしむ。
○麥鐵杖、草を戴きて江を度り、賊を覘ふ。
○楊素、高智慧等を擊ち、悉く之を平ぐ。
○封德彝、水に隊つれども言はず。
○史萬歲、溪洞を攻め、七百餘戰し、深く千餘里に入り、十旬、聲問無し。書を筒中に浮べて以て素に白す。
○素常に一二百人をして陳を陷れしむ。陷るる能はざれば、立ちどころに之を斬る。
○素王仲宣反して廣州を圍む。裴矩、三千人を以て之を破る。
○洗夫人、其孫馮暄を遣はして廣州を救はしむ。逗撓す。收めて獄に繫ぎ、更に孫盎を遣はして之に代らしむ。
○夫人、介馬に乘り、錦繖を張り、裴矩を衞從して諸州を巡撫す。
○夫人に詔して、府を開き、官屬を置き、便宜を以て事に從はしむ。
○夫人、三代の賜物を陳し、子孫に示して曰はく、皆、吾、一の忠順の心を用ひて致す所なりと。
○夫人、詔書を載せて自ら使者と稱し、十餘州を歷、諭して獠俚を降す。

重光大淵獻

二、癸丑。四、壬子。六、辛亥。八、庚戌。十、己酉。十二、戊申の朔。
○本紀に、二月辛巳、晦、食す。

十一

吐谷渾の夸呂卒す。子世伏、入貢し、女を薦めんことを求む。許さず。
○臨潁の令劉曠、善政を以て、擢でて莒州の刺史と爲す。
○滕王瓚、暴に卒す。

玄默困敦

二、丁未。四、丙子。六、乙亥。八、甲戌。十、癸酉。十二、壬申の朔。閏二。三、一日、穀雨。
○本紀に、七月壬申、晦、食す。

十二

何妥、蘇威及び子夔と爭論して隙有り、威朋黨すと告ぐ。威、坐して官を免ぜられ、盧愷、名を除かる。
○郎茂奏して威の煩迂の法を罷む。
○茂謂ふ、張元預兄弟、睦しからず。又、坐して罪を得ば、彌〻其怨を益さんと。
○初めて天下に令して、死罪は大理覆治す。
○楊素、才藝・風調は高熲に優る。誠を推し國を體し、物を處すること平當なるは、熲に如かざること遠し。
○賀若弼謂ふ、熲・素は唯だ飯を啗ふに堪へたりと。坐して獄に下る。自ら云ふ、格外に活を望むと。
○有司奏す、府藏皆滿つと。詔して左藏院を闢き、河北・河東の租調を免じ、天下の田を均しくす。

昭陽赤奮若

二、辛未。四、庚午。七、己亥。九、戊戌。十一、丁酉の朔。
○本紀に、十月戊辰、晦、食す。

十三

楊素、仁壽宮を作る。役夫の疲頓する者は、因りて以て阬坎を塡築す。死する者、萬を以て數ふ。
○緯候・圖讖を禁ず。
○詔して明堂の制度を議せしむ。立つるを果さず。
○楊欽亡げて突厥に入り、大義公主に說きて、邊を擾さしむ。
○裴矩、突利に說きて、大義公主を殺さしむ。
○長孫晟、請ふ、突利に婚を爲さんことを許し、以て都藍を捍がんと。
○祖孝孫、毛爽に從ひて三百六十の律法を受く。

閼逢攝提格

正、丙申。三、乙未。五、甲午。七、癸巳。九、壬辰。閏十一、辛酉。冬至。傳に曰ふ、蕭吉の朔。案ずるに、冬至は十月なり。

十四

○初めて新樂を行ひ、淫聲を禁ず。
○萬寶常謂ふ、樂聲厲にして哀し。天下久しからずして將に盡きんとすと。
○蘇孝慈、諸司の回易するを禁ぜんと請ふ。初めて公卿以下に職田を賜ふ。
○劉孝孫、櫬を用ひて禮を論ず。
○帝、民を撫して食に洛陽を見て、流涕して羣臣に示し、之が爲めに、朞年、酒肉を御せず。
○帝、陳叔寶を謂ふ、以ふに詩を作るの功、何ぞ時事を安んぜんと思ふに如かんやと。
○羣臣、封禪せんと請ふ。帝、反覆して、東巡す。明年は甲子の夏至、至尊・皇后の本命に合すと。
○蕭吉、謂ふ、今年は辛酉の冬至、明年は甲子の夏至、至尊・皇后の本命に合すと。
○帝、邵干の表を指す。
○又、王邵、帝の龍顏戴の表を指す。隋靈感志を歌ふ。
○香を焚き目を閉ぢて皇隋靈感志を歌ふ。

旃蒙單閼

正、庚申。三、己未。五、戊午。七、丁巳。九、丙辰。十一、乙卯。五月の朔。夏至。甲子。

十五

○帝、旱を以て泰山に祠り、愆咎を謝す。
○天下の兵器を收め、民の私造するを禁ず。
○帝、仁壽宮の壯麗なるを見て、大に怒る。封德彝、皇后至れば必ず恩詔有るを知る。
○豆盧通、綾紋布を貢す。朝堂に焚く。
○帝謂ふ、蘇威は清を詐るに非ず。然れども性狼戾にして、世要に切ならず。已に從へば則ち喜び、之に違へば則ち怒る。年は暮るるを待たず。疾有れば便ち辭す。
○韋世康曰はく、祿豈に多きを須ひんや。滿を防ぎて則ち退く。
○敕して、邊穀一升を盜めば斬らしむ。
○文武官は四考にして代を受く。

柔兆

十六

執徐

正、甲寅。四、癸未。六、壬午。八、辛巳。十、庚辰。十二、己卯の朔。

十六

○初めて令して、工商は仕進するを得ざらしむ。
○詔して、死罪は三たび奏して乃ち刑を行はしむ。
○党項、會州に寇す。討ちて之を降す。
○吐谷渾の世伏、公主を稱して天后と爲さんと請ふ。許さず。

彊圉大荒落

初めて張冑玄の曆を用ふ。二、戊寅。四、丁丑。閏五、七、丙子。九、乙亥。十二、甲戌。癸卯の朔。一日、大暑。

十七

○梁睿、南寧の夷爨震を討たんことを請ふ。
○史萬歲、爨翫を討ち、深く入ること千餘里。
○桂州の李光仕、反す。周法尚、討ちて之を斬る。
○令狐熙、桂州總管と爲る。手づから諸の渠帥・州縣の長吏に教諭し、始めて官に之くを得。寧猛力、
○府に詣りて謁を請ふ。
○諸司に詔して、律外に屬官を杖つを得しむ。
○帝命じて、一錢以上を盜むものは棄市せしむ。數人有り、執事を助し、奏して之を改めしむ。
○帝、六月を以て人を殺して曰はく、天、生長すと雖も、必ず雷霆有りと。
○趙綽、矯りて閤に入るを求め、來曠の死を救ふ。
○帝、綽に謂ふ、大理、朕の爲めに特に摩訶を放てと。
○帝、綽に謂ふ、辛亶を救ふを怒り、之を斬らんと欲す。綽曰はく、法を執りて心を一にす。敢て死を惜まずと。
○綽謂ふ、上、妄に人を殺さんと欲す。豈に臣の事に關せざるを得んやと。
○薛冑は獄を斷ずるに情を以てし、而して綽は法を守る。
○帝、晚節、刑を用ふること益〻峻なり。楊素復た情に任じて、平かならず。
○屈突通、牧馬を檢し、隱匿せる馬二萬餘匹を得、太僕等千餘人の死を救ふ。
○劉昶、子居士の驕恣なるに坐して誅せらる。
○初めて張冑玄の曆を行ふ。
○桂州の李世賢反す。虞慶則、討ちて之を平ぐ。
○秦王俊、奢僭なるに坐して官を免ぜらる。楊素、上を諫めて曰く、何ぞ別に天子の兒の律を制せざると。
○上、安義公主を以て突利に妻し、厚く之を遇す。都藍怒りて數〻邊患を爲す。
○詔して、廟を享して還り、樂を設くる勿らしむ。

○何稠、寧猛力と、八九月長安に至らんことを約す。猛力病みて死し、其子長眞に命じて入朝せしむ。虞慶則の婦の弟、其の反を謀るを告ぐ。坐して死す。○上、高麗王湯を誚責して曰はく、王若し心を酒ひ行を易へば、卽ち是れ朕の良臣なり。何ぞ別に才彥を遣はすを勞せんと。湯卒し、子元立つ。○吐谷渾の人、世伏を殺し、其弟伏允を立つ。

著雍敦牂

二、壬寅。四、辛丑。六、庚子。八、己亥。十、戊戌。十二、丁酉の朔。

十八

高麗、遼西に寇す。漢王諒等に命じて之を討たしむ。○獨孤陁、猫鬼をして皇后を病ましむるに坐して、死に當す。后、之が爲めに、三日、食はず、以て命を請ふ。○漢王諒、糧盡きて疫に遇ひて還る。高麗も亦罪に服す。○纍翫復た反す。史萬歲、坐して名を除かる。

屠維協洽

二、丙申。五、乙丑。七、甲子。九、癸亥。十一、壬戌の朔。

十九

漢王諒等に命じて、突厥を擊たしむ。○都藍、突利を襲ひて之を破る。突利、長孫晟と、入朝す。○楊素、城上に四烽を舉げしめ、以て突利を恐れしむ。○高熲、突厥を白道に破る。○王世積、騎陣を以て、達頭を破る。○獨孤后、親信に告げられ、坐して誅せらる。○尉遲迥の女孫、東宮の衞單騎にて山に入ること二十餘里。○太子勇、廢せんと欲す。高熲諫めて旨に忤ふ。○而して妾を殺す。帝、簡に以て而り欺くと爲す。漢王諒言ふ、幸に熲の殺を免ると。○熲、妾を辭して、子を生むを、以て妾と爲り、名を除かる。○熲、國令の所と爲す。○熲、富貴に極まる。但だ一の斫頭有らんのみと。○熲、告ぐる所、熲、已に啓民に妻す。○更に義成公主を以てせんと。○母謂はく、富貴は突厥の間に置かんと請ふ。○利、突厥に命じて、降衆を處す。○長孫晟、兩河の部落を、蓋頭立つ。○步迦可汗と爲す。○都藍、突利に殺さる。

上章涒灘

正、辛酉。二、庚申。四、己未。六、戊午。九、丁亥。十一、丙戌の朔。閏正。二、一日、春分。

二十

帝謂ふ、賀若弼に三つの太だ猛なる有りと。○又謂ふ、功臣は正に宜しく勳官を授くべし、朝政に預る可からずと。○帝謂ふ、弼が亂を好むの意、終に改まらずと。○長孫晟、毒を泉に置く。○達頭、史萬歲の名を聞き、戰はずして遁る。○秦王俊薨ず。○帝謂ふ、碑は徒らに人の輿めに鎭石と作るのみと。○太子勇、情に任せて飾らず。帝は儉を好み、而して勇は奢靡。獨孤后は嫉妬にして、而して勇は內を好む。○是に由りて愛を失ふ。○帝曰はく、吾、昔日の衣服、各〻一物を留めて、時に觀て戒と爲すと。○勇、至日に朝を受く。○帝漸く猜阻を生ず。○元晉王妃、暴に薨ず。○后、其の毒せらるを疑ひ、陰に勇の過を求む。○廣、庶子を育せず、身を傾けて大臣に結び、曲げて左右に事へ、樂器塵埃あり。○韋鼎謂ふ、至尊・皇后の愛する所、當に之に與ふべし。安んぞ敢て預り知らんやと。○廣、敬、朝臣に辭接するに、禮、卑屈を極む、是に由りて聲名籍甚なり。○廣、泣きて后に辭して云ふ、幾許の苦痛ぞと。遂に意を決して廢立せんとす。○再拜せしむるは、常に太子に殺されんことを恐るるなり。○宇文述・張衡、廣の爲めに、宗を奪ふの計を畫す。○述、廣の爲めに、楊約に說き、約、兄素に說き、素、帝に說く。○述、偃息して、以て勇を激怒せしむ。○帝、候人を置きて以て勇を伺ひ、衞士の勇健なる者を揀び去る。○帝言ふ、我、京師に還る毎に、嚴備すること敵國に入るが如しと。因りて宮僚唐令則等を執へて之を鞫す。○元旻、太子を廢するを諫む。○素、旻附託すと誣ふ。○素、東宮を索めて、火燧及び艾を得、以て反具と爲す。○帝、勇を廢し、元旻等を斬る。○楊孝政、其の甥を撻つを諫む。○帝謂ふ、裴政・劉行本在らば、勇、此に至らざりしならんと。○李綱謂ふ、帝、人を擇びて輔導せず。太子の罪に非ずと。

		○楊素、史萬歲を譖す。帝、之を撟殺す。 ○晉王廣に立て太子と爲す。 ○勇、樹に升りて大に叫ぶ。楊素言ふ、勇、癲鬼に著かると。 ○房彥謙、及び子玄齡、皆、隋の將に亂れんとするを知る。 ○高孝基、玄齡及び杜如晦を識る。 ○詔して、佛天の尊像を盜毀するは、惡逆を以て論ず。 ○蔡王積、諸子の才能有らしめず。恐らくは禍を致さんと。 ○王伽、流を送りて、之を解縱す。皆、期の如くにして至る。 ○充表す、因李參等七十餘人を送りて、之を解縱す。皆、期の如くにして至る。 ○開皇以來、晝日漸く長きは、太平の應なり。百工並に程課を加へんと。
重光	仁壽元	
作噩		
		○韓洪、突厥と戰ひ、恒安に敗る。 ○國子生を省き、四門太學及び州縣の學を廢す。 ○符瑞を南郊に報ずること、封禪の禮の如くす。 ○衞文昇、單騎にて山獠を說き下す。 ○李渾、兄の子申公筠を刺殺しては、之に代る。 ○馮盎、潮州の獠を討ちて之を平ぐ。 ○楊素等に命じて、啓民を挾みて、以て步迦を擊たしむ。
玄黓	二	
閹茂		
二、己酉。		楊素自ら兩騎を引きて、突厥に隨ひ、其の頓舍の未だ定まらざるを伺ひ、掩擊して大に之を破る。是より、韋雲起言ふ、柳述は驕豪なりと。述、雲起を擧ぐ。 ○帝謂ふ、子孫、我が法を褻らば、猛獸が毛間の蟲に損食せらるるが如くならんと。 ○蜀王秀、勇を好む。太子、楊素をして之を譖せしむ。

		四、戊申。 六、丁未。 八、丙午。 十、乙巳。 十一、甲辰。 十一月、閏十。 冬至。 ○帝、秀を徵す。秀、猶豫して未だ發せず。源師泣きて諫む。 ○秀、獨孤楷を襲はんと欲す。備有りと聞きて止む。 ○獨孤皇后、太子、竹筒を以て魚肉を貯へて之を內る。 ○王勣、皇后、光有を修定せしむ。 ○楊素等に命じて、五禮を修定せしむ。 ○上、吉凶は人に由る。葬地に在らずと。 ○太子、蕭吉に謂ふ、我、卜して早く立たしめんことを務むと。 ○帝、楊素に謂ふ、吉地を求む。功、戎を平げ寇を定むるに過ぐと。 ○帝、蜀王秀を斃して、偶人を作り、帝及び其舌を歸たんと欲す。 ○太子、楊素を誣ふ。帝、秀を內省に幽す。漢王諒の姓名を書し、手を縛し心に釘し、華山の下に埋めしめ、或以て案驗を求む。帝、素を勅して、之を譖し、名を除き邊に配す。 ○柳裴肅、高熲の愈〻盛なるを忌み、二庶人を封するに小國を以てせんと請ふ。 ○楊素、威權を恣にし、之と抗する者、唯だ彗と李綱・梁毗とのみ。 ○毗、言すに、金を以て攻めんと。 ○素、寵を恃みて、對して驕恣なり。 ○毗、上に奏して、將に國患を爲さんとするを止む。 ○李賀若弼、素を疎んじ、三五日に一たび入省せしむ。 ○佛子弼、自ら大將を許す。討ちて之を平ぐ。 ○劉方、反す。
昭陽大	三	
淵獻		○燕榮、貪虐に坐して死を賜ふ。 ○楊素に謂ふ、身を正しくして天下を治めよ。通、賜を受くること多しと。 ○王通、得失は僕に在り。公何ぞ預らんと。 ○楊謂ふ、誘を息むは、辨無きに在りと。 ○又謂ふ、赦無きの國は、刑必ず平かなり。重斂の國は、財必ず貧しと。 ○又曰はく、怒るは、讒の罔。譽を見て喜ぶは、佞の媒なりと。 ○突厥の步迦、衆潰えて吐谷渾に奔る。長孫晟、啓民を磧口に送り、盡く步迦の衆を有つ。
閼逢	四	
卷		

困敦

二、丁卯。四、丙寅。六、乙丑。九、甲午。十一、癸巳の朔。

詔して、賞罰支度、竝に太子に付す。○帝、勤儉嚴明にして、民を愛し農を務む。丈夫、綾綺金玉を服せず。故に公私富溢なり。元年には戶、四百萬に滿たざりしが、末年には八百九十萬を踰ゆ。然も猜忍苛察にして、功臣故舊より子弟に至るまで、始終保全する者無し。○楊素、太子に書を與ふ。誤り、帝の所に達す。○太子、陳夫人に遇る。帝怒り、柳述・元巖に命じて勇を召さしむ。素、詔を矯めて述・巖を囚へ、張衡を以て入り侍せしむ。○太子、陳夫人に金合を賜ふ。帝、暴に崩ず。○太子、帝位に卽く。○楊約を殺す。○高祖謂ふ、稱す、楊帝の卽位は、堯の受命の年と合すと。○高熲・嘉摩訶、諒に反せんことを勸む。○王頍・漢王諒は籠內の雞・鏁の如し。何ぞ腹心を用ふるを爲さんと。○傅弈謂ふ、熒惑、地上の井に入らば、乃ち怪しむ可しと。○楊帝、屈突通をして諒を徵せしむ。敕旁、黠無し。諒遂に反す。○皇甫誕切諫す。諒、之を囚ふ。○王頍・裴文安、諒に謂ふ、西に入らんと欲せば則ち西兵を用ひ、東を守らんと欲せば則ち東人を用ひよと。○裴諒、騎戴罕離をして襲ひて蒲州に據らしむ。○高熲・安未だ蒲津に至らざること百餘里。諒、忽ち圖を改めて召し還す。○裴文・榮毗、反者を誅せんことを謀り、克たず。○喬鍾葵、諒に赴かんと欲す。陶模諫めて之を囚ふ。○李景・葵、代州を以て諒を拒ぐ。諒、鍾葵をして之を圍ましむ。○楊素委・馮孝慈等、拒守す。○蒲州を襲ひ、日を計りて賊を破る。○豆盧毓・皇甫誕、晉陽に據りて諒を拒ぐ。諒、擊ちて之を殺す。○楊素・晉陽を攻む。余公理、河陽に屯す。吏祥、擊ちて之を破る。○晉王廣、井陘を攻む。李子雄、幽州の兵を發し、擊ちて之を破る。○楊素・劉建・黎陽を攻む。○楊義臣、朔州より李景を救ふ。牛驢を驅りて伏兵と爲し、喬鍾葵を擊ちて之を破る。○鮮・呂州、諒の爲に城守す。楊素各〻二千人を以て之を縻して去る。○晉・趙子開を高壁に破る。○素、盡く營を守る者三百人を斬る。○諒、蒿澤より、清源に破り、遂に晉陽を圍む。諒、降を請ふ。○素、諒を清源に還らんと欲す。王頍諫むるに戰士の心を沮み西軍の氣を益すを以てす。

○王頍、其子を戒めて、故人を過る勿らしむ。○諒、幽を以て死す。○帝、獨孤后と、異生の子無きを誓ふ。○又謂ふ、五子、母を同じくせば、必ず分爭する無からんと。○諸子をして各〻方面を制せしむ。○權、帝室に牽し。○章仇太翼、徙りて洛陽に都せんと請ふ。○帝、洛陽に幸し、丁男數十萬を發して、塹を掘り、關防を置く。○陳叔寶卒す。伊洛に於て東京を建つ。○詔して、元胄、惡言するに坐して誅せらる。

旃蒙赤奮若

正、壬辰。三、辛卯。五、庚寅。七、己丑。八、戊子。十一、丁巳の朔。閏七。八、二日、秋分。○本志に、六月甲子、熒惑、太微に入る。

隋煬帝廣大業元

○蕭后を立つ。○諸州の總管府を廢す。○太子昭を立つ。○劉方、林邑を擊つ。○楊素等に命じて、東京を營ましむ。○宇文愷等に命じて、顯仁宮を營ましむ。○富商・大賈數萬家を東京に徙す。○皇甫議等に命じて、通濟渠を鑿り、穀洛を引きて河に達し、河を引きて汴に通じ、淮に入れしむ。又邗溝を鑿り、山陽より、楊子に至り、江に入れしむ。○長安より江都に至るまで、離宮四十餘所を置く。○大經宮を作りて、高祖を祭る。○劉方、小阬を掘り、草を覆ひ、以て象を陷れ、大に林邑を破り、其都に入る。○西苑を築く。周二百里。海水・神山を爲り、十六院を作り、秋冬は剪綵して花卉と爲す。○滕王集、巫蠱に坐して、名を除きて邊に徙さる。○龍舟・衞王集、龍舟に乘りて江都に幸す。共に殿脚・船夫八萬餘人を用ふ。州縣五百里の內、皆、食を獻ず。○韋雲起、突厥を用ひて契丹を破る。○西突厥の處羅、鐵勒を攻め、鐵勒に困めらる。

柔兆攝提格

正、丙辰。三、乙卯。五、甲寅。七、癸丑。九、壬子。十一、辛亥の朔。

二

○東京成る。

○州・縣を併省す。

○何稠等に命じて、輿服・儀衞を作らしむ。鳥獸の羽毛殆ど盡く。

○帝、稠等洛陽に還り、制して、百官、考を計り級を增すを得す。

○蘇威等六人に命じて、吏部と與に、選事を參掌せしむ。

○楊素太子を薨ず。帝、醫に問ひ、唯だ死せざらんことを恐る。

○洛口・回洛倉を置く。

○裴蘊奏して、天下の散樂魚龍山車等を徵し、大に東都に集まらしむ。舞人の衣を制し、兩都の錦綵之が爲めに空竭す。

○帝、白明達に語るに、齊氏は偏隅なるに樂工猶ほ王に封ぜらるるを以てす。

彊圉單閼

正、庚戌。四、己卯。六、戊寅。八、丁丑。十、丙子。十二、乙亥の朔。

三

○啓民、冠帶を襲んと請ふ。

○帝、長安に還る。

○朱寬、海に入り、流求國に至る。

○大宇文述、雲定興の爲めに官を求めんと欲し、帝に勸めて、盡く太子勇の諸子を殺さしむ。

○律ふ、頌つ。

○劉炫、業古は文案省し。故に士多くして府史少し。今や文簿の鍛錬、密ならざれば、則ち萬里、百年の間、又案を追證すと。

○州の謂ふ、往者、詔して官に除すること少く、每州、數十に過ぎずと。

○帝、北郡を改めて郡と爲し、官爵を增減す。

○十餘の丁男を發して、太行の道を鑿つ。

○議して、七廟を立て、別に高祖の爲めに、廟を東京に建つ。

○長孫晟、啓民をして自ら草を芟り道を除かしむ。榆林より薊に至るまで三千餘里。國を擧げて役に就く。

○啓民及び尚方陳外拒を爲して行かんと請ふ。

○周法義成公主、來朝す。

○啓民、衣服を變じて華夏の如くせんと請ふ。帝、許さず。

○宇文愷、大帳を作る。下、數千人を坐せしむ可し。

著雍執徐

四

○帝、啓民を城東に宴し、百戲を陳す。諸胡、雜畜數十萬頭を獻ず。帝、啓民に帛二十萬段を賜ふ。

○丁男を發して、長城を築く。

○高熲・賀若弼・韋世康・宇文弼・楊素・薛道衡・虞慶則・高熲の所引の善きに坐して誅せらる。蘇威も亦官を免ぜらる。

○蕭瑀、賀若弼と名臣と爲り、政を執ること二十年、物、異議無し。

○帝、榆林より塞を出づ。甲士五十餘萬、旌旗・輜重、千里、絕えず。觀風行殿及び行城を作る。周二千步。

○胡人、十里の外、膝を屈して稽顙す。啓民、觴を捧げ、王侯祖割し、敢て仰ぎ視る莫し。

○帝、啓民の帳に幸す。啓民、鮫を捧げ、王侯祖割し、敢て仰ぎ視る莫し。

○啓民、啓民の宮を營む。

○啓民、啓民の宮を營む。

○帝、東都に幸す。衡、食を獻ず。公卿より衞士に至るまで、霑洽せざる無し。

○十二坊を置き、以て一藝戶を處く。

○裴矩、西域の圖記を上り、帝に西域を開かんことを勸む。帝、矩に命じて、敦煌に居り、之を引致せしむ。

○鐵勒、邊に寇す。尋ぎて降を請ふ。

河北の民百餘萬を發して、永濟渠を穿つ。始めて崔人を役す。

○崔君肅、西突厥の處羅に說き、拜して詔を受けしむ。

○倭王、帝を謂ひて日沒する處の天子と爲す。

○帝、五原に幸し、因りて塞を出でて長城を巡る。六合木城・槍車・旋蓐を作る。

○常駿等、赤土に使す。

○汾宮を營む。

○齊王湯を以て罪を得。

○啖騫を以て屋を造る。

○裴矩、鐵勒に說き、長城を築く。

○宇文述、吐谷渾を擊たしめ、之を破る。

○恒嶽を置き、屋を造る。

○丁男二十餘萬を發して、長城を築く。

○啓民、城を置き、屋を造る。

○啓民、萬餘人を役す。

○熨斗祠を以て、常駿の船を鑊ぐ。

○薛世雄、金鏁を以て、常駿の船を鑊ぐ。

○伊吾を擊ち、之を降す。

屠維大荒落

二、戊戌。四、丁酉。六、丙申。八、乙未。十一、甲子の朔。

五

○啓民來朝す。○鐵叉・搭鉤・鑽刃を禁ず。○帝、山西巡して河を度る。○拔延山に獵す。長圍二十里。○元壽等に命じて、吐谷渾伏允を擊たしめ、之を破り、其民十餘萬口を降す。○帝謂ふ、江東の諸帝、多く脂粉を傅けて、深宮に坐すと。○高昌王伯雅・伊吾の吐屯設及び西域の二十七國、來朝す。○隋の郡、一數百千里の地を獻ず。西海等の郡を置き、民を發して轉輸す。西方先づ困す。○高昌王等を宴す。○馬牧を青海に置き、龍種を求む。○大斗拔谷を經て、風雪に遇ひ、士卒凍死する者太半。○裴蘊、以て悖逆と爲す。坐して死を賜ふ。○薛道衡、突厥の啓民を卒す。其子始畢を立つ。○裴蘊、旨を曲ぐ。○高熲、死せざりせば、今當に久しく行はるべしと。○裴蘊、復た東都に幸す。○漏丁を糾告し、二十餘萬を得。

上章敦牂

正、癸亥。三、壬戌。五、辛酉。七、庚申。九、己未。十一、戊午。閏十二、丁巳の朔。

六

○盜自ら彌勒佛と稱して、建國門に入り、亂を作さんことを謀る。齊王暕、討ちて之を斬る。○百胡客、帛を端門に陳す。樂を執る者萬八千人。○裴矩、帝に謂ふ、高祖に劾ふ母れ、常に僧尼・道士・女官を以て自ら隨へ、親王・嬪御と、宴席相接し、酒酣にして、殺亂○帝、遊幸する毎に、○裴蘊・郭衍、皆、佞諛を以て貴幸せらる。○陳稜、流求を擊ち、其王渴刺兜を斬り、其民萬餘口を俘にす。○散博士弟子を置き、相授けしむ。樂工、三萬餘人に至る。○帝、江都に幸す。○衡、語言に坐して、田里に放還せらる。○王弘の妻、弟が牛を射殺するを告ぐ。弘、命じて脯と作さしむ。

○江南河を穿ち、京口より餘杭に至り、會稽に巡らんと欲す。○初めて駕に從ふ文武官をして、紫緋綠の袍を著けしむ。○裴矩、帝に勸めて高麗王元を召して入朝せしむ。元、至らず。始めて之を討たんことを議す。

重光協洽

三、丙戌。五、乙酉。七、甲申。九、癸未。十一、壬午の朔。正、一日、雨水。

七

○帝、永濟渠より、涿郡に幸し、四司に命じて前船に於て選補せしむ。○四方の兵を發す。涿郡に集まる者、晝夜、流るるが如し。糧食・兵械を運び、死する者相枕藉し、臭穢、路に盈ち、天下騷動す。○底柱に崩る。○庚質、帝に勸む、親征する勿れ。諸將を遣はして道を倍して速かに進ましめよと。○高昌、西突厥の處羅を召す。至らず。裴矩請うて射匱に婚を許し、襲はしむ。擊ちて之を破る。處羅、奔り、遂に入朝す。○民、征役に苦み、始めて羣盜を爲し、所在蜂起す。○王薄、長白山に起り、竇建德・張金稱・高士達、清河・勃海に起る。

玄黓沮灘

正、辛巳。三、庚辰。五、己卯。八、戊申。十、丁未。十二、丙午の朔。

八

○帝、處羅に命じて、高麗を征するに從はしむ。○潘誕、金丹を錄りて成らず。之を斬る。○庾質請ふ、帝、涿郡に留まり、獨り諸將を遣はして高麗を伐たしめんと。○二十四軍に詔して、道を分ちて平壤に趨かしむ。凡そ兵、一百一十三萬、餽運する者、之に倍す。○瓦軍の行止、皆、次敍儀法有り、軍を發して四十日にして乃ち盡く。御營六軍を并せて、一千四十里に○段文振謂ふ、帝、突厥を待つこと太だ厚し。異日必ず國の患を爲さんと。○又謂ふ、斛斯政は險薄なり、委ぬるに機要を以てす可からず。○高麗降るとも、受く可からず。宜しく速かに進みて其本根を傾くべしと。○浮橋謂ふ、高麗水を度る。麥鐵杖、戰死す。○高麗の諸將に詔す。遼東を圍む。○造兵を敗り、進みて遼東城に至り、諸將を誥責す。○諸將は即ち宜しく撫納すべしと。遼東城に至り、其郛に入り、敗れて海浦に還る。○帝自ら下に浮びて、先づ平壤に至り、孤軍遠く襲ふを得る母れ。進止須く奏聞して報を待つべし。降る者○來護兒、海に會す。○再三詐り降り、以て攻を緩にす。○九軍、鴨綠水に會す。○三詐り降り、以て攻を緩にす。○宇文述等、百日の糧及び資械を齎し、勝つ能はず。米を幕下に埋む。中路にして糧盡く。

○高麗、乙支文德を遣はして迎へ降り、以て虛實を觀しむ。于仲文既に遣りて之を悔い、述等と與に、追擊して薩水を濟り、其の詐降を承けて還る。○百濟等の九軍、薩水に敗れ、還る者、百に一二無し。帝、述等を鎖して還る。○述等、境上に屯し、陰に兩端を懷く。○帝、述を誅すに忍びず、于仲文等と皆名を除く。○張衡、述を誅せらるるに坐して誅せらる。怨望す。

昭陽作噩

二、乙巳。四、甲辰。六、癸卯。八、壬寅。十、辛未。十二、庚午。朔。閏九。十、二日、小雪。○志に、五月本丁未、熒惑逆行し、南斗色赤き血の如くなること、三斗の光芒の如し。長さ七十尺。句斗に於て行く。

九

○民を募りて驍果と爲す。○衛文昇、代王侑を輔けて長安を守る。○宇文述、王世充を加ふ。○郭榮謂ふ、官爵を復し、禮を失ふは、臣下の事なり。○戎狄海內に起り、人の書を稱するを見れば、輒ち之を殺す。○孟子蓋、越王侗を東都に輔け洛陽を守る。○樊子蓋、張須陀を破る。○郝孝德、諸軍を督し、遂に東に圍むこと二十餘日、拔けず。○沈光、衛尉卿より、垂緩を得て復た上る。○楊素謂ふ、玄感の識度は、李密に如かずと。○玄感、天下の賢俊を驅策し、各〻其用を申ぶるは、公、密に如かずと。○帝謂ふ、玄感素に、將領を求めて自ら効さんと。○玄感、逆を督して進まず、逗遛す。帝、之を悅び、頗る朝政に預らしむ。○玄感、將に從はんとす。帝、之を責む。遂に黎陽に反す。○玄感、說く、臨渝の關路を斷つを以て上計と爲し、西のかた長安を取るを中計と爲し、坐して洛陽を守るを下計と爲すと。○李密、玄感に、從はずして死す。○宇文述等、迫ひて玄感を攻む。○韓擒虎、弘策を斬り、威令始めて行はる。然れども達官の子弟、玄感に奔る者、四十餘人あり。○李子雄・李密、之を拒ぎ、皆敗る。遂に東都を圍む。民、之に從ふこと市の如し。○玄感、兵を引きて南に出づ。裴弘策、之を拒ぎ、皆敗る。遂に東都を圍む。民、之に從ふこと市の如し。○李密、玄感に書を遺らしむ。○裴蘊、斯政を掌り、東都を攻めて救ひ、楊素の墓を掘る。○高熲、亡げて玄感に說く、垂拔くに慮る所無きも、但だ浸く亂階を成さんことを恐るとと。

○帝、夜、軍を引きて還る。軍資を委棄すること山の如し。高麗、城を閉づること二日にして、乃ち敢て田庚質に前見を執りて謂ふ、玄感は必ず成る無からんと。○帝、宇文述等を遣はして、兵を發して玄感を討たしむ。○李護、亡げて玄感に旋して東都を救ふ。○李子雄、屢〻玄感を破り、樂、十萬に至る。文昇、力戰して、楊玄挺を射殺す。○劉元進、韋福嗣を斬り、餘杭に起り、玄感に應ず。玄感、聽かず。密曰はく、楚公、反を好みて、而も勝つを欲せず。吾が屬、必ず虜と爲らんと。○密、玄感が尊號を稱するを諫む。○李子雄・李密、之に勸めて闕に入らしむ。李子雄・李密、屈突通を拒ぎ、河を度らしむる勿れと。○李密、玄感に勸む、兵を引きて西す。○韓擒虎、弘策を斬り、威令始めて行はる。然れども達官の子弟、玄感に奔る者、四十餘人あり。○宇文述等、迫ひて玄感を攻む。○裴蘊、斯政を掌り、東都を攻めて救ひ、楊素の墓を掘る。○高熲、亡げて玄感に說く、垂拔くに慮る所無きも、但だ浸く亂階を成さんことを恐るとと。○帝、淵を忌みて曰はく、死するを得可きや否やと。○帝、欲せざることを。薛道衡・王冑を誅し、而して其詩を誦す。○帝、淵を忌みて曰はく、玄感一呼して從ふ者十萬、益〻知る、天下の人は多き。○又謂ふ、士大夫と高選するも、亦天子と爲らんと。○朱燮・管崇、劉元進を迎へて天子と爲す。○楊玄感、晉陵に起る。○帝、淵を忌みて曰はく、死するを得可きや否やと。○裴矩、虞世南に謂ふ、朕の性、諫を喜ばずと。○帝、淵を忌みて曰はく、死するを得可きや否やと。○高陽に幸す。○達度設に說く、吐谷渾を寇掠し、以て自ら富ませと。○帝、淵を忌みて曰はく、死するを得可きや否やと。○李密、執へらる。守者を醉はせて遁る。○帝、淵を忌みて曰はく、死するを得可きや否やと。○楊積善・韋福嗣等、車裂す。向海明、扶風に起る。○帝、淵を忌みて曰はく、死するを得可きや否やと。○樊子蓋・衛文昇を勞賞す。○帝、淵を忌みて曰はく、死するを得可きや否やと。○吐萬緒・魚俱羅、劉元進を討ちて屢〻之を破る。二將皆罪を得。王世充代りて將として之を滅ぼす。○世充詐りて三萬人を阬にす。餘黨復た相聚まりて盜を爲す。○杜伏威・輔公祏、淮南に起る。○伏威、苗海潮を降し、宋顯を破り、趙破陣を殺す。

隋煬帝大業十	唐高祖淵	魏邢公李密	夏王竇建德
三、癸巳。五、壬辰。七、辛卯。九、庚寅。十一、己丑。の朔。本志に、七月、熒惑、羽林を守る。	山西河東撫大使となり、命じて書を作る。殿に書を作る。○帝、文を修めしむ。母端、兒を破る。七千餘卷を成す。	絳賊敬盤陀、降る者を擊ちて之を阮に釋し、之に代りて左右に置く。○樊子蓋、淵に降る。	高開道・羅藝・劉黑闥・附す。

梁主涼主李軌	秦武帝薛舉	定楊可汗劉武周	吳主楚主林士弘
梁師都・郭子和・附す。			沈法興・杜伏威・輔公祏・附す。

十

○帝復た高麗を伐つ。○屈突通、延安の劉迦論を討ち、之を斬る。○天下の兵を徵す。多く期を失す。高麗も亦困弊し、斛斯政を囚へて降を請ふ。帝、懷遠鎭に至りて還る。

○來護兒、獨り高麗を取らんと欲す。○楊公卿、後隊を抄し、厩馬を取る。崔君肅、之を禁ず。乃ち止む。

○帝、長安に還る。○丙寅。○丁卯。○戊辰。○己巳。○高麗を召して入朝せしむ。竟に至らず。更に後舉を圖り、果さず。○斛斯政を流に祀る。○帝、南郊に幸す。○庚寅。諫む。獄に下されて死す。○帝復た東都に幸す。獨り上帝に獻じ、禮畢り、馬に御して疾驅して歸る。○董純、江都に寇す。王世充、擊ちて之を破る。○孟讓、賊を討ちて屢〻捷つ。而して賊日に滋す。或るひと譖す、純、懦怯なりと。坐して死す。○張須陀、盧明月を祝阿に擊ち、羅士信・秦叔寶をして、潛に其營に入らしめ、大に之を破る。

○王須拔・山飛、上歷谷に起る。○帝、李渾・李敏が圖讖に應ずるを疑ふ。宇文述、因りて之を譖して殺す。○高德儒、孔雀を見て奏して云ふ、鸞集まる者數萬。

○帝、汾陽宮に幸して避暑す。○北塞を巡る。○裴矩、宗女を以て突厥の始畢の弟比吉に妻し、其を誘ひて之を殺さしむ。始畢、帝臣史蜀胡悉を怒り、

羅王と稱、來整に敗られ、海陵に奔す。○梁、十餘萬に至る。○荆河を轉掠す。梁、二萬有り、自ら將軍と稱す。

〇怨し勝蕩〇怨す閑〇敗以す失宜ふ〇有に日な〇と に交と京〇業と遷〇む兵
勝すで す 強帝す。に 動むでとふし 、奏り人は 賊帝を 幸遮請に 藤乃告に 義。な 怨
子。部と。 調 に は と 物 。ぞく 勝 子と の く 敗 、 勝 せ 、ふ 遷 殿 ち ぐ 念 成 、 怨
災 、 守 。 相 ふ 、 士 遷 乗 怨 情 帝 か 信 格 蓋 と 格 し り 盛 り は し は は 。 ら な 国
と 出 恐 、 怨 ぎ 義 す な 、 ら な は 調 る 人 で 部 。 こ 部 字 人 四 く 始 り 北 し

め 雲〇き な〇略 ら 云 な〇 脳 し 且 主 援〇ふ 怨 亜 兵 城〇と 彼 で 吾 く 藤 人 潰〇む な
で 定 李 援 勢 詔 せ ば ふ 撫 帝 め で つ に な 藤 。 き く な に 幾 。 の 、 の 、 威 と し 帝 。 脳
多 興 世 し り し 人 六 、 猶 、 人 遼 語 求 義 揺 ん 食 霧 撫 手 基 照 利 城 門
く に 民 け で で と 品 勝 し 將 と 征 な め 成 調 と 格 し り 盛 な 騎 に 守 目 す 走 国 に
疑 勝 、 む 悲 兵 。 に 有 で 士 。 な 下 、 公 ふ 調 な ・ で 、 り は し は は 。 ら な 国

柔兆困敦

正、戊子。三、丁亥。五、丙戌。七、乙卯。九、甲寅。十一、癸丑。閏五。朔、六、一日、大暑。○本志に、五月丙戌朔、食旣す。

十二

早く還らんと請ふ。宿衛を坐して解かる。龍舟を造更する。

朝集使至らざる者、二十餘郡。初め盜を捕へて議す。○陵を作る。黃水、金を稱す。○飾を張る。平恩侯陷る。一萬餘口に殺す。帝、驚怪す。○眠を覺す。○得て華蠻に放つ。○蘇威に近しむ。○賊を五月を以て書す。○賊を獻ずる。日を又高し。

騎を選び、千を得る。突厥、仁を破す。○渭水を破す。○其の爲に所を伺ひ、便を擊つ。○西河に翟兒を破す。

密、亡命を食ふ。屋を危くし、皮を剝ぐ。○黃君を免れ、黃を得る。○漢を絹に換へ、獄を出せり。徐世勣、脫して梁郡を掠む。○東郡を陷る。○密を識し、密を解く。○玄を善とし、密を求む。○密房を稍く。○子を郡に降す。○縣に勝兵十餘。○萬を斬る。○高士達を以て建德を司馬とし、以て建德を悉く士達に授く。○建德、郭を斬る。○楊義臣、士達を擊つ。其の必ず敗を知る。○先づ備を達す。敗して死す。○建德を擊ち、絳を還り、平原を收む。

太平元

鄱陽の操師乞、兵を舉げて興を稱し、自ら王と爲す。○始興元章、豫を建て、克ち林を以て士人を人を將とす。○隋の將劉弘、鄉を以て大將軍と爲す。○隋の將劉子翊、戰死して子翊を殺す。士弘、之を擊ちて餘衆を收め、萬を自ら稱す。楚帝と改す。

三十八百一第卷

麗を擊たんと請ふ。裴譖、之を名世に譖す。○除を宇文述に勸め、帝に江都に幸せしめ、趙才に諫むす。○吏に諫む。○任宗に下す。○杖死す。

○元都を越に命じ、等王を侗に輔け、東都を守らしむ。○帝に遼を征すと謂ふ。○崔民象を頗亦偶然も諫を斬る。○洛口倉を城く。○宇文智及を犯す。○化を禁ず。○斬らんと欲す。○之を釋して而して須臾にして陁す。

○密に說く。○李玄識を求む。○密を房彥藻、漢河等に遇ふ。○王世充を建德善とし、子を郡に降す。○士彥を稍く。○縣を降す。○兵を收む。○高士達を斬る。○將を高熊を數にして託す。○雄を密に賈す。○游を密に說く。○密を說む。○密を榮陽に取る。○食を足す。○軍を轉ず。○掠を地に收め、餘を開道に振ふ。○王世充を破る。○隋の將を格る。○謙を斬る。○高謙を振ふ。○復た振す。

下に以て說く。○密を帥に說く。○密を說く。○密を說く。○密を

十七五三正　蒼　隱
庚己庚辛壬　黃　若　國
黃酉庚辛子　黃　若　赤

白○及ち主　義　隋　恭
倉蒙ち盧布　遼　元　密
に、。明、　月擊　元　佑
盤諸　月擊　元　佑

解入○や鹿符吾縱劉
蓬參交とた、一に文
沈世解　。憑何一語解
ろ民、謂　ム資相。襲

た勝め靈洛に蒙　元
閥り、は口醫、
ま、之し倉ま都
、倉に し た て 譯

ぞ河兵薛す樂建　丁
。間三世。王橋
建た高雜隋と　、　丑
橋涵、のの稱長　元

ろ格○救れ東○す鵬豐官○ろてすを名す錄繼世○召帝非
。譯王せ、決民。陸彈、那　。左と臣、善た基章す即非
譯世す戒、飢　た醴艦　遷。た雲刹及雲。ろす
た形。てたら　た臭胸　せ坐武起黒すの起　之と。
斬、振昇。　猛てのの　ら譬、蒙。襲、　た。

は樂す慮ふくのとたの蒙○て し麦ち青○に ち亜○て す賊○た病○せ て 仕 ○ 李
、た ろ 、 。多 。隆 敗 す 惱 聞 、 狀 ぐ 邪 す 、 金 惱 敗 。 と 惱 呼 め 祭 し 虎 基 死 滯
宜 擁 義 に 小 世 ま 帝 、 數 、 義 せ 質 た 世 た 蹴 数 賊 。 之 稱 義 れ 未 七 善 げ と 王 ち 牢 に す と
し て 臣 是 竊 基 に 、 せ 十 河 臣 す た 抑 其 世 た 旨 脅 す も 智 。 に 謂 。 戦
ま ろ 、 ち 、 青 霧 其 り 萬 北 、 。 以 損 す 抑 其 求 た 敵 撃 、 。 普 戦 、 。 醫 蹟 鎌 し 要 の

合しりとの す 敢 ろ 兵 ○ 如 た 背 げ 合 ○ す 譬 誰 て
ふ て 、 況 譲 。 て ろ に 、 密 し 負 に 上 す 密 。 と 山 し 公 め 、
。 復 日 れ 、 報 も 陸 譲 。 ふ 猫 卒 上 す 、
た に 去 密 い 、 ち の の ち 雪 れ 號 號 の 、

○ろ陽○ら役も貫○ろ李武○嫁果○拔り老○ろち僑至ちゐ燕○ちんに○沓り李。倉李李ヤの。漢陽元ちと襲く、半李。て、ろ、てのお「計命王に、淵、倉、密、宮氏。鄭穢、ち寶襲窓炬、霍淵、之鑾、河密兵里、亡世據復に以畿ろり、昌を、ちの會間ちち雄ん、て充ろ亡屆、階察、知賜沓、降て、。て鑾、ち斬宋、破擊延に計路、し密等。回

拠厥に○陽○之雅起○ち武人基君○近しち兵等○穢ゆ淵籍昧○止ろす。と殺文に発ちち し淵ち士と等雅王して。ち止淵ち。文ちり人に等嶺夏ゆに。 碧く靜流厥殺囚、域、ち韃餘ち、域。萬旬藜命、て聲。こ兵、。後。會事爲ひ、、す、す、ヘ・兵 人日ち止ち淵、 と ち皆書繭 ひ解 で て突淵。晉。ゼ乩高 に:こ て氏。ち寂 ち驛、世・ て く 上 。ち光に李。罪繼ち君 破著鑾。領以程紊ち内 降宰に 降驟李

密攻ろ謎和○ち帝移唐○く橋等○ろ倉ひ○ゼて徽叔置軍○ろち基○ろち和○れ闘く、発數のと、画と中、密ゑ十て擁。。天仁 ち回、ち ち・、干、て虎、裏、て翠。以、発李

霞百十○の十ち發一、本朔二、犯慈月に、丁す慈。大宰、正、

平閤○に走に李○陽○助基○言人に ち爲帝基 して達○人 し 個掠憲幕○ち刈樂守密還り敗密陣に李く の封。る敢申望 し ち、ち急ち伺ら て、す都に乱敗、岡の琴ろ てる ち達起淵。義倫 と ち り す、誰以 。ち意。市人麗ろ劉に兵ヲ。啓 。回筝ろ、 固、 の爲 て。斉て廉者江元ち城ち越ち り、。長敗ち て 口密啓 。晉 ち世 莫ち 。是蓮と爆世け し斉 。に徙王鏡、東 巻

る淵語ハ亡○侍ち○申す と人亦ち家に○皆ち起謀舜○す平稱永り糟弼○す除稱楽 し ち安鞠と○至十す ち河西 し王西 し殘城起撃の○す平稱永り糟弼○す除稱楽 し ち安

后稱撃ろ三。啓平、楕、斉、の し、樓俊。と し樂、林子左。と し帝、自撃略 し 、。蒔楽略の・楕と の自 ち 合で兵馬域 改、王自に和湖 改 し帝 自撃略・ し 、東猟潤帝 て 、人亦國家に迂破ふ、て、て、民倍筝ろ 亡民 同と神酋 太、帝 に 、東猟潤ち稱薇ら劫黛俊ち薛府 元丑と ら嬢、衛 元永と ら定戯

ず孝階○つ楚稱自す可で式○ろ襲取汾ち の○ち撃で厳式ち嬢意。意れ鷹。斤し ら。汗で周突。り陽破で武殺ち智ち周討、ち、門 ち、帝武と定ち厳 ち、営り機周す、雑切、つ武王殺陣ち 立沮と周蕩撮立、 階定ち、煩襲。乞ち ち突。周智

ろ乞れ簾上○と。ゼく 墓伏蕩ち則ちの崖す斬ち觀背、。

つ千退ろ章襲蘂す康彼ろ掠怒ふ乞。ち ち。ち の胡。し り士て て 義ち。ち て士ち て兄楽に ゼて 乱ち 保衛弘取豫、の都南 乱夫統安駿

扶ち切長李ち長磯ひ唐○と亡我り と足縫チふ○都り す水攻○立子風、と 安淵謀ち安圧て廻仁設撃、常 。「ち。殘ろす、、し撃。ち仁撃。乞鞏ち て呆ち乃と ち日ろ こち しこち呆す ち李 ち國終盛、ろ事呆、謂 に徙下天、ち閤ち閤定に。と 崖、ち鑾、。、軌仲 ふち に ち而に ち鑾呆。

を〇と愛め に く 摩〇克驟で黎〇と び に と を〇止 代 の を 河 〇 敗 び 李 〇 た を
て 、 く に 國 、 亟 す に 沢 劉 屈 爲 で 爆 感 立 淵 す 軍 王 嫡 に 李 に 文 る 、 密 王 園 切
盛 顯 ベ 刀 の に 曰 頸 。 ち 解 た 通 。 上 た 、 で 代 た 体 雁 の 、 る 石 石 と 光 で 。 黒 、 匪 ち ま
闘 和 た る 爲 當 け た 。 た し 、 皇 僚 遜 帝 王 剛 し 、 る 石 に 戦 、 之

欲 に ひ ち 汗 以 た を の た 突 金 公 地 に 協 〇 っ 離 得 り 人 漢 〇 す の 日 に 〇 人 切 し 晉 青 〇
す 鑛 淵 。 響 で 推 淵 以 厥 王 に た 、 軍 劉 。 石 す 、 し に 淵 。 皆 手 り 、 。 で 、 た 命 、
。 ら 、 響 東 戴 、 で に 新 入 以 民 に 文 に 遜 ち 淵 。 遜 く 也 、 骨 千 り 、 。 で 、 た 命 、
世 人 晉 せ 方 し 本 す 鄙 昔 れ て 楽 詳 解 に 遜 ち 淵 。 遜 く 也 、 骨 千 り 、 。 で 、 た 命 、
民 陽 し た 、 密 。 る 江 、 陣 土 す 、 克 編 た 公 、 胡 除 人 一 河 に た ら で 定

た 戦 し 黒 〇 つ に の 傑 〇 ふ ら 宜 客 〇 附 皆 離 き 程 以 南 〇 た で 勧 〇 し 芸 石 〇 除 霄
破 ひ 、 石 世 。 密 兵 、 王 。 人 都 、 く 、 の で に 北 、 樹 得 黎 、 た た し 鎖 る た 藤
り 、 密 に 充 た と 留 世 た な 佐 。 密 慈 の 至 東 江 鎖 。 陽 鑾 徐 。 蒙 で 霞 る 、 以 、
、 之 と 解 、 撃 共 守 充 諸 取 ク 洗 に 敗 群 る 、 推 以 倉 の 世 ら 記 た で 武

〇 な た 傘 〇 闘 た ら て 巻 る 李 〇 下 に 之 た 以 数 〇 死 密 〇 っ 李 の 至 象 〇 た 切 〇 に 栄
李 を 系 、 猫 に 切 し 河 君 と 鋼 屈 ら と を 中 で 宜 亟 す た 爲 。 密 長 り 、 王 濟 を 鋼 園 通
鋼 守 じ 代 ネ 撃 き の 東 素 開 西 密 す 上 攻 る 共 の 季 。 隠 遜 と 、 東 世 る で 、 す た
、 る で 王 ネ る で 、 た た き に 通 。 月 ま 密 。 山 長 両 り 明 た 共 留 都 世 。 。 軍 。 河
長 。 呈 角 昇 。 僅 長 す し 、 人 、 、 る 、 佐 た 、 で 、 撃 に 中 に 充 衆 軍
ふ で 栄 〇 た 、 猫 に 切 し 河 君 と 鋼 屈 ら と を 中 で 宜 亟 す た 爲 。 密 長 り 、 王 濟 を 鋼 園 通
李 を 系 、 猫 に 切 し 河 君 と 鋼 屈 ら と を 中 で 宜 亟 す た 爲 。 密 長 り 、 王 濟 を 鋼 園 通

で 不 嫁 勧 発 鉄 降 爆 で 大 ま ち た は 世 ま
。 可 ず 、 す ら 艦 温 に 。 摩 し 長 。 淵
と 以 。 な 。 ん 化 る 販 ち に て た 、 淵
為 で 都 を 構 と 化 。 れ 泉 し た 蓋 子

なきめ守ら
るを城に東兵し
て。靜以顯を引
城に降て和に走
を遣靜は、文し
文を之を文。
散む之を文。
ら散む之を文。
るじ。て通追は、はし寶る
王を遣靜に降以顯東兵
世。て通追は、はし寶る
を。て通追は、はし寶る
充、禽へ衆して琮。文、走引し
倉、へ衆して琮。文、走引し
又城、

李○密王世充倉又城、
敗に襲ひる。

夜聲開郡○亡隋淵るとたと○或淵○むし復
哭、帳。てたゆ
中乃召ちに
寺。
老淵○むし復
進雨。てたゆ
生み止還軍
之をてむらを
霍を宋。し召ち
邑斬擊。
ち抜て、生進雨。てたゆ
く、之をてむらを
命。霍を宋。し召ち
奴の邑斬擊。
功じ
を賞、淵抜て、生進雨。てたゆ
す奴く、之をてむらを
るの命。霍を宋。し召ち
人のこ功じ
せしのこ功じ
如く良せしのこ功じ
と、賞す人のこ功じ
た賞す人のこ功じ
て淵抜て、生進雨。てたゆ
を淵抜て、生進雨。てたゆ
む。如く良せしのこ功じ
む。如く良せしのこ功じ
む。如く良せしのこ功じ

東に圍まし、自らを大きくす。○河軍李濟、李孝常、豐倉を以て降る。○渭宮に次す。長春宮に次す。士民、中の之に歸すること如し。皆、望賞に過ぐ。建成永に命じて北に屯せしむ。○渭世民、倉を豐に成す。○渭に命じて東に突入し、通關を棄て、潼關を保つ。○柴紹及び李神通、段綸等、鄠・杜に起兵す。○渭、翊、進み屯す。○渭世民、渭北を招撫す。至る所、附す。○柴紹の妻、娘子軍を號す。○丘行恭、奴賊帥を斬り、其衆を降す。○世民、房玄齡を見、如舊識の如し。引きて謀主と爲す。○劉弘基、長安故城に屯し、留守の兵を敗る。○渭、建成・世民、諸軍二十餘萬を召し、會して長安を圍む。克つみ、殺掠を禁止し、法を約し、二十條を除く。民、苛禁を除く。隋の世師。

滑儀を誅す。○李渊、將に靖を斬らんとす。世之民釋請すひて代を立てて帝王と爲す。丞相と爲る。渊、進みて唐王に封ぜらる。○劉苑世龍、樹布帛に易へて請ふ。○世子建成を立つ。○李孝恭を南山に招かしめ、南を下す。○之世呆を民扶風薛仁に破る。○關中諸郡皆降突厥に通ず。桑顯和を遣はして劉文靜を襲はし、克たず。東に走む。通、文靜を追ひて之を禽にし、遂に新安以西を定む。○詹俊等、巴蜀を徇へ之を下す。

卷の第十八

著雍攝提格	隋恭帝侑 皇泰元	三、丙午。四、乙亥。六、甲戌。七、癸卯。九、壬寅の朔。○本志に、十月、壬申朔、氏の五度に食す。○六月、丙子、右執法を犯す。螢惑、兵を收むして、七月を丙午、鎮太白・辰・東井に聚まる。
	唐高祖武德元	王世充、李密を洛北に擊ち、之を敗り、遂に浮橋を作りて洛を度る。○隋、唐王に殊禮を加ふ。唐王、書を以て諸郡に諭す。○縣を東は商洛より南は巴蜀に攻め、其外を破る。長更を遣はし、豪傑・蠻夷・盜賊・皆子弟を降す。○世充、王を殺し、其外柵を破り、王辨を擒へ、其營を破る。○世充、北に敗れ、洛を戰ひ、密を擊ち、之を敗る。世充、知らず。○世充、大乘に乘じて、密を擒へ、其外を破る。○世充、長更を遣はして、請ふ。○成・・・奉公世建を援し、民に命じて、兵十餘萬を將て、東都を攻む。皆降る。○世充、數萬人を死傷す。士卒等、凍溺し、辨に充てる。○世充、自ら河陽に囚はる。王世充、召して、之を慰め、田を賜ふ。○世充、誅に越す。
	魏邢公密二	密、世充と戰ひ、洛北に敗る。世充、勝に乘じて、其營を攻め、外柵を破る。○密、大に之を擊つて、王を殺し、其外を破る。○密、奉を辨し、逆を破り、段を達に殺す。○密、門を上に據り、大に逼る。○密、金墉に上る。○密、上津を破る。○密、是を師に於て、偃に殺す。
	夏王建德五鳳元	建德、琮を河間に圍む。王、即き、位に生き、楊祖を遣はして、使を招かしむ。歲餘にして、乃ち降る。○建德、其忠禮を用ひ、嘉して、之を河北に徙す。○建德、其禮を用ひ、嘉して、之を河北に徙す。○建德、其禮を用ひ、嘉して、之を河北に徙す。○建德、其

望〇ょ ゑ化因事に及〇無復ゐゑ帝帝す計に通穢旅ひ驕纏〇ひれ日す保將皆〇
見帝。主及り を醍、宇 ト:是に立に。を於等戴す、ら く江り大江。ヤ:に を帝
し、 ょ を て庁く 億文 。宵是ゑ ち自宮明、源裂司く と墨、〇の 卿人賢 。都と 禹く 公 江苦・
、火 爲茶 ゑ、 戴文 ゑ り ょ を ょ す 人明 源裂司く と墨、〇の 卿人東め丹
及を ま に況に 大等智 者 斬 こ 。 論叛座廉島亡思、穢 事此皆 と を 、穢

を復鮮〇ゐ北り を軌破に救寮ゐ僑小撃て悉く甚を撃小撃て悉ゐ。ひ
殺す 解縮 。 、 以 、ゐ化の 。 。 ち化し 、 に受蓄 。合閣を 。 裏 。和陽
ゐ 聖 し 域 に 化で 東 。及 、 ゑ 奏 を 帝 に 、 及 に 戻 慕 け 、 と 。 以 陽 を 。 ゑ 帝 を 米
と 明 、 、 走 及 陣 戦 王 を 遂 を 叔 被 、 戦 章 を 以 を し て 誦 爲 宜 て 、 ゑ て 、 来 り

ゑ及撃〇と の作 そ け〇 救 帝 に 勅 及〇 を 亡 〇 憶 及 め 略 分 し 等〇 書 翻 等 霽 に 内 河
。ち 卅 。 す 書く化ふ 、及を 、宇殺 、王 招 霽 穏 で ゑ ち て を 原 き 進 、 祖 陽 ゐ 皆・
を て 勅 、 ん を 語 、及 。 ゑも 鑒 倍 文 を 彦 王 招 霽 穏 す す 帝 し 溢 普 彦 す す 帝 祖 ゐ 皆・
既化 、 や須を 何 曰 た 。陽 匪 化 。 藩 穏 く 徒 宦 し 經 を 比 藩 。 。 に 穏 。 蓄 河

元 婚 を 璽 に て し 燕 ち 逸 道 〇 ゐ て の 策 薛 ち 鑒 〇 ゐ て 隣 〇 ゐ く し 忠 へ 穀 鈸 〇
す 興 叔 の 陛 高 、王 、陽 北 高 。 ゑ 、 高 。 建 。 青 州 麗 。 ゑ 、 、 き 霽
。ゐ て り 曇 薛 と 自 に 本 。 間 を 摂 を 藩 に を 霽 を 嚮 と 以 を 、州
改 。ゑ 、 属 り 稱 ら 寇 : 間 滅 き 用 の 、攻 、 陛 以 、 用 し 爲 て 執 麹 を

高 兵 有 皆
ま 四 ク 、
り 十 。ゑ
。 餘 勝 を

す心 て に 止 等 謝 と 賑 て 倉 〇 く 臺 で 雷
。 を 篠 由 ち 。ゑ 統 酌 け 儀 を 曹 を 王 信
た 離 下 り 是 を 師 。 人 を ま 、 筌 女 し

ち 跡 に り 田 ち 折 兵 ち 原 瞻 ク 来 壁 を し た り の 十 に て に て 會 ら 長 じ て 渠 す
。ど 宝 、 て 。 座 進 。 、 。 り の 圃 唐 、 兵 果 原 折 果 卒 ; し 安 て 勝 に 。 幕
り 長 て に を カ 壁 に 諮 宗 り 峯 ち 殆 唐 劉 を 、 ち 墟 立 す 殆 ち を 直 に 翻 殿
ら て 安 陛 果 圃 て の 敗 水 羅 伐 王 。州 に 感 敗 原 。城 ち 。 か 。 京 に 率 め 、

ゑ 當 頭 日 は と ゑ〇 と ら し 廳 ず 憲 都 む 二 憲 は て〇 ち 皆 河 す れ の 陛 門〇 に 瀧 せ
と を に 頭 は し 作 帝 を ゞ 、 カ 徑 に 。品 り ゞ 公 城 。 陽 。 て 蓮 に 密 據 カ し
。所 来 、 く と ち 長 自 惡 ら 唯 で 。 孟 玉 者 、品 、 ち 糧 を 第・ 偃 章 犬 田 逼 、 ち て も
ち り 藩 、 た 城 ら 人 ず 遊 景 ま り 、散 者 を 寺 に 内 伽 津 に で ち 上 。金 。
て こ か 好 文 矢 公 謂 。 こ 足 遊 を 蓄 、江 進 官 を 食 り 降 ・ 死 敗 戦 。 祟 殊 蓄

ゑ の 新 ゑ 季 人 ち 東 ち 稽 斬 游 〇 す 伽 貳 〇 爲 は 図 を 自 愛 む 相 〇 公 〇 爲 原 〇 ち 巣 て
で 二 安 。密 、 、 来 田 連 都 建 胡 り 十 簾 。 ゑ 等 霽 ま く 狭 は け 。 國 王 と 世 る 道 元 。 を 安
遥 群 ・ 綜 り す 都 に 既 を 遂 入 、 四 軌 で の 抗 す 卒 こ く ま す 九 、 爲 兵 。 元 吉 伽 陛
ち を 宜 す 戦 の 至 、 破 に た 群 来 群 、 と 生 こ 入 、 し 鎖 に 位 ち 、 伽 、 ハ 、 朔
。 慣 陽 。戦 に 。 を 天 て を 遣 た 部 陛 を 靈 。 と た 天 て を 遣 た 。 遣 と 太 し 朔

ち 及 撃 〇 と の 作 そ け 〇 救 密 に 勅 及 〇 を 亡 〇 憶 及 め 略 分 し 等 〇 書 翻 等 霽 に 内 河
。ち 卅 。 す 書く化ふ 、及を 、宇殺 、王 招 霽 穏 で ゑ ち て を 原 き 進 、 祖 陽 ゐ 皆・
を て 勅 、 ん を 語 、及 。 ゑも 鑒 倍 文 を 彦 王 招 霽 穏 す す 帝 し 溢 普 彦 す す 帝 祖 ゐ 皆・
既化 、 や須を 何 曰 た 。陽 匪 化 。 藩 穏 く 徒 宦 し 經 を 比 藩 。 。 に 穏 。 蓄 河

元 婚 を 璽 に て し 燕 ち 逸 道 〇 ゐ て の 策 薛 ち 鑒 〇 ゐ て 隣 〇 ゐ く し 忠 へ 穀 鈸 〇
す 興 叔 の 陛 高 、王 、陽 北 高 。 ゑ 、 高 。 建 。 青 州 麗 。 ゑ 、 、 き 霽
。ゐ て り 曇 薛 と 自 に 本 。 間 を 摂 を 藩 に を 霽 を 嚮 と 以 を 、州
改 。ゑ 、 属 り 稱 ら 寇 : 間 滅 き 用 の 、攻 、 陛 以 、 用 し 爲 て 執 麹 を

高 兵 有 皆
ま 四 ク 、
り 十 。ゑ
。 餘 勝 を

す心 て に 止 等 謝 と 賑 て 倉 〇 く 臺 で 雷
。 を 篠 由 ち 。ゑ 統 酌 け 儀 を 曹 を 王 信
た 離 下 り 是 を 師 。 人 を ま 、 筌 女 し

ち 跡 に り 田 ち 折 兵 ち 原 瞻 ク 来 壁 を し た り の 十 に て に て 會 ら 長 じ て 渠 す
。ど 宝 、 て 。 座 進 。 、 。 り の 圃 唐 、 兵 果 原 折 果 卒 ; し 安 て 勝 に 。 幕
り 長 て に を カ 壁 に 諮 宗 り 峯 ち 殆 唐 劉 を 、 ち 墟 立 す 殆 ち を 直 に 翻 殿
ら て 安 陛 果 圃 て の 敗 水 羅 伐 王 。州 に 感 敗 原 。城 ち 。 か 。 京 に 率 め 、

び喧囂を聞く。裴虔通、對ふ草坊ふ。裴虔通、失ふ。燕王倭、優容す。令狐德棻、帝騎を特す。百餘萬控弦に
ふむんで、引虔通、裴寂、文靜、蕭瑀、劉政會、封倫、宇文述、宇文化及、宇文智及、宇文士及、裴蘊、虞世基、世充、竇建德、李子通、高士廣、朱粲、李密、竇建德、王世充、宗羅睺、李軌、薛舉、薛仁杲、劉武周、梁師都、劉黑闥、輔公祏、徐圓朗、李子通、高士廣、朱粲、李密、竇建德、王世充、宗羅睺、李軌、薛舉、薛仁杲、劉武周、梁師都、劉黑闥、輔公祏、徐圓朗、
こと、燕王倭、優容す。令狐德棻、帝騎を特す。百餘萬控弦に
通を聞き、生員外修撰、學士を召して、內閣に入れ、文學を以て、內閣に入れ、文學を以て、內閣に入れ、文學を以て

等○と秦共王す即位○據か引位とり人位戴む心のと秦○せ事とに世田令○し、元號ろに世。目に認ろた き及で、こ及。卿。如一秦化ら泄ゑ應弘で、果で李次。七政等遣大く。帝と都　貴ゑ、。祿　祿　怨秦帝こら　諜　諜ゑ殲

升で祿○に○す遣ゑ○死從說す感○つ薛○くし次王ゑ警○す無○降榛○ろ名し御引帝す燈ゑ帝む座。にき哨。帝

○と○す元めで餘從すさ失勝○し山通○禮獨照臣な密賄執ゑのにす○秦。寶。海關　規　子陽ゑす元と滅じ喊　徇じ王　ゑ　密　秦王　抗　ゑ喊ゑ收秦規欲ほで　へで神　親上ゑ朝か。で文公密鄉降

高　闇　取　殺・攻め秦規欲ほで　へで神　親上ゑ朝か。で文公密鄉降

兵復後死く甫く密ゑ唐とに取王ゑし○諜與王ゑゑ○ぜら與し兵朝○ろて人乃柄た、す、日實にすたふら稱充め蓄、。叛當ちも、もゑ、密ゑ地。世　弃ゑ萬ゑ肯誰ろ蔡　日實にすたふら稱充め蓄、。叛當ちも、もゑ、密ゑ地。世　弃ゑ萬委でかの讓は國叛　。之。人秦ゑで秦東　ゑと、ろ食。獻自に籠・世　弃ゑ萬

ち遵と總し左世發ひ宮世と ゑ等○ろ及に都○ち○輔入で化罪ふで○とた交進。。督　內朔ゑ。文　ゑ盛都ゑ夜ろ人世　ゑ化密東　ゑと、ろ食。獻自に籠・世　弃ゑ萬

唐貞せ外と以盛都ゑ夜ろ人世　ゑ化密東　。起　。ゑにげつに名し。こ擊字

弃無しゑ爲で、ゑ襲、。こ充都　走化密東　。起　。ゑにげつに名し。こ擊字

○む○ろ北○す元めで餘從すさ失勝○し山通○禮獨照臣な密賄執ゑのにす○秦。寶。海關　規　子陽ゑす元と滅じ喊　徇じ王　ゑ　密　秦王　抗　ゑ喊ゑ收秦規欲ほで　へで神　親上ゑ朝か。で文公密鄉降

高　闇　取　殺・攻め秦規欲ほで　へで神　親上ゑ朝か。で文公密鄉降

兵復後死く甫く密ゑ唐とに取王ゑし○諜與王ゑゑ○ぜら與し兵朝○ろて人乃柄た、す、日實にすたふら稱充め蓄、。叛當ちも、もゑ、密ゑ地。世　弃ゑ萬ゑ肯誰ろ蔡　日實にすたふら稱充め蓄、。叛當ちも、もゑ、密ゑ地。世　弃ゑ萬委でかの讓は國叛　。之。人秦ゑで秦東　ゑと、ろ食。獻自に籠・世　弃ゑ萬

東ニ〈ヽ木〇ヤ甲〇ろ大〇改し詳し秦尤翻散及〇ろを琺口を、、鵜巷。光徐。鴟王元、帝、王も薛し、宇。以元を分以業若 光文 世ヤ鑑苦 と逢 と充 眞戎ろてを光を業 を蘊 と充。諧と雌を逐て兄象 て、ヒ。河易浮、 拜、 爲、 と稱に爲に相弟離化 陣城。

〇ヤすと〇ヤ易〇ヤ遊て〇ひを比〇と果〇ろ首に巷〇誉牢惟陣〇ヤを〇課を羅。本、巷。盈河。逡行、秦。掛し李爲を帝。を甘趙甚を以と ヤ徐。見密ひ課藝、其若 那突 臺陝王 擬て密ヤ及、 島ら素慕し東奥。世 て、ヤ來城游素 來颯 と東を 甘山を。て薛れに京ひを に殉勳 心秦ろ陣 分王死 陣の 爲東以 し東證 戒仁 ら、擁、。鰹虔孝來 脚王 を

ヤ甘伯排崖縱と びスや蛇し て當ヤのけ。 甘 。て培を。矣ヤ密 は且 け公 死井王迫。、ヤ再つ人に

〇穫を〇ヤを て〇を ち と北戰と〇稱討公て〇ろ上氾〇帝〇萬ニ〇置し を〇進を状逡。獲詐入破、、山の通世ヤ孔、身世 。表法朴を陣。と て錢く、章世 ガ獲ネに り を ろ大密に山、湾死。し李 丈 し興快碧稜 に米惡。十秀 て。堰 と 靜に を逆に 李 ヒ 人、し 頭ち、 て逆ろ、 と 充。諧と雌を逐て兄象 て、ヒ 浴 鄭師 稱密し を擊快を に密 と を周り 陣貴。。鴉 九斛く を に亟

くヘヤと し陣果〇ヤて比を力疏に兵ろ〇果國ひ輕に に暖〇と ち我 く と し壓堆 仁李 。興め卒等秦人儘則を を に ヤ、秦陣ち、簷乘破を人。克謇 、て を王 果密 に て を王 と外ち金丼人比を耀王ろ。昇を じ り 證に つ ろ彼 、戰 際り の、 射、辨し、に散に ヤ り則を暖 。薛城を て、水宗 可。簷目 け際り 黨盡 獵を ひて仁 歸し ヤて、ち緩の謂 仁を逐、勝原羅 乃 り け ヤ く、

逐る非辰鎮三〇一閏丙丁戊己庚辛壬均初　單　屠
帝、。に、・月本日二寅卯辰巳午五用のめ　閼　維
令五冬、聚た白申に雨、。九七五四三。ふ戊て寅傳　
侯發ま東・　侯ま東・　

考〇る〇嚮其登〇り通ふを宇して〇も謂〇てつてもを酒〇を〇孫秦　武　唐
第帝。禪は功す積、。受交む杰吐。の初之。卿。鍋、淮以元宮王　德　高
し、蜜は功す。君從金淮け化。軌谷　法で閼通は吉安人及世擊を　祖　祖
、酒退德。妄神德は吉安人及世擊を　を租も迫を走に化王る鍋す　二　二
孫臣く至　、先。食神諸降、たし　定庸ひ保り攻及神。州。長

佛主〇朝〇る てりこにて充都〇を及書以てり閼宮に政〇とて嚮世　開　王　鄭
事、。誅、と歷以を等擴悅びすで甘。然府、事充す府遷、を充　明　充　主
を唯皇す充　せ坐をせで殺、孤は謂る、言好禁、事充す。條び朝　元　
作ま泰。　ら し謀入唐し世武す羹者上をみた翳蓋ら。

〇十燃啡び粟蔬し辰ち將は貝嚮〇すをめのし帝謂〇斬しめ卿を建　德　夏
隋許差は、。る、土。勝建　蠻百を尊を、后。之生に及　五　建
の人鑑す肉を・常所身に悉得ち德　存官收國突陽に　を攝攻を宇　二　王
宮。に。を食陛に無、分くれて

克を唐　鳴　錐　梁
ま使の　鳳　
す し 峽　三　主
。州

を倚興從む に數貴〇つて唐と皇で奪蕭と相は内唐へ曹とを唐を軌　安　軌　涼
起仁貴は。降き、安。之主稱帝從に謦。害河ら珍欲受の去　樂　
し と、す軌ら で軌 を怒す臣弟依の功ど西涼は く以すけ官り帝　二　王
、兵弟。、し唐に興　絕り。軌涼り故ちす、帝闘 ら。人僭で號

ら德し安〇敗段を唐　永　梁
る操、を復ち德使の　隆　梁
。に文を たる摸し延　都　
敗、使延。に、安　三　王

れ晉剛克み晉〇くの晉にを唐〇す交誼り鼠唐にひ周へ天を く武朱　天　汗　定
、州、逆つ。之を周る鎮の る崇誤剛　に仲寶敗產、州從武爭、陽說、　武　楊
絳をみ。之を周る。多北。原淑　

ろ唐〇稱き都通惡兩を伏を江毛を伏む陣〇くて忍すとし王法　明　子　吳
。に威。帝を に。実ふ、の り の深ふ、を酒　れ下に惟改延　政　通
降、　と救江子ト、營、人、。之、興圍　叛多し殘元康稱梁　元　主

ろ唐にれくと之相つ霍しも、無諸食めちくす稼弄其ちさ未を り城常粟、　太　楚
。に弄で。師。糧に。城に以に な侯文。之を は粟務 を り に盡び倉を し從　弘　士
唐、に り菊粟に る城に以に な侯文。之を は粟務 を り に盡び倉を し從　平　主
降、　澤敗叛で侯充で稅ろの文を寂乃盡め排焚、輒き、粟破、　四　

八十八百一第卷は後以りよ月一十　七十八百一第卷

け已くむく胡〇くの擂で李んに〇落喪〇之遡く〇之く〇帝珠〇す。
たに我、帝。ろ に李。官で康素と人帝を を李を へ く。李を 帥王企りす。那
り之、帝 を を、罪發世帥擊蹤蜀ろ氏地す。
と を業 目を を 清 を 執す殺法ろし勸ろり彥 。
。授には講授 舞　授要帝り。き外 。で、で咄叛 、叛。

ナ○○く○して○れれ准寧州○ナら州○ろ〜○返ん○ろ州○ナん○つナ曾。
羅徐。十ち武裳逃慶、蜀龍に劉。可ん劉ろ〜○安ら吸侍段ん に劉。弾恨。○。
士周二。周淑れ慶谷李・高武 汗階季 李興 軌賞 、、ろし周 長 颯 逓 弟始
信朗 軍 ん に 騒 せ に 仲 。、 と、、 ん 、 復 秦 李 つ周 ん 、、、 ん 周 に 士 蕊 羅 畢
陣ろ 鼎 れ じ 。ら敗ナ 姿少 稱自石 迄統 れ之秦 橋幷 致帥 立卒

に〜潜ろ郭浩○陣信○ん○ろ○てり こん祭○多ほよ○ん古○ナれ日ろ坐に
臨、憲。陽士ろ、殺皇。群、と殺、裳し語、蘇琿、 。こん遂
ち梁ん光に の信 。庫羅ナ秦 せ坐ん き世ナ に ん世良ナ支 蝦 田後と謎ぶ
。陽徇入外、 に士。主 ら謀人充基。れ謂 。窓瀧 て復数く、

の斬儘殺奴○ナ勅函推ち黎○に穂○ろ姫唐何六に興く ん殺盗ろ。温克○克○
書り 、ナ 、王 。ん・安 、陽徒敗ん藝。、如王陣 、、て源凌。凄ち趙つ相
ん 、奴 。軌軌 唐李王唐に穂ろ療 、 ん藝ろ の ろ羅高日ん祭敷 ん 、州 。州
返軌ん徒ん の に世紳の克 、 。水徒 陽に 。窓 。藝士は謙ん 、 執硬に に

遠連劉星ろ尼○獲○のんナすナす獲き凄○ろ嘉○知○ナ○ナ封○んナすて伽
ぜれ武、突 。ん李嘉王官言 。れ。ぜろろ奪 に李簡察。許ナ言ろ。第・
ん 、周察厩 ん公ん世ん ふ義ど宇ぎ ょ ょ三王 撮厚来叔 結 察士。け臣一糊
と跨と簡 逃取充発 。し ょ 史ろ 、日元 、小穂除寮 来及 ぎのとん
すに兵都の て 、ろ復ナ元て改敵能一倉言 て 、ナ・ 来 除 陣・ ろ課窓以
。入ん・給 除兼 。ナ。言ん之ろ諏け日け 、 除獲。程 除 陣 。

衢○唖と支穂稠けの む王○む く ん○ん必ナ號充謂○ろ ナ○唐に穂○除簡寮ナ
市輕ろ窓想明ナて陣 。 餅 。ろ鎧艘ん ナ 。 遂ふ李。ん世に撮、李ろ 、 。
門藤 。ろの 、帝ん に ん ん曹 。蚊四ん に 、世 ん充除り獲、李。唐程秦
外 、 ん師王陸と受 逝鄭 諜受 、 ナ方正位世英 取復ろて嘉厚 に知叔

克○に后貢○つふ主立王○克○と じ穂ナ隋り て しけナか浩け職に百散皆ん人
つ粥送ん及化 。 ん ナ 、ナ世雄つ邪窓て穂 。 に 、ん 、ろ 陽 、 隘曾韋 、得・
。州ろ突ひ及 ん乃と充穂 。州ナ夏ん隋 に 裏ん寝霄 ろ と に 突 ひ 、 ん れ 鑽
に 。厩藷の 絡ち閣自 、 に 。王封 、寒ん送け結者欲往 。殷て冫 、ん け果

州鎮晉晉戰剛○を○帝用○州○せて○る擊に○る德安○つて安州州○○て○獨皆州州ひと婁諸往を○婁を鑾し蕭李。ち寇蕭。撰に、寇師。黎王に を簾鄰蕭河り沒以に、庶寇ふ伏殺て寇陷建も銑靖。てす銑 陽通くれ德鑾在厭存し北奔敗案、。威す、のろ德、に命 之。計。峽 を稻。劉譚 、。經命 之す。都、 を退。浩城。てに金 降 交を 相 略し 蔽州 敗段延 保き淮相洛。め す洛○附発降す。州徒す。皆、蕭、游 にり。皆、蕭、州 都て 歸。州

縣○州○ぐの○之すた○道州○解惡建○さて道○綜晉も承す上奔王陽○死○に呂を未。山脈を段延梁陷を陷建をすを獨む梁し易は突州州。獨。所で元を劉す姜據崇陷金 王破德州師執れ德求。諫、。那で、逼陷金め充人走、も周 り浚名剛 を漢 ど蝶に都ふ、、、も臧む大 を來使られ剛で欲と名城。、敗 で、。、 平中 又寇復。張趙。を。子 殺りを。、止。欲。を齊晉れ 叛夏 滑

執上 徐章

〇十十八六五三正 朔二、、、

○す闘介○食びる雀百に迫る○降○と○を○義臺王遼○にく所檢反○子州○劉。延休又せ戦。鼠里行ふ秦。未る劉爲封攻朔に人とを突伏す。を獨武を王敬に、すび一谷金こ一王金 眞。繇 の 詳 相 官 定楽陪政 誅告の庫、。軍路徳破金 百た破を二夜を走 り 闘 を見之闘 突 降 、を

秦○に を叡○に を二○る洛君○る抜れ遼と唐○を守を人將○す て顯○に以○王世降以、時る で五寶、 珉回黄 歸を敗、王、で計、ろ ち兵 降以 突安宣、。唐州德。唐州 と充る で七 隆以十田。を漢唐。き、淵戰の世檢雙闘と に唐 來を寶す突安

○を譽均む闘○を ち骨○ぜ空降道○師右德謂○敗綽を興○す商遼す之を○敵劉敗ち兄。州建取、 開ら王り、唐高と手ら、伏 。旅無。塊を め商彬ろで弟蓓を德る煩を遺ろに、唐高。封北に開。を左建寶 に 、藝士 宿 、内殺 、胡

求り○ろ城兵た○せのひ充く建む で王。 に を建李と勢、德 。叔疏 を來 敗火の復 成足敗世說

殺め攻で補○す、め 巣に鈍 。之 珍命 、 を しを と振

ろと○洛○す○を○に○すの李子○世を○至來○充州棒○夏○り州○蒼州厥。。李秦を黄。西遼秦鎮太。使襲を用充督秦り突に を を田縣秦死を劉隧降に城王取君 墨調王す子、、 若 響 鎮突を し王で で厥降以彩寶を王す弄李を り走宮、ろ漢 、に 入敗世 游 反 襲突す、つ、諸ろ陽隆 響厥 。二 。王軍 。に 補 世盟土 。で 走石 。く弁に世。、 貢ろ充 回 譯充

降州の○む求贄し○く城大○に を漢で榮で管○す眞幹○ふ武ろ、十毫 。唐降以、州楊 。を 。陵に。唐 に一等 し に を 抜樊李 。唐州要以、以 殺元才 賊

○同安公主還、十五州田贈、二州を以て來降す。○時德叡、七州を以て來降す。○諸將、尉遲敬德を囚す。○敬德、秦王を釋し、之を臥內に入れ、金を賜ふ。○秦王、世充と戰ふ。○宣陵に單し、敬德を救ふ。○齊王信、千騎を以て來降す。○羅士信、千騎を以て來降す。○高開道、管州を以て來降す。○楊慶、魏陸、榮州を以て來降す。○王要漢、汴州を以て來降す。○李亮、大降を以て來降す。○城樊、長沙を以て來降す。○董景珍、長沙を以て來降す。○突厥の處羅可汗、頡利を立て、許國公の許亳等の十人を降す。○一州の許紹、來降す。○荊門の土豪、許紹を拔く。○鎮の劉世讓、出づ。○門の馮盎、廣州を平ぐ。○新州の馮盎、廣州を平ぐ。

重光大荒落	四、戊子。六、丁亥。七、丙辰。九、乙卯。閏十、甲寅。十二、癸丑。十二の朔。日の冬至。○本志に、八月丙戌朔、翼の四度に食す。
四	胡大恩降る。代州に鎮せしむ。○太子、劉仚成を討つ。○田康、蕭銑を五州・四鎮を取る。○秦王、玄甲鋒隊を置きて前戰ひ、充と葛彥璋を擒に上る。○李靖、蕭銑の十策を取る。
三	世充、唐の秦王と戰ひて敗れ、葛彥璋を亡ぼす。○太子玄應、唐と戰ひ、虎牢に敗る。○秦王世充、青城宮に大敗して、洛陽を圍む。
四	周橋に克ち、孟海公を虜にす。○王世充を救はんとし、酸棗に軍す。○建德、唐に進みて奉皇に成る。○相殷拒ぐ。秋・武に敗ぬ。○石瓚、東に敗ぬ。敬詢を河を濟りぬ。
五	唐の田康、五州四鎮を取る。○唐の趙郡王孝恭・李靖等、銑を擊つ。○文士弘、清江に敗る。○衞の所留宿に銑が兵の殘千數を以て帥ひて戰ぬ。
五	
三	杜伏威、兵を伏し、威を遣洛陽を助け、王世充を擊つ。○雄伏威、子を擊李誕し、誕を長安に通破し、子を執へ、降る。○又聞く、雄誕の人、汪華、遂に、王を殺す。
六	
三月より以後は第一百八十九卷	

可秦さ○倉○に雄○す○てな○歸な○落○てけな○宮王○破玄○もて艦に○
か王人上皮段破信王。河陳謀李る拔段陽秦歩以丘に世秦る艦李。鋭な謂趙
す、と師破操、陽せる仲。き悲な王闘刀で行破光王、で玄圍並すな王恭る な君 虜秦、岡りらに交 宇
。鋭欲師破操、な郎 洛、で玄圍並すな王恭。青大 虜宇、で岡りらに孝
りすな る 坐 来る 逃 ち少。鋭に 虜 宇 で王
で。亞。劉 日單 降。し反 れ誓。で り援馬 城に に王 し以舟恭

稷な し は 德 す ー ひ 泥 ○ る で 虎 ○ る 洛 雄 走 な 秦 ○ す 之 る 僧 倒 ○ 死 た と な 交 ○ む。
来過、な 来。な 民。唐 牢 沈。口 信 る 弄 、 宋 な 世 と し 穂 。し 死 な 交 ○ む。
に き 語 人 り 寶 存 什 な に な 悦 に 等 で 河 で 泣 す 世 し 穂 王 で 克 人 充 懷
王 、 鑿 と 救 建 せ に 食 浮 降 以 敗 、 單 で 陽 王 殺 、 爲 で 、 で 克 人 充 懷

王 秦 ○ に な す 掠 散 で 繕 ○ 歸 て と 齊 ○ せ 唐 に に ○ と か は 祭 日 す り の 將 人 津 坂 で
神 、 馮 る で 其 し 、 せ ど 諮 呂 著 る 洛 遁 に 敗 牛 建 。 ら 遣 酒 は 。 、 歌 、 と に り 上
通 雅 な 安 士 。 唐 地 め 慶 に 以 、 に れ 行 、 。 に 、 諸 大 す 可 言 、 氏 は 受 魏 諮 か 蒲 な

無 暴 頗 銑 き に は 降 逢 人 陷 て 百 な 雲 く ○ る 唐 等 高 ○ 進 見 兵 敗 な 恭 な 攻 陵 進 敗 ひ、
か 掠 は の 著 死 く り に や ら 羅 姓 以 我 、 銑 。 に 皆 士 和 す 敗 之 。 中 其 き 、 城 で 。 大
す く み は す 、 で 出 と 炭 な 、 一 奈 日 降 以 、 殺 に の る に 無 、 は 。 、 者 援 に り 謀 す 恭 文
れ る は 、 唯 べ 當 目 で 。 め に し 、 人 何 は

す○石に兵○秦たき○ふな り敗○皇○入 盆○な 城○で し 州○攻 ん で る ○ す ○
。 蹂 躪 殺 な 王 王 ん で 蕭 。 垂 で 、 郭 に 饗 寇 和 楊 綠 な 程 遥 、 な 劉 く と 之 。 劉 。 武
長 な り 武 、 徒 と 新 鍋 が 以 武 孝 至 建 せ に 義 逞 岡 名 る 果 震 世 。 す な 太 食 宇
遜 雅 、 宇 建 、 徒 欲 安 等 ん で 宇 格 る 德 し 略 無 す し 振 。 な は 讓 。 隋 子 成 來
入 。 殷 の 德 は す な と 建 に ・ 。 も き 等 。 で 、 す ん 、 復 に 譯 成 來
朝 。 秋 重 の 。 保 退 謂 德 課 薛 成 。 で 、 之 孔 し と 治 た せ り 降 降

で 有 れ 蜀 ○ に な 烈 ○ 降 で 州 等 諸 ○ る で 世 に 以 摘 簒 ○ る 元 等 ○ る 。
死 か 、 に 世 降 以 、 魏 る 、 な 三 、 柜 。 田 充 示 で に 建 秦 。 吉 、 楊 。
す す 未 徒 充 る で 裏 王 。 唐 な 十 徐 王 で 泣 す 世 し 德 王 な 齊 公
。 し だ き 、 。 唐 州 以 に 以 八 未 世 降 き 。 充 、 な 、 敗 王 卿

起 郎 ○ 殺 ち 史 貝 ○ と 伍 の し で 闘 し 南 た 懼 高 ふ で 吏 す 盡 び 罠 く ○ す 長 ○ す 撫 推
し 、 徐 す 、 魏 黑 稱 な 爲 、 主 な 、 に 兵 れ 兼 絶 。 之 、 。 、 閥 し 甫 諮 。 使 し
で 兵 。 之 な の 闘 す 報 め 建 と 來 劉 に な 、 費 顯 捕 じ の 爲 の 及 な 多 死 、 爲 安
黑 な 間 な 擊 刺 、 。 少 に 德 爲 じ 黑 起 淫 復 等 ・ 捕 じ の 爲 の 及 な 多 死 、 爲 安

ら で 當 ○ す 之 高 と 此 し 天 く ○ 皆 十 兵 し で ○ む る の 本 ○ と 。
。 唐 南 劉 。 瓢 。 に な 唐 主 故 命 銑 目 る 萬 る 、 日 降 。 な 掠 孝 半
に な 消 降 以 、 殺 に の る に 無 、 は 。 、 者 援 に り 謀 す 恭 文

つ の 以 盡 於 す 之 ち 安
。 地 南 く で 。 な 皆 な
な 嶽 江 伏 是 な 皆 な 擊
有 北 淮 威 に 降 、 擊

の香○ら樂湯鑑○可を獵ふ○る州○る○く州○る○で宋○ぐ宇○る山り黄○
惑腥文すとすに し文け弟を、蘇。を王。賊。を有 曹陸等王 土陽 及公 以姜で、行で、降薪
ろ は謂と。爲す。で謂人ふ惑帝世 以烈 で、烈 相 で、 州 を主、 以依 拒、 降、降薪
所、ふ、 に未旬 足だに帝。ふ肉同謂 降襄 降 叛嘗 降 以依 拒、 降、降薪
な爆、 に未旬 足だに帝。ふ肉同謂 降襄 降 叛嘗 降 以依 拒、 降、降薪
り帝姓

た憶でのれ相に走を李にク黒にひ將○なれ震○す黒き突稱た絶り留遣、
復の蒜間、州洛る弄世逼で國藤で卒建殺、州黒。國、厥し燕ち で め、を
す蒼くに生を州。で勛る宗、す黒、を國 に南に、王、婁、を
。地建し歳陷・逐で城。城進。國爭の。殺陷、 通は附、北と復と因を

た○なを○も棋肉○降○す皆殘○すり な○る。し王○誘以河○を帝孺○ら棋○
以蘇殺以社。皆を李る王。世、す五。、牛犬。、琬遣。簒に王む亦を厥。帥王
で成ふ。服容、に劉世 光 之。萬 を李人 散王を 搶に 建 馬を擄獨 し馬 使む鄭 に青、
死、 哈き勛 は で、 日 で 遣、俘 に殺德 坂に、 を、を 者。元 敗、
す。窮 父、 し罪殺 淹死

請高で民○自ふ玄陷○すし元のる州○る之ひ陽李王唐○す魯○降を孫○す國
ふ、閉、を李殺。酒化寇、州 衆を、毛を州 來を、に、と 通淮國、と朗、に
閉にをし。遣霍發護、。通執李を 降殺趙州陷觀 破に戰饑・安、 帶、 來州元 應

る。○物体破○らり王る、學僧上○敗戰通○に ろ○ヒ藤等○て○ろ州○た○原、李ヒに り文ず、佐、原士ヒ將秦ろ ひ、推下に李、鎚に趙民樂。ヒ盧以在州死女松、娘藤と光の拝女ヒ問と王、死ヒ広に、。ふ、の如藤延ヒ爲、隆道ぐ克軍 可才陣鯔王 藤黒 ヒ。ヒ、に生て道ぐ十りス命謂 人のた かれけて謂。八、旅 隠闘 に と神 東藤 た企 撃ヒ王爲た 組て葦に 以仰陣、寇 ヒ、ろ 陣光。獄。

○た將た○以彦○た島に○た○て○南○ろ通○す王○令○推し○す○に○と 空守ゐ し住て伽徐却、寇突六群孟に劉。寿却王る統隆統。王統 蹠旋王 厩ら て璞反た間く拒す厩揖子せ敬天鳴餐ゆ。世獨た採す、寮 光倦すゆ 世橋 、す、 し、賀、す執朗。き。、す、ら鉢す闘 ヒて倦ヒ。北ろ反。、た開 た燈。、 光た 入。ヒ 州 井ヒ蹠子揖 て蹠 之六州 邊。し 章 鑄元 餐ゆて 殺、 赦 た群 貢 宏 州、城た揖 て蹠 之六州 邊。し 章 鑄元 餐ゆて 殺、 赦 た群 貢 宏

玄默敦牂	三、壬午。六、辛亥。七、庚辰。九、己卯。十一、戊寅の朔。
唐高祖武德五	秦王、相州を拔く。○洺水來降す。王君廓、之に據る。王君廓、邢州を拔く。○秦王、信王、羅士信、代りて洺水を守る。劉黑闥、攻め拔きて之を殺す。○段德操、梁師都を石堡城に破り、勝に乘じて進みて夏州を攻め、其東城に克つ。突厥、之を救ふ。
漢東王劉黑闥天造元	相州を拔く。○李世勣、劉黑闥を擊ち、引き還る。○李世勣、劉黑闥を擊ち、高雅賢・程名振を殺し、遂へて黑闥の饋運を取る。○李義滿の兄の子、王薄を殺す。盛彥師、坐して死す。突厥に賂ふ。突厥復た和親を請ふ。○帝、突厥の使者を釋す。各〻執ふる所の黑闥、王と稱し、洺州に都し、百官を置く。○法を設けて政を行ふは、建德を師とし、勇決は之に過ぐ。○唐の秦王、相州を拔く。○李藝、秦王を助けて黑闥を擊ち、劉十善を徐河に敗る。○洺水叛きて唐に附く。○秦王、邢州を拔く。○李藝、定・欒・廉・趙の四州を拔く。○黑闥、洺水を拔き、羅士信を殺す。○高雅賢、唐の李世勣と戰ひて死す。○程名振、遂へて黑闥の饋運を取る。
梁主師都永隆六	唐の段德操、石堡城に戰ひ、敗走す。德操並みて夏州を攻め、東突厥來り救ふ。乃ち引き去る。
吳王杜伏威	伏威、劉黑闥・徐圓朗の敗を聞き、懼れて入朝す。唐、伏威を以て太子太保と爲し、長安に留む。○李子通、亡げて江東に歸らんこと謀る。田ことを捕へ得て至る。誅せらる。
楚主士弘太平七	蕭銑、兵多く士弘に歸す。士弘、復た振ふ。○張善安、虔吉等の五州を以て唐に降る。○士弘、弟藥師を遣はして州を攻め、略して王、之を南昌に斬る。楊略、戎、之を南昌に降る。士弘以て降る。士弘、亦た安成に降る。復た山洞叛き去る。
	黑闥、李世勣、劉黑闥と戰ひ、敗走す。黑闥、復た地盡く。○秦王、建德の寶を復す。世民に命じて黑闥を討たしむ。○昆明內附す。

有り、憂へて可き非に免るる。○蕭銑、兵を田に戰ふ。李靖謂ふ、悉く之を殺せば、則ち勢急に分れ、死致さば、則ち趙郡王李孝恭に從ひ、其の敗を掠る。靖、之に遂に大舟を乘じ江を破り、圍を得、皆散ず。○劉黑闥、江陵城を拔き、之を江中に投ず。○劉黑闥、逆兵疑ひ、靖に降る。○銑、李靖に死せ者を籍せず。○陝東大行臺の官を定む。○成王李靖、破る。劉黑闥、招撫す。○嶺南を襲ふ。

○謂る事人と盛過す許下○らの数く○敗すに○○○幾○以たるて○に撃○帝敏。〜ゼ爲に先。すは帝れ太すス太送。戦推劉太ど元て受、得。謂和ち封謂と太、ずる し多太に背、ずの宗する宗すむ人に宗。太送る親利せ、燈ス並子共 、。て く 子 太 攻 秦 、 の に 元 建 、 建 子 の 王 、 正 行 令 之 青 成 帝 成 と 致 す に 、 る 秦 個 紀 内 獅 、 孺 す 所 謂 書 生 の と 謂 ら る 日 青 以 と 、 て 教 課 の 交 所 に 、 て と 文 数

て た 攻 ○ ○ ○ ○ る ら ○ ○ る て ○ て の た ○ に ○ 瓜 ○ と ○ た ○ る ○ ○ ○ 上 ○ 尉 ○ ○ る ○ 鐘 ・ 郊 陪 馬 。 推 。 ○ 人 李 荘 、 。 亜 晉 秦 流 黒 州 王 た 李 撃 亜 て 溝 高 に 亜 逝 秦 后 、 弾 た 秦 廃 の 縊 陪 馬 建 緒 こ 子 伐 征 民 ず 王 す 闘 平 幹 課 人 つ 民 通 長 開 破 民 敬 王 和 克 廃 し 王 、 鈴 陪 陽 王 へ と 通 威 聞 推 。 冠 、 り 島 。 ず 眞 道 る 禮 推 ヤ に 世 邊 密 る 。 得 る 、 人 勉 推 民 後 。 智 、 、 易 撃 に 之 奪 朔 せ 義 。 民 に 冬 。 文 て 諜 に 朝 た 冬 厳 攻 馬 打 厳 昌 齊 す 課 。 ○ 人 民 人 す 劉 り 島 。 ○

へらる。復た我が昔日の子に非ずと。○紀嬪、秦王を譖して云ふ、它日必ず妾子母を容るる能はじ。太子の仁孝なるに如かずと。帝、是に由りて、太子を易ふるの意無く、且つ秦王を疎んじ、而して建成・元吉を親む。○王珪・魏徵、太子に勸めて劉黑闥を擊たしむ。○任城王道宗、突厥を破る。○黑闥、田留安を魏州に攻む。○留安、吏民に謂ふ、吾、爾が曹と心を同じくして賊に從ふ。必ず順を棄て逆に欲せば、但だ自ら吾が首を斬りて去れと。○魏徵、太子に說きて、黑闥の囚俘を釋し、以て其黨を散ぜしむ。○太子、黑闥を館陶に敗る。○黑闥走る。○高麗に命じて、隋の戰士を還さしむ。

昭陽協洽	六	諸葛德威、劉黑闥を執へて以て降る。○平陽公主を葬る。軍功を以て鼓吹を加ふ。
	二	黑闥走りて饒陽に至る。諸葛德威、之を執へて以て降る。建成之を斬る。
	七	賀遂・索同、十二州を以て降る。○唐の段德操
		軍中、輔公祏を謂ひて父伯と爲し、長敬すること伏威と等し。伏威、之を忌み、闘
		張善安反す。○唐、張鎭周等を遣はして擊たしむ。○王戎、與に戰ひて、利あら

正、丁丑。四、丙午。	六、八、甲辰。乙巳。十、癸卯。十二、壬寅。	朗を獲、之を殺す。○初めて入貢す。○張善安反す。○段德操、梁師都を擊ち、夏州に至る。○劉世讓、朔に戍して以て朔州を守る。○本志に、十月壬寅の朔、十二月壬寅の朔、十九日に南斗に食す。十七日癸酉、熒惑、鬼を犯す。
		卯、興星を犯す。

○徐圓朗を殺す。○林邑、高昌、高麗、高開道、突厥を以て降る。○張護等、賀若檀廣を殺し、竇伏明を立てて主と爲す。○太子・秦王を遣はし、北邊に屯し、以て突厥に備へしむ。○輔公祏反す。趙郡王孝恭・李靖等、之を討つ。○李孝恭、血を飲みて以て衆を安ず。○太子、師を班す。○竇伏明降る。○明伯雅卒す。○高昌王張大智反す。○渝州の人、突厥を引きて、幽州に寇す。○突厥、反間を縱ちて、劉世讓を殺す。○張大智降る。○馬邑を陷れ、高滿政を殺し、復た馬邑を以て

○徐圓朗、城を棄てて走りて死す。○李藝入朝す。○高開道、突厥を引きて、唐の幽州を侵す。

入寇して夏州に至る。

		移・王雄誕を遣はして其兵權を奪はしむ。公祏、左遊仙と穀祏を辟け道を學ぶ。○職を失はずんば、公祏を爲さん。○伏威、雄誕に謂ふ、吾、汝を誘ひて之を執へらる。公祏、善安、輔公祏と兵を連ぬ。○周法明を刺殺す。○李大亮、善安を執ふ。
		公祏、雄誕、遊仙、兵を擧げて反し、自ら宋帝と稱し、張善安と謀りて、兵を連ぬ。○唐、趙郡王靖等を遣はして孝恭・李靖等、之を討たしむ。

閼逢沮灘	二、辛丑。四、庚子。六、己亥。八、戊辰。十、丁卯。十二、丙寅。の朔。閏七、一日、秋分。○本志に、六月、熒惑、右執法を犯す。七月戊寅、歲、星を犯す。
七	大中正を置く。○高麗、歷を班たんことを請ふ。○詔して一經に明かなる者は皆叙用し、州・縣・鄉、皆學を置く。○帝、國學に幸して釋奠す。○職事・散・勳官名を定む。○趙郡王孝恭、舒州に次し、○李世勣、馮惠亮等の糧道を拔く。○孝恭、馮惠亮等の絕つを謂ふ、石頭を攻むるは○李靖等なり。惠亮は戰はずして田ひ、靖等は如かずと誘ひ、遂に之を破る。惠亮等遁る。勝に乘じて直に丹楊に抵り、○帝、祏を擒にす。○李靖を謂ひて蕭瑀の肯可と爲す。○孝恭、闕稜を殺す。○令を行ふ。○調の法を定む。○均田・新律・租・庸・調の法を
	唐に歸す。○竇靜、幷州に屯田を置かんと請ふ。○張善安、周法明を刺殺す。○李大亮、張善安を誘ひて之を執ふ。
	高開道、自ら、數〻反覆する を以て、敢て降らず。將士、皆、山東の人にして、歸を思ふ。其將張金樹、假子の弓弦を斷ちて之を攻む。開道、置酒して樂を奏し、先づ妻子を殺し、乃ち自殺す。
八	
	○齊王元吉、秦王世民を手刃せんと欲す。○帝、仁智宮に幸す。○太子建成、之を止む。○建成、甲を以て楊文幹に遺る。或ひと「建成、文幹と反を謀る」と告ぐ。○上、建成を召し、之を幕下に置く。○文幹、慶州に據りて反す。○上、世民に命じて之を討たしめ、還らば立てて太子とせんことを許し、建成を蜀に封ぜんといふ。○上、夜、山外數十里に出づ。○元吉、妃嬪・封德彝と更〻建成の爲めに譖解す。上の意遂に變じ、復た建成をして還りて居守せしめ、王珪・韋挺・杜淹を蜀州に流す。○交趾、寧州を陷る。世民、擊ちて之を殺す。○上、都を山南に遷して以て突厥を避けんと欲す。世民自請ふ。數年にして必ず頡利を擒にせんと。○建成、跋馬を以て世民に授く。○突厥入寇す。上、世民を遣はして之を擊たしむ。○韋仁壽、西南夷を撫定し、七州・五縣を置く。○世民、突厥と隋州に遇ふ。百騎を引きて陣前に
杜○亮師出伏公等を祐威正面通に屯以を祐威てて通に屯以を祐威せて通に屯以を祐威て青、通に屯以を祐威し青、通に屯以を祐威し青、通に屯以を祐威林步等してし、薨林步等してし、薨む林步等してし、薨王山騎を博て馮す。破山騎を博て馮す。破り山騎を博て馮す。破り丹陣望舟慧。丹陣望舟慧。公楊し陣望舟慧。公楊、東の屯以し陣望舟慧。公楊、東攻の屯以し陣望舟慧。た悲東攻の屯以し陣望舟慧。た悲孝等、を陣望舟慧。た悲孝等、を陣望舟慧。會祐孝恭、を陣望舟慧。會祐孝恭、を陣望舟慧。左祐孝恭、を陣望舟慧。左祐孝恭、を陣望舟慧。左

詣り、突利を責むるに香火の情無きを以てす。頡利、之を疑ひ、盟を請ひて退く。○裴矩、相と爲る。

旃蒙作噩

二、乙丑。四、甲子。六、癸亥。八、壬戌。十一、辛卯の朔。○本志に、九月癸丑、熒惑に入る。冬、太微に入る。太白、南斗に入る。

唐高祖武德八

○張鎭周、故人と歡飲すること十日。既にして法を犯せば、縱す所無し。○突厥・吐谷渾と互市す。雜畜、野に被る。○西突厥の統葉護、昏を請ふ。裴矩、上に勸めて之を許さしむ。○復た十二軍を置く。○始めて、突厥に與ふる書を改めて詔敕と爲す。○張瓘、突厥と戰ひ、大に太谷に敗る。溫彥博、虜に執へらる。○初めて太府をして權量を校せしむ。○裴矩罷む。○宇文士及、相と爲る。

柔兆閹茂

正、庚寅。三、己丑。五、戊子。六、丁巳。八、丙辰。十二、乙卯

九

○裴寂、司空と爲る。員外郎更直す。○初めて州・縣民間に令して、社稷を祀らしむ。○歐陽・突厥の牙帳を襲はんことを謀り、果さず。○傅弈、佛法を除かんことを請ふ。○弈謂ふ、蕭瑀、空桑に生れず、乃ち父を無みするの數に遵ふと。○僧尼・道士・女冠を沙汰す。○詔して、秦王世民を酖す。上、世民をして洛陽に居らしめんと欲す。建成、齊王元吉と與に、之を建成、太子を譖ず。○裴寂、雅樂を定む。

九月より以後は

○本志に、十月丙辰の朔。氏の七度に食す。○六月己卯、歲・辰、東井に合す。

汨み、行くを果さず。○上、世民を罪せんと欲す。陳叔達諫む。○元吉、世民を殺さんと請ふ。上、許さず。○長孫无忌・房玄齡等、建成を誅せんことを謀る。○尉遲敬德、建成の金を受けず。元吉、敬德を刺さんとす。敬德、門を開きて安臥す。○程知節、世民に謂ふ、羽翼盡きたりと。○建成等、又、杜を譖し、之を逐ふ。○世民、羽・李靖・李世勣に問ふ。皆辭す。○計を李靖・李世勣に問ふ。皆辭す。○建成、元吉に薦めて、世民に代りて突厥を拒がしめ、悉く世民の驍將・精兵を奪ひて之に與ふ。○王晊、建成に告げ、餞行に因りて世民を殺さんと欲す。○建成、先づ發するを俟ちて然る後之を討たんと欲す。○世民、身を草澤に竄れんと請ふ。無忌、相隨ひて去らんと欲す。○敬德、言ふ、勇士八百已に宮に入り、甲を擐し兵を執ると。○元吉云ふ、但だ秦王を除かば、東宮を取ること、掌を反すが如くならんと。○張公謹、龜を投じて曰はく、卜して不吉なるも、庸ぞ已むを得んやと。○世民、敬德を召して房杜の首を取らしむ。敬德、秦王當に天下を有つべしと。○傅弈、世民に奏す、秦王、建成・元吉、臣を殺さんと欲す。世充・建德の爲めに仇を報ゆるに似たりと。○世民、兵を玄武門に伏す。建成・元吉入朝す。世民、之を射殺す。○馮立、薛萬徹・謝叔方と、宮府の兵を帥ゐて門を攻む。○馮君弘、戰死す。○敬德、建成・元吉の首を以て之に示す。宮府の兵皆潰ゆ。○敬德、世民を遣はして、入りて宿衞せしむ。○蕭瑀等、上に勸めて、秦王を處するに、元良を以てし、之に國務を委ねしむ。○宇文士及、內外に宣敕し、秦王の處分を受けしむ。○世民、跪きて乳を吮ふ。○諸將、建成・元吉を立てて太弟と爲さんことを許す。○詔して、二宮の左右を誅せんと欲す。敬德、固く爭ひて止む。○國事、皆、秦王の處分を取らしむ。○馮立等、自ら出づ。世民、皆、之を釋す。○魏徵を立てて太子と爲す。軍國の庶政、悉く太子の處決に委ね、然る後奏聞せしむ。○又、王珪・韋挺を用ふ。常に建成に勸む、早く世民を除けと。世民引きて詹事主簿と爲す。○竇軌、韋雲起を殺す。

○上、自ら太上皇と號す。
○王君廓、廬江王瑗に說きて反せしめ、而して之を執へ、自ら以て功と爲す。
○高士廉、房玄齡、相と爲る。
○王珪、世民に啓す、赦後、建成・元吉の黨を告捕して、以て功を求むる者は、皆、反坐せんと。
○魏徵、李志安等を縱ち遣る。
○奉雨に遇ひ、囚を縱ちて歸耕せしむ。
○唐臨、位を太子に傳ふ。太宗、位に卽く。
○宮女を出す。
○稽胡劉命成、梁師都に降る。識を信じて之を殺す。部衆多く叛く。乃ち突厥に朝し、之に說きて入寇せしむ。
○突厥の頡利突利、國を擧げて武功に寇す。
○長孫后を立つ。后辭するに、婦人は敢て政事に豫らざるを以てし、竟に對へず。
○上、后と賞罰を議す。
○突厥、進みて渭水の北に至り、執失思力を遣はして入りて見えしむ。上、之を囚ふ。
○房玄齡等六騎と渭水の上に詣り、頡利と語る。突厥、馬より下りて羅拜す。
○上曰はく、朕獨り出でて之を輕んずるを示し、兵を嚴にして以て必ず戰ふを示す。彼、其本國を失ひて必ず懼れん。故に與に戰はば則ち克ち、與に和せば則ち固からんと。頡利果して和を請ふ。
○上曰はく、吾、戰はずして之に略し、虜をして驕りて備無からしめん。則ち一擧にして取る可からんと。
○上、頡利の羊馬を受けず、掠むる所の戶口を還さしむ。
○上、衞士に敎へて射を習はしめて曰はく、我居れば則ち汝の師と爲り、出づれば則ち汝の將と爲ると。
○房玄齡言ふ、淮安王神通は至親なりと雖も、私恩を以て勳臣と賞を同じくす可からずと。
○上曰はく、朕、卿等と衣食するは、皆、百姓より出づ。官を設くるは、以て民の爲にす。豈に新舊を論じて賢不肖を捨つ可けんやと。
○妖祠・雜占を禁ず。
○弘文館學士を置く。
○太子に海陵の刺王を追諡す。魏徵等、葬を送らんと請ふ。
○隱太子承乾を立つ。
○初めて功臣の實封を定む。
○蕭瑀・陳叔達、相を免ず。
○上、虛しく存恤を爲して其實無きを欲せず。
○宗室の郡王を降して、皆、縣公と爲す。
○上謂ふ、盜を止むるは、稅薄く吏淸きに在り、重法に在らずと。是に由りて、商旅野宿し、路、遺ちたるを拾はず。
○上謂ふ、民を剝して以て君に奉ずるは、猶ほ肉を割きて以て腹を充たすがごとしと。

彊圉大淵獻

二、甲寅。
閏三、癸丑。
四、壬午。
六、辛巳。
八、庚辰。
十一、己酉朔。
一日、小滿。
○李志、閏三月癸丑朔、胃の九度に食す。九月庚戌朔、亢の五度に食す。

唐太宗世民貞觀元

○又謂ふ、人君の患は外より來らず、常に身に由りて出づと。
○饔軌、療を伐たんと請ふ。上、許さず。
○上、封事を屋壁に粘し、田入省覽す。
○封德彝、中男を貌閱せんと欲す。魏徵、敕に署せずして曰はく、道を以て壯健を御すれば足れり。何ぞ必ずしも細弱を取りて以て虛數を增さんやと。且つ謂ふ、上、信を失ふこと數〻なりと。上悅ぶ。
○張玄素、隋を主好みて自ら專らにし、下諛ひ上蔽はる、故に亡べりと。
○張蘊古、大寶箴を上る。
○傅奕に謂ふ、卿、前に幾ど吾が禍を爲さんとせり。然れども天變に遇はば、皆、應に言を盡すこと是なるべしと。
○奕謂ふ、如ふ、邪僻の人、莊老を取り、妖幻を飾りて、佛敎と爲すと。
○裴矩謂ふ、上、人をして吏に略せしめ、人を法に陷るるは、之を導くに德を以てするに非ずと。
○上謂ふ、文武、時に隨ふと。
○諫官に詔して、閤に入りて事を議せしむ。
○右趾を斷つを改めて、加役・流と爲す。
○上自ら選を大理少卿と爲す。
○胄謂ふ、敕は一時の喜怒に出づ。法は大信を天下に布く所以なりと。
○上、封德彝に謂ふ、治を致す者、豈に賢を異代に借らんやと。
○杜淹謂ふ、德彝が言ふ所、大體を得。臣、心服す。敢て復た爭はずと。
○李藝、涇州に反し、孫順德は、襲ひて豳州に據る。順德の性有り。絹を得るは、刑を受くるよりも甚だしと。
○州縣を併省して、分ちて十道と爲す。部將楊岌、之を攻む。藝走り死す。
○弓矢を識ること猶ほ未だ盡さず。況んや天下の務をやと。
○長樂王、左右の暴橫なるに坐し、死を賜ふ。
○苑君璋、突厥より來降す。
○或るひと、上に勸む、陽り怒りて以て佞直を辨ぜよと。上曰はく、君自ら詐を爲さば、何を以て臣の直を責めんやと。
○蕭瑀・封德彝、相と爲る。
○上謂ふ、之を取るは或は逆を以て得可し。而して之を守るは、順ならざる可からずと。
○長孫无忌、相と爲る。

○長孫皇后、兄无忌が政を執るを願はず。
○无忌謂ふ、突厥、塞を犯さざるに、信を弃て民を勞するは、王者の師に非ずと。
○高士廉、封德彝、安州に出づ。
○宇文士及、龍を求め、杜淹、相と爲る。
○王君廓、淹に謂ふ、煬帝の諫む可からざるを知らば、何爲れぞ其朝に立ちしかと。
○魏徵、淹に奔らんと欲し、至らずして道に死す。
○徵表、馮盎が反せざるを明かにす。上、爲めに兵を龍め、使を遣はして之を慰撫せしむ。
○蕭瑀、免ぜらるる。
○李孝常、反を謀り、誅せらる。
○長孫后、安樂を爲めに、命を請ふ。
○溫彥博、魏徵が形迹を存せざるを責む。徵曰はく、臣、良臣と爲るを願ふ。忠臣と爲るを願はずと。
○上、諫を求め、羣臣に假すに辭色を以てして曰はく、君既に國を失はば、臣豈に能く獨り全からんやと。
○上、奉府の舊兵を以て宿衞せしめず。曰はく、利を同じくす、故に民、勞して而も怨みず。秦は人を勞して以て己を利す、故に民怨みて叛けりと。乃ち奢靡を禁じ、而して民、富庶なり。
○上、中書門下を召して互に相駁せしめ、一人の顏情に徇ひて兆民の深害を爲す勿れと。
○上、房玄齡等を戒むるに、至公を以てす。大辟を通議せしむ。又、三品以上は、引き過ぎしめず。
○崔仁師、反者を案ず。皆、甘心して死を請ふ。
○孫伏伽、騎射を諫む。
○劉林甫、四時聽を選せんと請ふ。
○赤縣初めて省人を差はし、唐官を省き、勒して選に赴かしむ。
○房玄齡、官を省き、文武六百員を留む。
○李百藥、復た駕と雖も、人終に恨みずと。
○張行成、藥を獨に有に非ずと。
○天子は陛下を以て家と爲す。當に東西を以て異を爲すべからずと。
○薛延陀、諸部に叛く。突厥に入りて會獵す。
○突厥、元帝の亡び、雪州を知る。
○上曰はく、突厥は必ず罪有るを待ちて乃ち之を討たんと。

卷の十九

唐太宗貞觀二

著雍困敦

○戊寅。
二、丁丑。
四、丙午。
五、乙巳。
七、甲戌。
八、癸卯。
十一、○本志に、三月戊申朔、婁の十一度に食す。

○長孫无忌謂ふ、人主兼聽すれば則ち明かにして、偏信すれば則ち暗しと。
○魏徵謂ふ、隋の文帝、倉儲を惜みて、末年、五十年を支ふるに足る。煬帝、之を恃みて、上は自ら言

○○○

○突厥の欲谷設來降し、伊吾入朝す。張儉、思結を安集す。
○上、隴州に幸す。
○侯君集、相と爲る。
○上、明堂を讀み、囚の背を笞たず。
○魏徵、西域を招延するを諫む。
○王珪、房玄齡等を品藻するを諫む。
○魏徵謂ふ、亂を經たるの民は、化し易しと。
○又謂ふ、若し人をして斷獄せしめば、則ち今や鬼魅と爲らんと。
○死刑謂ふ、二十九人を斷獄す。上、封德彝を見しめざるを恨む。
○上謂ふ、煬帝、甲兵足らざるに非ず、卒に天下を亡ふと。
○又謂ふ、煬帝の齊王に於けるよりも勝ると。
○肆葉護、莫賀咄可汗を殺して之に代る。

重光單閼

三、庚申。
五、己未。
七、戊午。
九、丁巳。
十一、丙辰。
○魏徵、諸州の京觀を剗す。
○華人の突厥に沒する者八萬口を贖ふ。
○張蘊古を殺す。
○魏徵、萬紀・李仁發を信任するを諫む。
○戴胄、洛陽宮を修むるを諫む。
○竇璆、宮を修めて華靡なるに坐して、官を免ぜらる。
○執矢思力、鹿を逐ふを諫む。
○魏徵、李百藥・顏師古・封倫を議す。
○詔して、刺史を世襲するを議せしむ。
○新羅の女樂を受けず。
○倭國入貢す。
○李世民、南方十六州を開く。
○詔して死罪は三日五覆せしむ。
○上謂ふ、政を執りて諫を受くる能はずんば、安んぞ能く人を諫めんと。
○康國謂ふ、內附す。
○魏徵謂ふ、國を治むるは、病を治むるが如しと。魏徵曰はく、唯だ陛下が安に居て危を思ふを喜ぶと。
○馮盎言ふ、煬帝、盜二千餘人を殺す、唯だ五人のみ實に盜を爲すと。
○新羅王眞平卒す。女善德立つ。
○高麗、靺鞨を破る。

玄黓執徐

正、乙卯。
三、甲寅。
六、癸未。
八、壬午。
九、辛巳。
十一、庚辰。
○朔。閏八月、九、一日、霜降。
○本志に、正月乙卯朔、虛の九度に食す。

昭陽大荒落

正、己卯。

六

上謂ふ、漢文、封禪せず、豈に秦皇に如かざらんや。何ぞ必ずしも泰山に登りて數尺の土を封ぜんやと。
○魏徵謂ふ、今日封禪するは、隋亂の後を承け、供頓未だ易からず。又、戎狄をして山東の虛弱を知らしめん。
○姚思廉、虛名を崇びて實害を受けんと。
○馬周謂ふ、九成宮に幸するを諫む。長孫后、之を賞す。
○上、皇尚ほ暑中に留まり、陛下獨り涼處に居ると。上、長孫后、之を怨む。
○馬を調する者、應に官爵を受くべからずと。
○魏徵、公主を資を怒る。張公謹を哭するに辰日を避けず。
○魏徵、三師の官を置く。
○魏徵、公主に倍するを諫む。長孫后、之を賀す。
○上、魏徵を賚し、積路を開かんことを請ふ。高昌、之を怨む。
○馬貢入す。
○煬帝、頡利を侍みて亡を致せるを以て、戒と爲す。
○肆葉護、敗れ死す。西突厥、泥孰を立て、咄陸可汗と爲す。
○葉護、執を立て、槪ち應ぜずして曰はく、敢て面從せずと。上曰はく、人は言ふ、魏徵は疎なりと。我は更に媚なるを覺ゆと。
○魏徵、上に言へば、從はず。
○慶世南、聖德論を上る。上曰はく、卿未だ其終を知らずと。
○上、慶善宮に幸して詩を賦す。
○尉遲敬德、任城王道宗を歐つ。日幾ど眇す。
○皇の爲めに城州の刺史を捧ぐ。辭して行かず。
○頡利、以て虢州の刺史と爲す。
○契苾何力、來降す。
○陳叔達謂ふ、武德の言は、社稷の計を爲すと。
○魏徵言ふ、營繕・納諫、貞觀の初に異なりと。
○死囚を縱ちて家に還らしむ。
○上、侍臣に謂ふ、宜しく常に朕の爲めに隋の煬帝の亡を念ふべし。朕常に公輩の爲めに龍逢の死を念はんと。
○魏徵謂ふ、太平、人を用ふる、宜しく才行兼ね備はるべしと。

七

更めて破陣樂を名けて、七德舞と曰ふ。
○蕭瑀、劉武周等の敗狀を寫さんと請ふ。上、許さず。
○魏徵、七德の舞を視ず。
○王珪、罷む。

三、戊寅。五、丁丑。八、丙午。十、乙巳。十二、甲辰の朔。

○李淳風、渾天黃道儀を造る。○周籛、留守し、疾篤くして出でず。○死囚、期の如く歸りて罪に卽く。○長孫无忌、司空と爲る。○上、上皇と、未央宮に置酒して謂ふ、漢の高祖は妄に自ら矜大にすと。○于志寧・孔穎達、太子を諫む。上、之を賞す。段綸、傀儡を造る。階を削る。○魏徵謂ふ、上當に諫者に辭色を借すべしと。

閼逢敦牂

二、癸卯。四、壬寅。五、辛未。八、庚子。十一、己巳の朔。○五月辛未の朔、參の七度に食す。

八

○頡利卒す。○諸道蠻陬大使を分遣す。○吐谷渾王伏允、魏徵は一日も左右を離る可からずと。○吐谷渾王伏允、數〻邊に寇す。段志玄等に命じて之を討たしむ。○大明宮を作る。○段志玄、吐谷渾を破る。○李靖、玄位を遜る。○吐谷渾王伏允、數〻邊に寇す。○十一、吐谷渾入貢す。○李靖、自ら、吐谷渾を討たんことを請ふ。○魏徵、鄭仁基の女を納るを諫む。○皇甫德參、罪せんと欲す。魏徵諫めて之を賞せしむ。○高季輔、疏を上る。○西突厥の咄陸卒し、咥利失を立つ。

旃蒙協洽

正、戊辰。三、丁卯。閏四、丙寅。五、乙未。七、甲午。十、癸亥。十一、壬子の朔。五、辛巳。

九

○民費を九等に分つ。○任城王道宗、百姓を斂して以て自ら奉ずるは、主が草を燒きて遁るが如しと。○李靖、吐谷渾を庫山に破る。伏允、草を燒きて遁る。侯君集、勝に乘じて之を追はんと請ふ。○上皇崩ず。○吐谷渾を赤水原に敗る。君集、伏允を烏海に敗る。○契苾何力、薛萬均兄弟を救ふ。○靖、吐谷渾の四境を窮む。○契苾何力、伏允を突川に襲ひ、其妻子を俘にす。○太寧王何倫、國を舉げて降を請ふ。○伏允死す。天柱王を斬る。

順を立てて可汗と爲す。○上始めて政を聽き、太子、細務を決す。○閏四月、丙寅、七廟を山陵の崇侈なるを諫む。○寅、朱子奢、南世を議ず。○十三度に食す。○朔、畢の度、拓跋を立つるを議ず。○上、薛萬均の官を解き、襲ひて以て敗らる。○李道彥、赤を以て契苾何力に授けんと欲す。○且つ、薛萬均兄弟の心有らしめんとすと。○高甑生、反して死を減じて邊に徙さる。上曰はく、功臣の人人法を犯さんことを恐る。○李靖、敢て諫ふ。○靖、門を閉ぢて自ら守り、親戚も妄に見るを得ず。○處月を入貢す。○高祖葬る。○太原には當に廟を立つべからずと。○顏師古、議を以て誘ひ威をもて脅す可からず、眞に社稷の臣なりと。○吐谷渾、羯は利を以て誘ひ威をもて脅す可からず、眞に社稷の臣なりと。○上、諸葛鉢を立つ。○順を殺し、諸葛鉢を立つ。

日、夏至。○本志に、閏四月、丙寅朔、畢の度に食す。○四月、丙午、熒惑、軒轅を犯す。

柔兆涒灘

正、壬辰。三、辛卯。四、庚申。六、己未。八、戊午。十、丁巳の朔。○本志に、四月、癸酉、熒惑、復た軒轅を犯す。

十

○上始めて政を親らす。○諸阿那肹、薛延陀に敗られ、來降す。○上、史那社爾を田して都督と爲す。○王魏泰、歷を頒ち年號を行はんと請ふ。○吐谷渾、諸子は尚ほ復た有る可し、兄弟は復た得可からずと。○楊師道、相と爲る。○魏徵、特進と爲る。○長孫無忌、太子を廢して道に入れんと請ふ。后曰はく、德立たざるを患ふ。器用無きを患へずと。○太子、罪人を赦して曰はく、呂后の地に當る能はずと。○藥を衣に繫けて人を赦やと。○爲さざる所を○后、馬が親を抑退せずして其車馬を戒むるを嫉す。○后、崩ず。房玄齡は慎密なり、弃つ可からず。妾の本宗は、之を權要に處く勿れと。○上、后を哭して云ふ、內、良佐を失ふと。

○上謂ふ、封事を上りて人の細事を訐くは、當に讒人を以て之を罪すべしと。
○段志玄、夜、使者を閉づ。
○上謂ふ、何ぞ必ずしも物、陵中に在りて、乃ち已の有と爲さんと。
○魏徵曰はく、臣謂へらく、陛下、獻陵を望むこと、昭陵の若しと。臣固より之を見ると。
○朱俱波・甘棠、入貢す。
○上曰はく、吾、懼無き能はずと。
○上謂ふ、公卿、魏王泰を輕んずと。魏徵曰はく、隋文、諸子を驕らす、又、法るに足らんやと。
○上謂ふ、法令は數〻變ず可からずと。上曰はく、卿、桓靈を以て我を俟つかと。黜けて家に還らしむ。
○權萬紀、銀三百十四府を置く。
○利を言ふ。

強圉作噩

二、丙辰。
四、乙卯。
六、甲寅。
七、癸未。
八、壬子。
十一、辛巳。

十一

○劉德威、令を頌つ。寬猛は主上に在り、羣臣に在らずと。
○新律、終制を爲る。
○上、豫め儲待を以て官吏を譴むるを諫む。
○魏徵、昔、飯を買ひ僦舍す。今豈に不足を嫌ふを得んやと。又謂ふ、隋の亡ぶるは虞世基・裴蘊が詔・諛蔽するに由ると。
○新禮を行ふ。
○王珪、魏王泰の師と爲り、師道を以て自ら居る。
○本志に、三月丙戌朔、婁の二度に食す。
○二月癸未、熒惑、輿鬼に入る。
○王珪、坐して公主の謁見を受く。
○又、房玄齡等、封禪の儀を草す。
○魏徵、十思を陳す。
○魏徵、安に居りて危を忘るるを諫む。
○溫彥博、精神先づ竭く。
○溫宗室・勳臣を以て世襲の刺史と爲す。
○穀洛、溢れて洛陽宮に入る。
○魏徵、小人を親み君子を疎んずるを諫む。
○上謂ふ、何曾は不忠の大なるものなりと。
○魏徵謂ふ、封事は取る無しと雖も、損する所無しと。
○周營繕の奢侈なる、諸王を寵すること太だ過ぎたる、守令、人を擇ばざるを諫む。
○馬儉謂ふ、上豈に復た雄心を一默に逞しくせんやと。

五月より以後は卷第一百九十五

○柳範謂ふ、房玄齡、畋獵を止むる能はずと。
○武才人、宮に入る。

著雍閹茂

二、庚辰。
四、己卯。
五、戊申。
七、丁未。
八、丙子。
十、乙亥。
一、甲戌。
三、癸酉。
朔、雨。
日、穀。

十二

○王珪・魏徵謂ふ、三品、諸王を見て乘を降るは、禮に非ずと。
○上、高士廉等に命じて、氏族志を撰せしめ、舊望を貶し、今貴を崇ばしむ。
○上、趙元楷が儲侍を飾るを責む。
○堯君素を追賞す。
○上、文章を集めずして曰はく、人主は德政無きを患ふと。
○上、佩刀を以て房魏を賞す。
○魏徵謂ふ、往には未だ治まらざるを以て憂と爲す。故に日に新なりき。今は既に治まるを以て安しと爲す。
○高士廉、世南、虞廉、相と爲る。
○吐蕃、吾を求めて、獲す、吐谷渾を擊破し、松州に入寇す。侯君集に命じて之を擊破せしむ。
○上謂ふ、創業の難きは既に往く。守成の難きは當に諸公と之を愼むべしと。
○薛延陁、疆盛なり。上、其二子を立てて小可汗と爲し、以て其勢を分つ。
○初め屯營、飛騎を置く。
○岑文本謂ふ、馬周、事を論ずる、要を擧げ煩を删り、文を會し理に切に、一字をも增減す可からずと。
○劉玄平謂ふ、霍王元軌は長ずる無しと。
○西突厥、欲谷を立てて、乙毗咄陸可汗と爲し、咄利失と大に戰ひ、其地を中分す。
○高昌、焉者を攻めて、五城を拔く。

屠維大淵獻

二、甲戌。
五、癸卯。
六、壬申。
八、辛未。
九、庚子。
十一、己亥。

十三

○房玄齡、機務を解くを求め、敢て太子の拜に當らず、自ら度支を領す。
○王珪、家を立てず。
○尉遲敬德、衣を袒ぎて金創を出し、帝の女に尙するを願はず。
○初めて令して披庭・東宮に良家の才行を選ばしむ。
○于志寧・馬周、襲封を諫む。世襲の刺史を罷む。
○長孫无忌等、國に之くを願はず。
○高昌王麴文泰、自ら謂ふ、猫、堂に遊べば、鼠、穴に噍すと。上、將に之を討たんとす。薛延陁、軍導を爲さんと請ふ。

の朔。○本志に、八月辛未朔、襄の十四度に食す。五月乙巳、執法癸惑、犯す。六月、東井の北轅を犯す。

○突厥の結社率反して行宮を犯し、四重の幕を踰ゆ。討ちて之を斬る。○魏徵言ふ、上、美業を終ふる能はざる者、凡そ十條と。○侯弘仁、說きて、醜俚二萬八千餘戸を下す。○李思摩を立てて突厥可汗と爲し、遺りて其衆を帥ゐて河北に還らしむ。○上謂ふ、中國根幹にして、四夷は枝葉なりと。○劉洎、相と爲る者、自ら耳目を毀れば、先づ四肢を笞うたしむ。○侯君集を遣はして高昌を討たしむ。○太子、遊畋を以て學を廢す。張玄素諫む。○天下の州府三百五十八。○傅奕、術數を精究し、而も信ぜず。○奕謂ふ、邪は正を干さずと。胡僧、呪する能はず。○西突厥の俟利發、亂を作す。咥利失走り死す。弩失畢、沙鉢羅葉護を立つ。

上章困敦

二、戊辰。五、丁酉。七、丙申。九、乙未。閏十、甲午。十二、癸巳。十一、冬至。

十四

○上、魏王泰の第に幸し、繫囚を赦し、租賦を免じ、同里の老人に賜ふ。○上、國子學に幸し、經を講ずるを觀る。博士に命じて經を授く。○飛騎達に命じて孔穎達を作らしむ。○高麗・吐蕃等、皆、子弟を遣はして入學せしむ。講筵に升る者、八千餘人。○襄城宮を作る。○高昌文泰卒す。子智盛立つ。○君集曰はく、人の間に襲ふは、問罪の師に非ずと。○君集、高昌を滅ぼし、墟墓盛に虜にして以て歸る。○魏徵、高昌を諫む。○魏徵謂ふ、隋の敗るるは、百姓、官吏を陵ぐに由ると。○高昌、東西九千、南北一萬里。○魏徵謂ふ、折衝を殺す。○劉仁軌、獵して敗を妨ぐるを諫む。○仁軌、獵して敗を穫を妨ぐるを諫む。○甲子朔、冬至。○更めて嫂・叔・舅・甥の服を定む。○初めて封禪する許す。○魏徵、給使を以て韋元方を罪するを諫む。○孫伏伽、謂ふ、司農は、大體を識る、罪無しと。○侯君集、獄に下る。岑文本諫めて、免るるを得たり。

○魏徵、薛萬均が高昌の婦女を私するを劾するを諫む。○又疏して言ふ、大臣は當に信じて之に任ずべしと。○又言ふ、戰ひて勝つは易く、勝を守るは難しと。○張玄素、太子を諫む。○玄素、少きとき令史と爲る。上、之を賞す。○孫伏伽、諱を犯すも、刺史を劾する勿れと。○上令す、流外は、其初仕を問ひて之を恥ぢしむ。○魏徵謂ふ、十惡を犯すも、親ら表奏を覽ば、則ち州縣の事も亦當に之を親らすべしと。

重光赤奮若

壬辰。○辛卯。○庚申。○己未。○戊午。

十五

○禄東贊、吾主を以て吐蕃の贊普に妻す。贊普、之が爲めに赭面を禁ず。○文成公主を辭す。○突厥の俟利苾、始めて河を濟り、牙を定襄に建て、北門を守吠せんと請ふ。○上、洛陽に幸す。○高士廉、太子を輔けて國を監す。○衞士、役を憚り、夜、行宮を射る。○襄城宮を罷む。○呂才、陰陽の謬なるを辨ず。○詔して明年二月、泰山に封ぜんと。○百濟王、亂を作し、諸曷鉢、鄭善に奔る。席君買、討ちて之を誅す。○太子承乾、客を遣はして于志寧を刺さしむ。忍びずして止む。○星孛す。○薛頤・褚遂良の言を用ひ、泰山に封ずるを罷む。○逆行して太白、東井の北轅を犯す。○二月、熒惑、相を犯す。○本志に、○朔。○十一、戊午。○朔。○十一、己未。○七、庚申。○四、辛卯。○二、壬辰。

○魏徵、薛萬均が高昌の婦女を私するを劾するを諫む。○又疏して言ふ、大臣は當に信じて之に任ずべしと。○又言ふ、戰ひて勝つは易く、勝を守るは難しと。○張玄素、太子を諫む。○玄素、少きとき令史と爲る。上、之を賞す。○孫伏伽、諱を犯すも、刺史を劾する勿れと。○上令す、流外は、其初仕を問ひて之を恥ぢしむ。○魏徵謂ふ、十惡を犯すも、親ら表奏を覽ば、則ち州縣の事も亦當に之を親らすべしと。

十五

○禄東贊、吾主を以て吐蕃の贊普に妻す。贊普、之が爲めに赭面を禁ず。○文成公主を辭す。○突厥の俟利苾、始めて河を濟り、牙を定襄に建て、北門を守吠せんと請ふ。○上、洛陽に幸す。○高士廉、太子を輔けて國を監す。○衞士、役を憚り、夜、行宮を射る。○襄城宮を罷む。○呂才、陰陽の謬なるを辨ず。○詔して明年二月、泰山に封ぜんと。○百濟王、亂を作し、諸曷鉢、鄭善に奔る。席君買、討ちて之を誅す。○太子承乾、客を遣はして于志寧を刺さしむ。忍びずして止む。○星孛す。○薛頤・褚遂良の言を用ひ、泰山に封ずるを罷む。○逆行して太白、東井の北轅を犯す。○二月、熒惑、相を犯す。○本志に、○朔。○十一、戊午。○朔。○十一、己未。○七、庚申。○四、辛卯。○二、壬辰。

擊たば必ず勝たんと。
○上、長安に還る。
○李世勣、薛延陀を諸眞水に破る。
○上、諫ふ、白刃を冒すと何ぞ異ならんと。
○魏徵謂ふ、房玄齡は何の罪有りて責め、而して何の罪有りて謝するると。
○上、自ら謂ふ、將相の事を兼ぬと。張行成諫む。

玄默攝提格

正、丁巳。
二、丙戌。
五、乙卯。
七、甲寅。
十、癸未。
十二、壬午の朔。
○本志に、五月、太白、畢の左を晦す。九月、犯す。己未、熒惑、太微の西上、將を犯し、丙戌、太微に入り、左執法を犯す。

十六

○魏王泰の月給、太子に踰ゆ。褚遂良諫む。
○上、泰をして武德殿に居らしむ。魏徵、民を徙して西州に實するを諫む。
○浮屠、遊者の籍を附く。
○岑文本、相と爲る。
○隱太子・巢の刺王の爵位を追復す。天下亦之を記すと。
○詔す。太子、庫物を用ふるに、限制を爲す勿れと。
○泊謂ふ、褚遂良、記せざるも、天下亦之を記すと。
○張玄素、殘傷する者を禁ず。太子、馬箠を以て之を擊つ。
○自ら謂ふ、弟子、師を陵ぎ、奴婢、主を忽せにするは、漸、長す可からずと。
○魏徵謂ふ、殿の材を輟め、小を構へしむ。微、堂を諫む。
○當今の急務は、諸王、宜しく定分有るべしと。
○上、褚遂良に命じて、太子・諸王、以て疑論を息む。
○上、魏徵に問ふ。太子の師傅を選ぶ。郭孝恪と爲し、之を敗る。
○乙巳、陸象賢を徙して乙毗射匱を立つ。
○乙毗咄陸、伊州に寇す。
○上、將作少匠宇文士及を遣はして侯人と爲す。
○房玄齡、薛延陀の昏を許さんと請ふ。
○上、部に執へられ、以て薛延陀に降る。何力、耳を割きて自ら誓ふ。上、其の叛かざるを知り、公主を許し、以て之を求む。
○泉蓋蘇文、高麗王武を弑し、其の弟の子藏を立つ。
○上、謂ふ、慶善宮に宴す。
○上、謂ふ、舊を敬し、婦人を敬す。
○上、謂ふ、足れば、則ち皆貴し。人、業を失はざれば則ち皆富む。但だ家給し、少ふ、長管無くして而も樂しと。
○上、謂ふ、喪に因り亂に乘じて、高麗を取るは、之を得と雖も、貴からずと。
○上、赦ふ、弘仁を引きて谷に入り、以て齋闥を避く。席藁、膳を減じて以て天に謝す。

○崔仁師謂ふ、反者は、父子、顧みず。何ぞ兄弟を愛せんと。
○魏徵謂ふ、治君有れば亂臣無し。齊の文宣は楊遵彥を得て纔に亡を救ひしのみと。

昭陽單閼

二、辛巳。
三、庚戌。
五、己酉。
閏六、戊申。
九、丁丑。
十二、丙午の朔。七、一日、處暑。
○本志に、六月、己卯の朔、東井の十六度に食す。
○二月、熒惑、鍵閉を犯し、三月、丁巳、心の前星を守り、癸酉、逆行して鉤鈐を犯す。

十七

○魏徵謂ふ、太子、足を病む、縱使立たざらしむとも、當に嫡孫を立つべし。終に孽を以て宗に代へ窺窬の源を啓かじと。
○上、樞を載す。葬むるに一品の羽儀を以てせんとす。妻裴氏辭して曰はく、亡者の志に非ずと。布車を以て葬むるに一品の羽儀を以てせんとす。
○劉蘭成、反を謀る。坐して腰斬せらる。丘行恭、其心肝を食ふ。上、之を非とす。
○褚遂良、復た諫む。漆器無からんと。上曰はく、帝王、諫を拒む者、多く云ふ、業に已に之を爲すと。亡ぶること無からんと。
○張亮、反を謀る。坐して腰斬せらる。丘行恭、其心肝を食ふ。上、之を非とす。
○遂良、皇子の幼者を都督・刺史と爲すを諫む。
○尉遲敬德、骸骨を乞ふ。上、窮治せず。
○侯君集、反すと告ぐ。
○上、謂ふ、人主は一心有り、之を攻むる者は衆しと。
○功臣萬紀を殺し、齊州に據りて反す。杜行敏、兵を起して討ち、之を降す。
○太子承乾、突厥に奔り、突厥、之を賜ふ。
○魏王泰、好みて節を折り、宮臣諫むれば則ち容を斂めて咎を引く。諫者、拜答するに暇あらず。
○太子承乾、泰を譽を求め、漢王元昌と、戰陳を以て戲と爲す。
○侯君集、反を謀る。滯に宗を奪ふの計を爲す。韋挺・杜楚客、之が爲めに黨を結ぶ。
○紇干承基、之を告ぐ。
○太子承乾、廢を盡すを得ば、則ち善からんと。
○李靖、道宗、陛下に蓋す。
○太子承乾、君集、將に反せんと欲し、天年を盡すを得ば、則ち善からんと。
○褚遂良、謂ふ、遂に魏王泰を譖す。君集等を誅す。
○上、謂ふ、魏王泰、安んぞ背くべきや。其子を殺して位を晉王に傳へんや。必ず魏王を立てんと欲せば、先づ晉王を恐れしむ。上、是に由りて之を惡む。
○上、謂ふ、漢王元昌を以て、乃ち可なりと。晉王を幽し、晉王治を立てて太子と爲す。
○魏王泰、若し投ぜば、刀を措置して、自ら刺さんと欲す。遂に魏王を譖す。臣が術を盡さんことを求むと。
○上、謂ふ、昌の事を以て、晉王を恐れしむ。是に由りて之を惡む。
○上、謂ふ、魏王泰を立てて、庶人と爲し、君集等を誅す。
○上、謂ふ、泰を立てんと欲し、反せんと欲し、天年を盡すを得ば、則ち善からんと。
○上、謂ふ、泰を立てんと欲し、反せんと欲し、天年を盡すを得ば、則ち善からんと。

四月よりの以後は卷第一百九十七

窺何する者は、皆、兩つながら之を弃てんと。○上、長孫无忌謂ふ、天下の至公の道、敢て違はずと。○上、廣公主に謂ふ、須らく剪りて上に賜ふ。○李勣に和し、李藥密に負かず。世勣又李藥に謂ふ、豈に朕に負かんやと。○魏王泰、世勣と密に負かず。其黨を貶す。○太子に命じて東宮に入りて師を迎拜せしむ。○劉洎、懷遠に命じて學問を務め師友に親しましめんと請ふ。○鄧素、懷遠に成して以て高麗に逼らんと請ふ。○上、何物に遇へば則ち太子を訓ふ。○契苾力、薛延陀を敗して親を迎せしめんと請ふ。○薛延陀、雜畜を斂めて聘財と爲す。多く耗死す。詔して其昏を絕つ。褚遂良諫む。○長孫无忌、共に薛延陀を滅ぼさんと。○蘇文、騎縱ならしめて乃ち之を討たんと請ふ。高麗王藏を立つ。○杜正倫、言を漏らすに坐して貶せらる。○魏徵、正倫・侯君集を薦むるに坐し、昏を絕ち碑を仆さる。○上、自ら國史を觀んと欲す。朱子奢諫む。○命じて六月四日の事を直書せしむ。

閻遂執徐

十八

○李大亮、相・恩と爲す。○張蛔、伐たず。○高麗、新羅を攻む。新羅、救を求む。上、相里玄奬をして高麗に語らしむ、兵を戢めずんば、將に爾の國を擊たんとすと。○承乾を擊ぬ。順陽王泰を均州に徙す。上曰はく、朕、泰を念はざるに非ず。社稷の故に、義を以て之を斷ぜざるを得ずと。○封德彝の女を選びて東宮に納る。太子辭す。○上、德彝の官を奪ひ、其諡を改む。○上、太子の仁弱なるを以て、更めて吳王恪を立てんと欲す。長孫无忌諫めて止む。仍ほ恪を戒むるに、燕王旦を以てす。

相里玄奬還りて言ふ、蓋蘇文、新羅を釋すを肯ぜずと。上乃ち之を討たんことを議す。褚遂良諫む。李世勣、行かんことを勸む。○遂良謂ふ、四夷は身外の物なりと。○上謂ふ、高麗、罪有り。今、亡ぼす可きの時たりと。

○上謂ふ、薛萬徹は、大勝するに非ざれば、則ち大敗すと。○長孫无忌謂ふ、陛下は亂を撥ひ、太子は文を守ると。○劉洎、上が英辯を以て言者を折くを諫め、馬周、喜怒を以て賞罰を還すを諫む。○韋挺・張儉等に命じて、先づ遼東を擊たしむ。○上、長孫无忌等の得失を舉げて以て之を戒む。○本志に、岑文本、中書令と爲り、弔を受けて、賀を受けず。○褚遂良、相と爲る。○朔、房の二十○月辛丑、西突厥に武あり。○郭孝恪、之を討ち、其王突騎支を擒にす。○度に食す。○五月、太白・辰、東井に合す。○上、褚遂良、吐屯の使者を捷奏に至るべしと。○上、計る、吐屯、孝恪の捷奏當に吐屯懼れて國に返る。言未だ畢らずして至る。○褚遂良、馬首を以て太子を戒む。○上、蘇文の白金を受くるを諫む。○上、元璹謂ふ、遼東は糧道阻にして、東夷善く城を守ると。○上謂ふ、程名振を遣して、東夷を責む。名振、懼れず。○張亮等に命じて、舟師を以て平壤に趨かしむ。李世勣等、步騎を帥ゐて遼東に趨く。○李承乾・大亮・詔下に終に臨みて、高麗を伐つを諫む。○高麗、賀州に死す。○突厥の衆、侯利苾を弃て、南して河を渡る。上、之を勝・夏の間に處く。○上謂ふ、德澤洽けれども則ち四夷、一家の如くならしむ可く、猜忌多ければ則ち骨肉も讎敵と爲るを免れず。○又謂ふ、今より十五年、突厥の無事なるを保すと。○侯利苾、輕騎、朝に歸す。

##旃蒙大荒落

十九

○韋挺、運糧して期を失するに坐し、名を除かる。○太子に詔して、定州に監國せしむ。○尉遲敬德、高麗を伐つを諫む。○或ひと留臺に詣り、房玄齡反すと告ぐ。上、告ぐる者を腰斬し、玄齡が自ら信ぜざるを責め、專決せしむ。○上、魏の太祖を祭り、「一將の智、餘有り、萬乘の才、足らず」と稱す。

六月より以

六、丁酉。
九、丙寅。
十、乙丑。
○本志に、太白、太微に入り、遂に左執法を犯す。
六月、丙辰、東井に合す。
七月、壬午、太白、東井を度る。

○上、春蔬を進めず、煩擾を懼る。
○太士卒、征名に預らず、私裝を以て軍に從はんと願ふ者、動もすれば千を以て計る。
○高士廉等、戒むるに賞罰を以てす。
○李世勣、玄武門に命じて、太子を輔けしめ、張行成・高季輔を以て相と爲す。長孫无忌等、行に從ふ。
○岑文本、耗竭して趣き、張儉、建安に趣く。
○褚遂良、精神振勵して、江夏王道宗に趣き、新城に趣き、卑沙城を拔く。
○上、之が爲めに夜警を撤す。
○程名振、蓋牟城を拔く。
○李世勣等、遼澤を度る。
○上、前軍當に道を清めて以て乘輿を待つべしと。遂に高麗の兵を遼東城下に敗る。
○江夏王道宗、橋を撤して以て士心を堅くす。
○上、遼水を度り、馬上に於て士を負ふ。
○攻めて遼東を拔く。
○李思摩、靺鞨の兵を以て白巖城を降す。
○契苾何力、曳咥の兵を以て庶はくは將軍に因つて、此一城を贖はんと。
○上、唐の幟を以て李世勣に謂ふ、庶はくは將軍に因つて、此一城を贖はんと。
○契苾何力、曳咥の兵を以て白巖城を降す。
○上、唐の幟を以て李世勣に謂ふ、庶はくは將軍に因つて、此一城を贖はんと。
○上、春蔬を進めず、煩擾を懼る。
○太士卒、征名に預らず、私裝を以て軍に從はんと願ふ者、動もすれば千を以て計る。
○高士廉等、戒むるに賞罰を以てす。長孫无忌等、行に從ふ。
○岑文本、耗竭して趣き、張儉、建安に趣く。
○褚遂良、精神振勵して、江夏王道宗に趣き、新城に趣き、卑沙城を拔く。
○上、之が爲めに夜警を撤す。
○程名振、蓋牟城を拔く。
○李世勣等、遼澤を度る。
○上、前軍當に道を清めて以て乘輿を待つべしと。遂に高麗の兵を遼東城下に敗る。
○江夏王道宗、橋を撤して以て士心を堅くす。
○上、遼水を度り、馬上に於て士を負ふ。
○攻めて遼東を拔く。
○李思摩、靺鞨の兵を以て白巖城を降す

○上、疾を以て政を太子に委ぬ。
○○○上回紇等の酋長、皆、入朝す。
○諸遂良謂ふ、生日奈何ぞ劬勞を忘れて宴樂を爲さんと。
○○○上謂ふ、房玄齡、大罪無し。棄つ可からずと。

強圉協洽　二十一

○○○○高士廉薨ず。長孫无忌伏泣して、上が喪に臨むを諫む。
○○○○敕勒の諸部を分ちて、六府・七州を置く。
○○○○敕勒、六十八驛を置かんと請ふ。之を參天可汗道と謂ふ。北荒悉く平ぐ。
○○○○詔す、來春を以て封禪せんと。
○○○○李世勣・牛進達、高麗を伐つ。
○○○○上謂ふ、禹、民を同じくす。故に勞して而も怨みずと。
○○○○上、風疾を得、翠微宮を終南山に作る。
○○○○燕然都護を置く。
○○○○翠微宮に幸す。
○○○○王師旦、張昌齡・王公治を取らず。其文體輕薄なるを以て、雅道を傷はんことを恐る。
○○○○上謂ふ、五事を以て華夷を懷服すと。
○○○○自ら謂ふ、高麗の敷城を破る。
○○○○李世勣、楊州の都督を領す。
○○○○長孫无忌、在る者を贖ふ。
○○○○中國の人の敕勒に髮を賣はしと。
○○○○房玄齡、李緯は美はしと。
○○○○牛進達、高麗を破る。
○○○○玉華宮を作る。
○○○○積利城に破る。
○○○○阿史那社爾、龜茲を伐つ。

著雍涒灘　二十二

正、壬午。三、辛巳。六、庚戌。八、己酉。十、戊申。十二、丁未。の朔。閏十二。本志に、八月己酉朔、翼の五度に食す。七月乙巳、鎭、東井を守る。閏月辛巳、太白、建星を犯す。

○上、太子に謂ふ、當に古の哲王に法るべし。吾は不善猶ほ多し。法るに足らずと。
○○○○崔仁師、周薨ず。相と爲る。
○○○○新羅王善德、卒す。妹眞德立つ。
○○○○薛萬徹等、高麗を擊つ。
○○○○結骨、俟利發來朝す。絲睛・赤髮、古より未だ中國に通ぜず。
○○○○元正に四夷の朝賀する者、常に數百千人。
○○○○上謂ふ、漢武、兵を窮めて疲弊す。豈に之を綏んずるに德を以てするに若かんやと。盡く編戶と爲さしむ。
○○○○玉華宮を營む。覆ふに茅茨を以てす。費、鉅億を以て計ふ。
○○○○崔仁師、連州に流さる。
○○○○隋の蕭后、卒す。
○○○○徐充容、征伐・營繕を諫む。
○○○○右僕射、松外の諸營を破り、十餘萬戶を降し、西洱道を通ず。
○○○○神感、海に浮びて高麗を破る。
○○○○西突厥の賀魯、數千帳を帥ゐて內屬す。
○○○○王玄策、使を天竺に奉じ、諸國の兵を發して、阿羅那順を擊ち、之を擒にし、城邑・聚落五百餘所を降す。
○○○○上、蕭瑀を諡して貞褊と曰ふ。
○○○○襄城公主、別第を辭す。
○○○○上、再び高麗を征するを議し、劍南に命じて、海船を造らしむ。
○○○○李君羨、讒を以て誅せらる。
○○○○李淳風謂ふ、王者は死せず。徒らに無辜を殺さんと。
○○○○房玄齡、高麗を征するを諫む。
○○○○阿史那社爾、處月・處密を擊ち、之を降す。
○○○○契丹・奚、內屬す。十四州を置く。
○○○○阿史那社爾、龜茲を拔き、其王布失畢・其相那利を虜にし、餘衆を收めて、郭孝恪を攻め、之を殺す。

四月より以後は卷第一百九十九

○曹繼叔等、討ちて那利社爾を擒にし、龜茲王葉護を立てて還る。
○賀魯を立てて沙鉢羅葉護と爲す。
○新羅の相金春秋入見す。

屠維作噩

二十三

正、丙午。
○上、李世勣を黜けて疊州都督と爲し、太子をして之を擢任せしむ。
三、乙巳。
○李靖、薨ず。
五、甲辰。
○太子、疾に侍し、髮、白に變ず。
八、癸酉。
○上、太子に謂ふ、「无忌・遂良在り、汝、天下を憂ふる勿れと。
十、壬申。
○上、翠微宮に崩ず。无忌等、太子をして先づ長安に還らしめ、于志寧を以て相と爲し、乃ち喪を發す。
十二、辛未。
○遺詔を以て、遼東の役及び土木の功を罷む。
の朔、正、二日、雨水。
○高勣、即位す。
○李勣、相と爲る。
○薛萬備、于闐王伏闍信に說きて入朝せしむ。
○阿史那社爾・契苾何力、身を殺して葬に殉ぜんと請ふ。上、許さず。
○唐臨が許敬宗、弘農府君の主を夾室に藏せんと請ふ。敬宗、臨を稱せず。
○濮王泰の處る所、囚、寬を稱せず。
○吐蕃の弄贊、長孫无忌に書を與へて云ふ、「臣下、忠ならざる者有り、當に兵を勒して除討すべしと。
詔して、府を開き僚屬を置かしむ。

上章閹茂

唐高宗治永徽元

○王后を立つ。
○日に刺史十人を引きて、民事を問ふ。
○或ひと、長孫无忌反すと告ぐ。立ちどころに之を斬る。
二、庚午。
○无忌と、褚遂良と心を同じくして政を輔け、上、已に恭しくして以て聽く。故に永徽は、貞觀の遺風有り。
四、己巳。
○于志寧、謂ふ、「豈に例に隨ひて改む可けんやと。
六、戊辰。
○吐番の弄贊、卒し、其孫立つ。國事、祿東贊に決す。
十、丙寅。
○高侃、鼻を擒にす。
八、丁卯。
○龜茲大亂る。故の王布失畢を遣りて國に歸らしむ。
○突厥を分ちて、二都護・十都督・二十二州と爲す。
○谷那律謂ふ、「瓦を油衣と爲さば則ち漏らじと。

二、己丑、
○褚遂良出でて同州の刺史と爲る。
熒惑、東井に入る。
○東井、四月を犯し、月、己巳を犯す。
七月、辛酉、鬼と輿柳に合す。
太白、歲・太白、

重光大淵獻

正、乙未。
三、甲午。
五、癸巳。
七、壬辰。
九、辛卯。
十、庚寅。
十二、己丑。
の朔。閏九月。
十月、二日、小雪。
○本志に、太白、太微に入り、右執法を犯し、九月甲午、心の前星を犯す。

二

○宇文節・柳奭、相と爲る。
○阿史那賀魯、衆を帥ゐて西に走り、乙毗射匱并に其衆を擊ち、自ら沙鉢羅可汗と稱す。西突厥の十姓及び西域の諸國、皆、之に附く。勝兵數十萬あり。
○焉耆王突騎支を遣りて國に歸らしむ。
○膝王元嬰、不法多し。上、下上考と書して以て之を愧ぢしむ。
○元嬰及び將王惲に麻・兩車を賜ふ。梁建方等を遣はして之を討たしむ。
○沙鉢羅、庭州に寇す。
○引駕、羅、盜を爲す。蕭鈞謂ふ、「法、死に至らずと。
○新律令式を頒つ。
○長孫无忌謂ふ、「小小、人情を收取するは、恐らくは陛下も亦免るる能はざらんと。
○鷹・隼・犬・馬を獻ずるを禁ず。
○趙孝祖、白水蠶を破り、逆みて小大勃弄を擊つ。

玄默困敦

二、戊子。五、丁巳。七、丙辰。九、乙卯。十一、甲寅

三

○梁建方等、處月の朱邪孤注を破り、之を擒にす。
○褚遂良復た相と爲る。
○上、韓瑗、相と爲る。
○崔敦禮、趙孝祖、小大勃弄を破る。西南夷遂に定まる。
○薛延陀の餘衆を河南に遷す。
○柳奭、王后に勸めて太子忠を立てしむ。
○見戸三百八十萬。
○來濟、相と爲る。
○吐谷渾の弘化公主來朝す。
○濮王泰、均州に薨ず。

昭陽赤奮若

正、癸丑。

四

○房遺愛・薛萬徹・柴令武、反を謀るに坐して誅せらる。
○長孫无忌、吳王恪の才望を忌み、荆王元景・高陽巴陵公主と、皆、死を賜ふ。
○宇文節、嶺表に流さる。
○林邑の伽獨、其王眞龍を弑し、范氏を滅ぼす。國人、諸葛地を立てて王と爲す。

三、壬子。五、辛亥。八、庚辰。十、己卯。十二、戊寅の朔。

○張行成薨ず。
○睦州の女子陳碩眞反す。崔義玄、討ちて之を斬る。
○崔敦禮、相と爲る。
○高季輔薨ず。
○西突厥の乙毗咄陸卒し、子眞珠立ち、沙鉢羅と相攻む。

閼逢攝提格

二、丁丑。四、丙子。閏五、乙亥。七、甲戌。九、癸酉。十二、壬寅の朔。六、一日、大暑。

五

○王后、武昭儀を薦め、以て蕭淑妃の寵を間す。昭儀大に幸せられ、后及び淑妃の寵、皆衰ふ。
○大食、擊ちて波斯王伊嗣侯を殺す。其子卑路斯、吐火羅に奔る。吐火羅、之を納る。
○山水、萬年宮を犯す。薛仁貴、門桃に登りて大に呼ぶ。上驚きて走り出づ。
○新羅の女王金眞德卒す。其弟春秋を立つ。
○柳奭、政事を寵む。
○上、五品以上の、事を言はざるを責む。
○長安の外郭を築く。
○上、薛景宣を赦し、以て言路を開く。
○高麗、契丹を攻め、新城に敗る。
○王后、上の左右に禮せず。武昭儀、后の薄くする所の者を視て、深く之に結ぶ。故に后の動靜皆之を知る。
○昭儀自ら其女を殺し、以て后を誣ふ。
○上、長孫无忌の第に幸し、金帛十車を賜ひ、武昭儀を立てんと欲す。昭儀の母數〻祈請す。許敬宗、之を勸む。
○无忌、皆、從はず。

旃蒙單閼

二、辛丑。四、庚子。六、己亥。八、戊戌。十、丁酉。

六

○高麗・百濟、新羅を擊ち、三十三城を取る。
○程名振等、新羅を貴端水に擊ち、之を破る。
○韓瑗・來濟、宸妃を立つるを諫む。
○長孫无忌、李義府を惡み、出して壁州の司馬と爲す。王德儉、義府をして武昭儀を立つるを表請せしむ。擢でて中書侍郎と爲す。
○裴行儉謂ふ、國家の禍は、必ず此に由りて始まらんと。
○上、武昭儀を立つるを議す。褚遂良曰はく、武氏、先帝に事ふるを經たり。天下の耳目、安んぞ蔽ふ可けんやと。因りて笏を殿階に置き、叩頭して血を流す。

十月より以後は卷

十二、丙申の朔。

○本志に、七月乙亥、田舍公、十斛の麥有れば、倘ほ婦を易へんと欲すと。

○許敬宗謂ふ、陛下の家事なり。何ぞ外人に問はんと。上の意乃ち決す。

○褚遂良を貶して潭州の都督と爲す。

○王后及び蕭淑妃を廢す。

○武后を立つ。

○武后、王后・韓瑗・來濟を賞せんと請ふ。瑗・濟愈〻懼る。

○許敬宗、太子忠を廢して皇后の子弘を立てんと請ふ。

○使を遣はして西突厥の頡苾達度設を立てて可汗と爲す。沙鉢羅、之を拒み、立つを果さず。

○李義府、相と爲る。人謂ふ、義府は笑中に刀有りと。亦、之を李猫と謂ふ。

柔兆執徐

二、乙未。

○來濟謂ふ、人を養ふは、征役を省くに在りと。

五、甲子。

○初めて高祖・太宗を以て圓丘・明堂に配す。

七、癸亥。

○崔敦禮、薨ず。

十九、壬戌。

○程知節、西突厥を擊ち、之を破る。

十一、辛酉。

○突厥の爲めに殺す。王義方、之を彈ず。

○義府の爲めに自殺す。

○畢正義、李義方、西突厥を撃ち、之を破る。王文度、其功を疾み、騎士をして陣を結びて行かしめ、且つ節制を專らにす。

○蘇定方、西突厥を撃ち、婆川に敗る。

○本志に、定方、程知節に之を斬らんことを勸む。從はず。文度、又、桓篤胡を殺し、其賊を取る。定方曰はく、褚遂良の爲めに、此乃ち自ら賊を爲すのみと。

○太白、東井・北轅を犯す。

○劉洎の子、父の冤を訟ふ。樂彥瑋曰はく、若し洎の罪を雪がば、則ち先帝が刑を用ふること當らずと謂ふかと。

顯慶元

太子忠を以て梁王と爲し、太子弘を立つ。

○杜正倫、相と爲る。

○初めて圓丘・明堂に配す。

強圉大荒落

二

○蘇定方及び阿史那彌射步眞を遣はして、沙鉢羅を擊たしむ。

○初めて隔日に事を視る。

正、庚申。

二、己未。

○上、婆羅門の術士を留めずして謂ふ、果して不死の人有らば、今、皆、安にか在ると。

四、戊午。

○許敬宗・李義府、韓瑗・來濟を誣ひて云ふ、褚遂良と反を謀ると。皆、嶺南の刺史に貶す。

○遂良、表して舊功を陳す。上、省みず。

七、丁亥。

○南郊、明堂、五帝を祀らず。北郊、神州・地祇を祭らず。

九、丙戌。

○許敬宗、相と爲る。

十一、乙酉の朔。閏正。

○蘇定方、西突厥を破り、沙鉢羅を擒にす。

○阿史那彌射步眞を立てて、興昔亡・繼往絕可汗と爲す。

二、一日、春分。

○僧尼、洛陽宮を以て東都と爲す。

○劉祥道、父母の拜を受くるを禁ず。

○選法を陳す。

著雍敦牂

三

正、甲申。

○許敬宗等が修する所の新禮を行ふ。

三、癸未。

○龜茲王布失畢卒す。其子素稽を立つ。

五、壬午。

○安西都護を龜茲に徙す。

七、辛巳。

○程名振等、高麗を擊ち、赤烽を拔く。

○李義府・杜正倫、相と爲る。上兩つながら之を責め、皆貶す。

九、庚辰。

○阿史那賀魯、昭陵の前に死せんことを請ふ。

十二、己酉の朔。

○西突厥の地を分ちて、六都督府と爲す。

○辛茂將、相と爲る。

○尉遲敬德、延年の術を學び、清商の樂を奏し、以て自ら奉養す。

○褚遂良卒す。

屠維協洽

四

二、戊申。

○唐臨、私を挾みて選授するに坐して、官を免ぜらる。

四、丁未。

○西突厥の興昔亡、眞珠と戰ひ、眞珠を殺す。

六、丙午。

○許圉師、相と爲る。

○李奉節、韋季方の朋黨するを告ぐ。許敬宗、之を鞫し、因りて長孫无忌反を謀ると誣ふ。上竟に引問せず、无忌を黔州に徙し、遂に于志寧の官を免じ、柳奭・韓瑗の名を除く。

八、乙巳。

○任雅相・盧承慶、相と爲る。

十、甲辰。十一、癸卯の朔。閏十。十一、一日、冬至。

○趙持滿を誅す。
○更めて姓氏錄を修め、后の族を以て首と爲す。
○封禪を議し、高祖・太宗を以て、竝に天に配す。
○使を遣はして、重れて長孫无忌を鞫せしめ、逼りて自殺せしめ、柳奭を象州に誅す。
○李義府を復た入りて相と爲る。
○石米等の國を以て州縣と爲す。
○太子、元服を加ふ。
○詔して、王・李・盧・崔・鄭は、昏を爲すを得ざらしむ。
○初めて東都に幸す。蘇定方を遣はして之を討たしむ。
○思結の都曼反す。

上章 沮灘

正、壬寅。四、辛未。六、庚午。八、己巳。十、戊辰。十二、丁卯の朔。○本志に、六月庚午朔、□の五度に食す。○二月甲午、熒惑、斗に入り、六月戊申、復た南に犯す。是案之するに

五

○蘇定方、思結に克ち、都曼を虜にして以て歸る。
○上、蘇定方を遣はし、新羅と共に百濟を擊たしむ。
○上、幷州に幸す。
○合璧宮を作る。
○東都に還る。
○阿史德樞密等に命じて、叛奚を討たしめ、降し、遂に契丹を討ち、阿卜固を擒にす。
○梁忠廢して庶人と爲し、黔州に徙す。
○盧承慶王を免ぜらる。
○吐蕃、渾を擊つ。
○蘇定方、百濟に克ち、其王義慈を虜にし、其地を分ちて五都督と爲す。
○鄭仁泰、思結等の四部を擊ち、之を破る。
○風眩に苦しみ、初めて皇后を立てて百司の奏事を決せしむ。
○許州に幸し、尋ぎて東都に還る。
○上、何力等を遣はして高麗を擊たしむ。
○契苾

月、戊申無し。疑ふらくは誤なならん。

重光 作噩

二、丙寅。四、乙丑。七、甲午。九、癸巳。十一、壬辰の朔。○本志に、五月甲子朔。東井の二十七度に食す。○九月癸卯、太白、執法を犯す。左を犯す。

龍朔元

○道琛・福信、劉仁願を百濟府に圍み、故の王の子豐を立てて王と爲す。劉仁軌、之を救ひ、唐曆及び廟諱を請ひて行く。百濟退きて任存城を保ち、新羅の將金欽を敗る。
○任雅等三十五軍に命じて、高麗を擊たしむ。
○上、高麗を征せんと欲す。皇后表諫して止む。
○西域諸國を親督して、都督八・州七十六を置く。
○新羅、蘇定方、平壤を圍む。
○春秋、卒し、子法敏立つ。
○上、王を見て之を逐ふ。
○王勃の檄雞文を撥して水に破る。
○契苾何力、高麗の男生を鴨綠に破る。
○回紇の婆閏、高麗の男生を比栗毒、諸敕勒と、邊を犯す。鄭仁泰等に命じて之を討たしむ。

玄默 閹茂

正、辛卯。三、庚寅。五、己丑。七、戊子。

二

○百官の名を改む。
○任雅相、薛蕭・高麗と戰ひ、其子十三人を幷せて皆死す。
○薛仁貴、三箭を解きて還る。
○蘇定方、圍を解きて天山を定む。
○鄭仁泰等、敕勒を討ち、降胡を殺掠し、深く入りて功無く、士卒の死する者、什に八九。楊德裔、之

八月より以後

八、丁亥。十一、丙辰の朔。閏七。八、二日、秋分。○本志に、七月己丑、熒惑、羽林を守る。

○契苾、何力、九姓を撫諭す。上、問はず。東都より、京師に還る。皆、降を請ふ。

○蓬萊宮を作る。○上、劉仁軌に命じて、熊津を棄てて歸らしむ。興り、高麗、劉願・制し難からんと。便宜を守り、詔を奉ぜず。○百濟王豐、襲ひて福信を殺す。益さんと請ふ。上、之に從ふ。○初めて令して八品・九品の衣は碧とす。

○詔す、四年を以て泰山を封ぜんと。○許國師に封すること。○官儀、相と爲る。

○泰山に往くと。○來蘇海政、西突厥、繼絶と興に興亡を殺す。是に由りて、西突厥叛きて吐蕃に歸す。

昭陽大淵獻

正、乙卯。五、甲寅。七、壬子。十九、辛亥。庚戌。

三

○李義府、徙りて蓬萊宮に居る。○吐谷渾、吐蕃、遣はして、涼州に屯し、以て吐蕃に備へしめ、璽書を降して之を責讓す。○孫仁師に詔して、劉仁願・劉仁軌を助けて百濟を討たしむ。○諸將、加林城を攻めて其巢穴を破らんと請ふ。○大食、波斯を滅す。○高麗、高藏、弓月を擊つ。勝兵四十餘萬。諸胡を吞滅す。

○南北を分ちて、官を置き、雲中・瀚海都護と爲す。○上、詔に對して不遜なるに坐して、嶲州に流さる。○黑齒常之、沙吒相如、樂三萬を率ひ、百濟の二百餘城を復す。○常之、重吒、樂を降す。仁軌、任存を取らしめ、仍ほ糧仗を以て之に資して曰はく、二人、皆信く義を今と與にす。是れ其の感激して効を立つるの時なり。疑を用ひざるなりと。○敦義を遣はし、百濟遂に定まる。○上、仁軌、劉仁願に詔して、而も能く忠を盡くし、仁願節制を秉りて、而して能く賢を推す。皆、官儀稱す。

入る。

閼逢困敦

麟德元

○君子なりと。○太子に詔して、小事を決せしむ。○大食、諸胡を吞滅す。勝兵四十餘萬。

殷、己酉。正、己酉。四、戊寅。六、丁丑。八、丙子。十、乙亥。十二、甲戌の朔。

○旭輪を以て單于大都護と爲す。○邱孝協、贓に坐して死す。上曰はく、苟くも百姓を害せば、太子と雖も、赦さじと。○詔す、三年を以て泰山に封ぜんと。○劉仁軌言ふ、顯慶五年以來、國家、戰士を恤まず、以て功を成し難しと。○武后、專恣なり。上動もすれば制せらる。上官儀と、之を廢せんことを謀る。后知りて自ら訴ふ。上、羞縮して止め、因りて罪を儀に歸す。后、許敬宗をして、儀、故の太子忠と大逆を謀ると誣ひしむ。○儀は坐して誅せられ、忠は死を賜ふ。是より、政、中宮に歸し、上、手を拱くのみ。中外、二聖と稱す。○樂彥瑋・孫處約、相と爲る。

旃蒙赤奮若

二

閏三、壬申。五、辛未。八、庚子。十、己亥。十二、戊戌の朔。小滿。一日、○本志に、閏三月癸酉、胃の九

○上、合璧宮に幸す。○李勣、謂ふ、上の爲す所盡く善し。群臣、得て諫むる無しと。○姜恪、相と爲る。○上、東都に幸す。○弓月・吐蕃、于闐を侵す。崔知辯等に命じて之を救はしむ。○陸敦信、相と爲る。樂彥瑋・孫處約罷む。○初めて麟德曆を行ふ。○劉仁軌、新羅王法敏及び扶餘隆に熊津に盟ふ。○皇后、皇地祇を助祭せんと請ふ。○天、茵擧・韋欝を以てし、藁秸・陶匏に代ふ。○郊廟に初めて慶善・破陳の二舞を用ふ。○上、東都を發す、華夷の衞從數百里。

度に食す。○三月戊午、熒惑、東井を犯し、四月壬寅、輿鬼に入り、質星を犯す。

○米、斗ごとに五錢、麥豆、市に列せず。○許敬宗、帝丘を對ふ。寶德玄曰はく、吾は强ひて對ふるに知らざる所を以てせずと。○張公藝、九世同居し、忍字百餘を書す。○上、泰山に至る。

柔兆攝提格

李淳風の麟德曆を用ふ。

二、丁酉。五、丙寅。七、乙丑。八、甲午。十、癸巳。十二、壬辰。○本志に、八月乙巳、熒惑、東井に入る。

乾封元

○上、泰山に封じ、社首に禪す。○李義府卒す。○上、老君に亳州に謁し、玄元皇帝と追尊し、京師に還る。○陸敦信龍む。○乾封泉寶錢を鑄る。○泉蓋蘇文卒し、子男生、之に代る。弟男建・男産、之と相攻む。男生來りて救を求む。契苾何力等を遣はして之を救はしむ。○劉仁軌、相と爲り、袁異式を恨みず。○武后、其兄元・允爽を逐ひ、其從兄惟良・懷運を殺し、其嫂を棘鞭し、骨を見はして死す。○劉祥道、薨す。○李勣等を遣はして高麗を擊たしむ。○杜懷恭謂ふ、勣、我を以て法を立てんと欲するのみと。

强圉單閼

二

上、藉田に耕し、耒耜の彫飾したる者を去り、耕すこと九推。○乾封泉寶錢を鑄む。

三、辛酉。六、庚寅。八、己丑。九、戊午。十一、丁巳。閏十二、丙辰の朔。○本志に、八月己丑朔、翼の六度に食す。

○生羌十二州を廢す。○楊安期謂ふ、公卿、賢を薦むれば、讒者已に之を朋黨と謂ふと。○張弘武・趙文璀・戴至德・張文璀・趙仁本、相と爲る。○李安期、荆州に出づ。○四夷を征するを諫む。○上、以て、太子に命じて國を監せしむ。○李勣、疾を以て、新城を拔く。○薛仁貴、高麗を破り、南蘇等の三城を拔く。○郭待封、離合の詩を以て、糧仗を求む。○元萬頃、高麗に檄して、其の鴨綠を守らざるを誚む。○郝處俊、胡床に據りて乾糒を食ふ。○昊天・五帝を明堂に合祀す。

著雍執徐

李勣・薛仁貴、扶餘城を拔く。○賈言忠謂ふ、先帝、高麗を征して克たざりしは、未だ釁あらざりければなりと。○詔して明堂の制度を定む。○許敬宗謂ふ、拜、東北に見はる。高麗將に滅びんとすと。上曰はく、高麗も亦朕の百姓なりと。○李勣、姚州に流さる。○劉仁願、平壤に克ち、高麗王藏及び泉男建等を虜にす。○郝處俊、婆羅門の藥を餌するを諫む。○李勣、凱還す。高麗を分ちて九都督府・四十二州と爲し、薛仁貴を以て、安東都護と爲し、之を鎭撫せしむ。○太子、征遼の亡卒の家を籍沒するを諫む。○劉延祐が獨り人の右に出づるを戒む。○閻立本、相と爲る。

屠維大荒落

二

李敬玄、相と爲る。○盧承慶、考を判して三たび改む。

正。庚辰。
三、己卯。
五、戊寅。
七、丁丑。
十、丙午の
○朔。本志に、六月戊申朔、東井の二十九度に食す。

○郝處俊、相と爲る。
○詔して明堂の制度を定め、陰陽に法象す。立つるを果さず。
○高麗の三萬餘戸を江淮及び山南、京西に徙す。
○來公敏、涼州に幸するを諫む。
○詔して、吐谷渾を徙して、涼州の南山に就かしむ。議、決せずして止む。
○李勣謂ふ、脩短は期有り、豈に能く醫工に就きて活を求めんやと。
○勣、弟弼に謂ふ、子孫に、志氣不倫、非類に交遊するものあらば、先づ櫫殺し、乃ち奏聞せよと。
○勣、薨す。
○勣、將を選ぶに必ず相の豐厚なる者を嘗りて之を遣はす。
○勣曰はく、久しく姊の爲めに弼を煑んと欲すと雖も、其れ得可けんやと。
○勣自ら謂ふ、年二十にして大將と爲り、兵を用ひて以て人の死を救ふと。
○裴行儉、選法を定む。

上章敦牂

咸亨元

正、乙亥。
二、甲辰。
四、癸卯。
六、壬寅。
八、辛丑。
十、庚午の朔。閏九。
十月、一日、小雪。本志に、六月壬寅、朔、東井の十八度に食す。
○七月壬申、熒惑、

○劉仁軌罷む。
○徐齊聃、突厥の子弟を以て東宮に事へしむるを諫む。
○吐蕃、西域の十八州を陷る。西安等の四鎮を罷む。
○薛仁貴等に命じて吐蕃を討たしむ。
○高麗の劍牟岑反し、安舜を立てて主と爲す。高侃等に命じて之を討たしむ。安舜、劍牟岑を殺し、新羅に奔る。
○郭待封、薛仁貴と叶はず、其策を用ひず。吐蕃の論欽陵と戰ひ、大に大非川に敗る。
○楊氏卒す。九品以上をして宅に詣りて哭せしむ。
○皇后の母、早を避けんと請ふ。
○姜恪に命じて、兵を將ゐて、吐蕃を禦がしむ。
○趙仁本罷む。
○官名を舊に復す。

東井に入り、十二月、丙子、太微に入る。

卷の第二十

重光協洽　正、己亥。二、戊辰。四、丁卯。五、丙申。七、乙未。十、甲子の朔。○本志に、十一月甲午朔、箕の九度に食す。○四月戊辰、熒惑復た微垣を犯す。

唐高宗咸亨二

上、東都に幸す。○阿史那都支に命じて、五咄陸の衆を安集せしむ。○賀蘭敏之を嶺南に流す。○高侃、高麗を安市城に破る。○上、許汝に幸す。

玄黓涒灘　二、癸亥。四、壬戌。五、辛卯。六、庚申。

三

梁積壽、叛蠻を討つ。○吐谷渾を靈州に徙す。故地、皆、吐蕃に入る。○姜恪薨ず。○仲琮言ふ、吐蕃の議事、常に下よりして起ると。○表思古、主福時、許敬宗を謚して繆と曰ふ。○上、京師に還る。

八、己未。十、戊午の朔。○本志に、十一月戊子の朔、尾の十度に食す。

○高侃、高麗を白水に敗る。新羅、高麗を救ふ。侃、擊ちて之を破る。
○劉仁軌、相と爲る。○邢文偉、膳を撤して太子を諫む。○王及善、鄉倒するを肯ぜず。

昭陽作噩

二、丁巳。四、丙辰。閏五、乙卯。六、甲申。八、癸未。十、壬午の朔。六、一日、大暑。

四

○劉仁軌等に命じて、許敬宗の國史を刊補せしむ。
○李瑾行、高麗を瓠蘆河に破る。○閻立本薨ず。
○蕭嗣業、弓月・疎勒を討つ。弓月・疎勒入朝す。其罪を赦して遣り還す。

閼逢閹茂

二、辛巳。四、庚辰。六、己卯。七、戊申。九、丁未。十一、丙午の朔。

上元元

○劉仁軌等、新羅を討ち、金仁問を立てて其王と爲す。
○武承嗣を嶺南より召す。○祖宗の謚號を追尊す。上は天皇と稱し、皇后は天后と稱す。
○九品以上七等の服色を定む。○長孫无忌の官爵を追復す。○郝處俊・長孫晟・褚・周二王をして晉樂を主りて朋を分ち勝を角べしむるを諫む。
○上、東都に幸す。○「蔣王惲、反を謀る」と告ぐ。自殺す。○或るひと、天后請ふ、擧人、老子を習ひ、父在せば母の爲めに服すること三年、京官の祿を增さんと。

○本志に、三月辛亥朔、婁の十三度に食す。○六月壬寅、太白、東井に入る。

○劉曉、選曹が書判を以て士を取るを論ず。○又論ず、禮部、文章を用ひて甲乙を爲し、朝に甲科に登り夕に刑辟に陷る有り。日に萬言を誦するも、何ぞ理體に關せん。文、七步に成るも、未だ人を化するに足らずと。

旃蒙大淵獻

二、乙亥。五、甲辰。七、癸卯。八、壬申。十、辛未。十二、庚午の朔。○本志に、正月甲寅、熒惑、房を犯す。

二

○吐蕃來りて和を請ふ。許さず。
○劉仁軌、新羅を七重城に破る。新羅王法敏、罪を謝す。仁問還る。
○上、天后をして政を攝せしめんと欲す。赦處俊・李義琰諫めて止む。
○北門學士、時政を參決す。○韋機、宦者を杖つ。上、之を賞す。
○天后、周王の妃趙氏を廢して、之を幽殺し、常樂公主を括州に斥く。
○太子、義陽・豈城の二公主を嫁せしめんと請ふ。
○太子賢、薨ず。追尊して孝敬皇帝と爲す。
○雍王を立てて太子と爲す。○杞王上金を州に徙す。
○劉仁軌、美言を以て訴者に許す。戴至德、理に據りて難詰し、而して密に奏辨を爲す。
○嫗、至德を謂ひて事を解せざる僕射と爲す。
○大理の囚、張文瓘が官を改めらるると聞き、皆慟哭す。

柔兆困敦

二、己巳。四、戊戌。六、丁酉。

儀鳳元

○安東都護を遼東に徙す。
○詔す、嵩岳に封ぜんと。
○吐蕃來恒・薛元超、相と爲る。○來・歙・廓・河・芳等の州に寇す。
○中嶽に封するを罷む。

八、丙申。十、乙未。十二、甲午の朔。閏三。四、一日、小滿。○本志に、正月丁卯、太白、牽牛を犯す。

○李義琰・高知周、相と爲る。○吐蕃、疊州に寇す。○桂廣交、黔、選補し、初めて使を遣はす。○狄仁傑、誤りて陵柏を斫る者を誅するを諫む。○邠王素節、鄱陽に降封し、袁州に徙さる。○改元し、赦す。

強圉赤奮若

二、癸巳。四、壬辰。七、辛酉。九、庚申。十一、己未の朔。○本志に、八月辛亥、軒轅の左角を犯す。

二

上、藉田に耕す。○高藏・扶餘隆を遣りて各〻其國に歸りて餘衆を安輯せしめ、安東都護を新城に徙して以て之を統べしむ。○既にして果さず。○張大安、相と爲る。○劉思立、使を遣はして賑給するを諫む。○吐蕃、扶州に寇す。○周王を徙して英王と爲し、名を哲と更む。○詔して顯慶禮を廢す。是より、禮官益〻憑守無し。

著雍攝提格

二、戊子。三、丁巳。

三

百官、天后に朝す。○劉仁軌、李敬玄が洮河に鎮せんことを請ひ、以て之を陷る。○上、改元す。九成宮に幸す。從兵、凍死する者有り。

五、丙辰。七、乙卯。十、甲申。閏十一、癸未の朔。十二、一日、大寒。○本志に、十月戊寅、熒惑、鈎鈐を犯す。○案ずるに、是月、戊寅無し。凝ふらくは誤なならん。

○復た破陳樂を奏す。○張文瓘、疾を興して、新羅を討つを諫め、尋ぎて薨ず。○李敬玄、吐蕃と戰ひ、西海に敗れ、劉審禮、陷沒す。○魏元忠、上疏して、吐蕃を禦ぐの策を陳す。○來恒薨ず。○通乾の年號を罷む。

屠維單閼

正、壬午。三、辛巳。五、庚辰。六、己酉。九、戊寅。十二、丁未の朔。○本志に、四月戊午、熒惑、羽林に入り、七月辛巳、天囷に入る。

調露元

上、東都に幸す。○韋機、上陽宮を作りて壯麗なり。狄仁傑、勅奏す。官を免ぜらる。○仁傑、王本位を劾して謂ふ、上何ぞ罪人を惜みて以て王法を虧くかと。○戴至德、薨ず。○吐蕃の贊普卒し、子器弩悉弄立つ。上、裴行儉に命じて間に乘じて之を圖らしむ。行儉曰はく、彼の大臣、輯睦す。未だ圖る可からざるなりと。○盜、明崇儼を殺す。○太子、國を監す。○紫桂宮を作る。○裴行儉、波斯王泥涅師が國に還るを送らんと請ふ。○詔す、今冬、嵩山に封ぜんと。○行儉、道、西突厥に出で、便宜を以て阿史那都支及び李遮匐を討つ。行儉陽りて遊獵を爲し、募りて諸胡の子弟を得、萬人に近し。都支・遮匐を擒にして以て歸る。○北突厥の阿史德溫傅・奉職反し、浞熟匐を立てて可汗と爲す。二十四州、皆、之に應ず。蕭嗣業等、之を討ちて大に敗る。

○○○霍王元軌、門を開きて突厥を待ち、叛黨を窮めず。
○○○將に遣はして井陘關を出せしめ、以て突厥に備ふ。
○○○高嵩を封して龍門に屯せしめ、
○○○裴智周を封して龍門に屯せしめ、以て突厥に備ふ。
○○○裴行儉に命じて、兵三十餘萬を將ゐて突厥を討たしむ。

上章執徐

二、丙午。
四、乙巳。
五、甲戌。
七、癸酉。
九、壬申の朔。

○本志に、十一月壬申朔、尾の十六度に食す。

○五月癸未、熒惑、輿鬼を犯す。

永隆元

○○○行儉、突厥を黑山に破り、奉職を擒にし、泥熟匐を斬る。
○○○行儉、壯士を糧車に伏し、以て突厥を詐る。
○○○上、紫桂宮に幸す。
○○○裴炎・崔知溫・王德眞、相と爲る。
○○○吐蕃、河源に寇す。黑齒常之、擊ちて之を却く。常之、河源に鎭し、斥候を遠くし屯田を廣くす。
○○○吐蕃、安戎城に陷る。西汗の諸蠻、皆、之に降る。吐蕃盡く諸羌の地に據る、方萬餘里。
○○○李敬玄、衡州に貶せらる。明崇儼、密に言ふ、賢、承繼するに堪へず。
○○○宮中、太子賢は天后の姊の生む所たりと疑ふ。賢疑ひ懼る。
○○○天后疑ふ。賢、之を殺す。乃ち「賢、反を謀る」と誣ひ、廢して庶人と爲す。
○○○英王哲を立てて太子と爲す。
○○○劉訥言、諸を集を獻ずるに坐して、振州に流さる。
○○○高眞行、其子を刺し、陸州に貶せらる。
○○○李義琰、泣して咎を引く。
○○○王德眞、滯を刺し、陸州に貶せらる。
○○○曹王明、零陵王に降封し、黔州に徙さる。
○○○文成公主、吐蕃に薨ず。

重光大荒落

正、辛未。

開耀元

○○○袁利貞、命婦を宣政殿に宴し及び九部の伎を引きて正門より入らしむるを諫む。
○○○袁諒謂ふ、世〻忠貞に篤くして、方に名家と爲すと。
○○○突厥の伏念自ら可汗と稱し、溫傳と兵を連れて寇を爲す。裴行儉等に命じて之を討たしむ。

三、庚午。
五、己巳。
六、戊戌。
閏七、丁酉。
九、丙申の朔。八、一日、秋分。

○本志に、十月丙寅朔、尾の四度に食す。

○○○天后表す、杞王上金・鄱陽王素節を赦さんと。
○○○郝處俊、龍む。唐家、馬糞を賣るは、嘉名に非ずと。
○○○劉仁軌謂ふ、和を約して還る。
○○○曹僧奪、伏念と戰ひ、橫水に敗れ、
○○○黑齒常之、論贊婆を非良川に破る。太平公主、薛紹に適く。
○○○薛克構・薛頲、公主の寵盛なるを以て、懼と爲す。
○○○夏州、馬十八萬餘四を喪ふ。
○○○蔣儼が諫めざるを責む。
○○○太子賢、國を監す。
○○○裴行儉、伏念・溫傳を離間し、程務挺等を遣はして、虛に乘じて伏念を金牙山に襲はしむ。
○○○細沙を保つ。行儉、又、務挺等をして之を襲はしむ。伏念窘急し、溫傳を執へて以て降る。
○○○裴炎、裴行儉の功を疾み、并せて伏念及び溫傳を斬る。
○○○新羅王法敏卒す。
故の太子賢を巴州に徙す。

玄默敦牂

乙未。
甲午。
三、癸巳。
五、壬戌。
六、辛酉。
八、庚寅。
九、己未。
十二、

○本志に、四月甲子朔、畢の五度に食す。
○十月庚申朔、房の三

永淳元

萬全宮を作る。
皇太孫照を立つ。王方慶奏す、師傅等の官を置かんと。
○○○西突厥の車薄反す。
○○○上、關中饑うるを以て、東都に幸す。
○○○魏元忠、盜をして盜を禁ぜしむ。
○○○裴行儉薨ず。
○○○行儉謂ふ、王勮・蘇味道、必ず銓衡を掌らん。王楊盧駱、終を全くせば幸と爲すと。
○○○王方翼、馬腦盤を碎く者を罪せず。
○○○上、方翼の車薄を討ち、之を平ぐ。
○○○初め、方翼の功を美とし、廢后の近親なるを以て、用ひず。
○○○魏玄同・郭正一・郭待舉等を以て平章事と爲す。
○○○倩・郭正一・魏玄同、選事を論ず。
○○○兩京、水旱あり、人相食む。
○○○李善感、奉天宮を作るを諫む。時人、之を鳳、朝陽に鳴くと謂ふ。
○○○蘇良嗣、宦者を囚へ、竹を移すを諫む。
○○○謝祐通、零陵王明を殺す。

度に食す。○五月丁巳、辰、軒轅を犯す。九月戊戌、鬼、熒惑、輿鬼に入り、質星を犯し、十二月乙未、鬼を犯し、復た去りて復た來る。是を勾巳と謂ふ。

○薛元超、太子の遊畋するを諫む。
○吐蕃、柘松・翼州に寇す。李孝逸等を遣はして之を禦がしむ。
○劉景先、相と爲る。
○突厥の阿史那骨篤祿・阿史德元珍等反す。薛仁貴、擊ちて之を破る。
○妻帥德、吐蕃を河源に破る。

昭陽協洽

四、戊午。
六、丙戌。
七、丁巳。
九、乙酉。
十、甲寅の朔。

弘道元

上、奉天宮に幸す。
○突厥、定州・爲州に寇す。
○骨篤祿、單于府を圍む。
○李義琰致仕す。
○崔知溫薨ず。
○上、東都に還る。
○白鐵余反す。程務挺、討ちて之を平ぐ。
○骨篤祿、蔚州に寇す。
○唐休璟、豐州は廢す可からずと。
○詔ふ、嵩山に封ぜんと。
○薛元超、來年、嵩山に封ぜんと。
○上、奉天宮に召して東都に赴かしむ。
○太子を籠む。
○嵩山に封ずるを籠む。
○天后、上の疾愈ゆるを欲せず、奉鳴鶴を斬らんと欲す。

○程務挺に命じて、骨篤祿を討たしむ。
○太子、國を監す。
○上、東都に還る。
○上、崩ず。遺詔して、軍國の大事は兼ねて天后の進止を取らしむ。
○太子、即位す。太后、朝に臨みて政を攝す。
○裴炎、政事堂を中書に遷す。郭正一罷む。

閼逢涒灘

二、癸丑。
四、壬子。
六、辛巳。
七、庚戌。
九、己酉。
十一、戊申の朔。閏五。
六、一日、大暑。

唐則天后曌光宅元

○韋后を立つ。
○韋弘敏、相と爲る。
○中宗謂ふ、我、天下を以て、韋玄貞に與ふるも、何ぞ不可ならんと。裴炎、以て太后に白す。帝を廢して廬陵王と爲し、豫王旦を立てて帝と爲す。別殿に居り、預る所有るを得ず。
○劉后を立つ。
○飛騎、坊曲に飲み、惡言有り。坐未だ散ぜざるに、皆之を捕へ誅す。
○成器を立つ。
○太子重照を廢す。
○劉仁軌、呂氏を引きて以て太后を戒む。太后、武承嗣をして之を慰勞せしむ。
○丘神勣をして、故の太子賢を巴州に殺さしむ。
○王德眞・劉禕之、相と爲る。
○神勣を貶して疊州の刺史と爲す。
○盧陵王を均州に遷す。
○高宗の靈駕、西に還る。
○武承嗣、相と爲る。
○路元叡、崑崙に殺さる。
○骨篤祿等、朔州に寇す。
○高宗を葬る。
○馮元常言ふ、中宮の權太だ重しと。
○又謂ふ、瑞石は詔詐なりと。
○武承嗣、罷む。
○旗幟を改めて金色に從ふ。
○百官の名を改む。
○裴炎、武氏を追王するを諫む。是に由りて罪を獲。